

2021 年度言語研修

Intensive Language

Course 2021

「ムンダ語」
研修テキスト

“Munda”
Textbook



ムンダ語

夏期言語研修ムンダ語教本

長田俊樹・Madhu Purti

Course in Mundari

OSADA Toshiki & Madhu Purti

東京外国語大学
アジア・アフリカ言語文化研究所

2022



Contents

1	まえがき	2
第Ⅰ部	ムンダ語基本情報	5
1	ムンダ語：話者人口・方言・分類	7
2	ムンダ語の音韻体系と表記	10
第Ⅱ部	基本会話編	17
1	ジョアル	19
2	これなあに？	20
3	この人はだれですか？	22
4	あなたの名前はなんですか？	24
5	あなたの家はどこにありますか？	27
6	あなたのお父さんは家にいますか？	29
7	あなたは本をもっていますか？	32
8	わたしは日本人です	34
9	この家は大きい	36
10	いま何時ですか	38
11	あなたはどこへ行きますか？	40
12	あなたはなにをしていますか？	42
13	食事は誰が作りますか	44
14	あなたはいつランチに行きますか	46
第Ⅲ部	文法編	49
1	名詞の性と数	51
2	名詞と後置詞	53
3	指示詞	54
4	疑問詞	57
5	不定詞	58
6	文の基本構造	60
7	動詞の基本構造	61

8	自動詞と他動詞	63
9	主語と目的語	65
10	派生動詞語幹（1）受身形	67
11	派生動詞語幹（2）再帰形	68
12	派生動詞語幹（3）相互形	69
13	派生動詞語幹（4）部分反復形	70
14	派生動詞語幹（5）受益者形	71
15	派生動詞語幹（6）使役形	72
16	アスペクト標識（1）-a- と -ja-	73
17	アスペクト標識（2）-ke- と -le-	75
18	アスペクト標識（3）-ta- と -aka-	77
19	時制とアスペクト	79
20	命令法	80
21	願望法	82
22	経験動詞と経験者目的語構文	83
23	複合動詞構文	85
24	動詞強調辞	87
25	動詞反復構文	88
26	関係節	89
27	複文 -re, -redo 構文	91
28	複文 ci 構文	92
29	複文 mente 構文	93
30	接続詞	94
31	形容詞	95
32	数詞	97
33	感嘆詞と呼びかけ	99
34	助詞 do	101
35	助詞 ge	102
36	その他の助詞	103
37	擬態語・擬音語 (expressive)	104

第 IV 部	ムンダ語語彙集	107
1	ムンダ＝日本語語彙集	109
2	日本語＝ムンダ語語彙集	137
3	付録：ムンダ語の動植物語彙	162



本書を故ラーム・ダヤル・ムンダ先生に捧げます

1 まえがき

この本は東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所が主催する夏期言語研修『ムンダ語』のために用意された教科書です。じつは、言語研修でムンダ語をおこなうのは2001年以来二度目です。そのときに作成した教科書の構成を踏襲していますが、内容はかなり更新されております。

なぜムンダ語を学ぶようになったのか、自己紹介を兼ねて述べておきます。

1978年1月、生まれてはじめてインドに行きました。早いもので、あれから40年以上が経ってしまいました。その前年、ランチャー大学のサーハイ博士が北海道のアイヌコタンに来たのが縁で、ランチャー大学の人類学科のフィールド調査に同行することになりました。われわれ北海道大学探検部は海外調査地を探していたので、渡りに船とランチャーに行く案が急浮上したわけです。

そのフィールド調査で出向いたのは、ビルホルという狩猟採集民のところでした。狩猟採集民と聞くと、人跡未踏の地に住んでいるものと勝手に思い込んでいましたが、ビルホル人のところは車も走り、彼らはテープレコーダーやカメラも知っていました。文明という便利さを得たものはすべて文明を享受するものだと思っていましたので、世の中の潮流に乗りきれない落ちこぼれにとっては本当に衝撃でした。この衝撃から理学部地質鉱物学科から文学部言語学科に転部して、ビルホルの言語と系統関係を持つムンダ諸語を学ぶことにしました。

ビルホル語とムンダ語はお互いに通じるほど近い言語です。ビルホル語は消滅の危機に瀕する言語で、2011年の国勢調査によると5,950人です。それに対して、ムンダ語の話者人口は100万人以上を誇ります。そこで、ムンダ語を学ぶようになりました。とくに、ムンダ人のヒーロー、アメリカのシカゴ大学で博士号を取得し、ミネソタ大学で准教授を務めていたラーム・ダヤル・ムンダ先生がランチャー大学に新設された地域部族言語学科の学科長として、ランチャーに帰ってきたことで、留学を決意しました。1984年7月にランチャーのムンダ先生の家の下宿しながら、留学生活を始めました。

ランチャーでムンダ人と結婚し、現地で娘も生まれましたが、娘には清潔な生活をさせたいという思いから、1990年10月に帰国しました。帰国後、幸いにも、友人が用意してくれた高校の非常勤講師を勤め、1992年10月からは国際日本文化研究センター（日文研）に採用されました。2003年10月からは総合地球環境学研究所（地球研）に採用され、2012年9月、任期切れのため地球研を退職し、今日に至ります。

これまで私が研究してきたことも書いておきます。ムンダ語については英語で書くことを課してきましたが、その分、ムンダ文化のさまざまな面については日本語で書きました。ここで長田が日本語で書いた、ムンダ関係のものを紹介しておきます。

1. 長田俊樹(1992)「ムンダ人の人名について」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』第74号:29-32頁。
2. 長田俊樹(1992)「ムンダ人の挨拶考」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』第76号:1-4頁+33頁。
3. 長田俊樹(1993)「ムンダ人の音楽と舞踊について」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』第78号:1-5頁+10頁。

4. 長田俊樹(1993)「ムンダ民族誌ノート(1)―序説―」『日本研究』第9集:264-231頁。
5. 長田俊樹(1995)『日文研叢書8 ムンダ人の農耕文化と食事文化:民族言語学的考察―インド文化・稲作文化・照葉樹林文化―』国際日本文化研究センター。186頁。
6. 長田俊樹(1996)「ムンダ民族誌ノート(2)―農耕民・狩猟採集民・職人―」『日本研究』第14集:282-256頁。
7. 長田俊樹(1997)「ムンダ語族比較言語学研究序論」『日本研究』第16集:288-267頁。
8. 長田俊樹(1999)「ムンダ民族誌ノート(3)―稲作文化・畑作文化・複合生業論―」『日本研究』第19集:412-388頁。
9. 長田俊樹(2000)『日文研叢書21 ムンダ人の農耕儀礼:アジア比較稲作文化論序説―インド・東南アジア・日本―』国際日本文化研究センター。260頁。
10. 長田俊樹/ネイサン・バデノック編(2019)『ムンダ語擬態語擬音語辞典』東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所。298頁。

このうちの1~3.は本講習にも関連します。名前や挨拶は基本会話篇で学びます。ムンダ語読本で取り上げている、ムンダ語テキストの多くは歌を伴います。そこで、歌や踊りについても説明しておりますので、そちらをご覧ください。また、10.は教本に説明が出ていますし、この擬態語擬音語が入った歌も読本に収録しています。なお、言語研修受講者にはファイルをお配りいたします。

上記のうち、日文研から出版している『日本研究』や『日文研叢書』は以下のサイトからダウンロードできます。ご関心のある方は、ダウンロードしていただければ幸いです。

<http://publications.nichibun.ac.jp/pc1/ja/>

日本では、教師は専門分野の研究を伸ばすことを推奨します。つまり、言語学専攻ならば、ムンダ語の言語学的研究だけに専心することが望まれます。しかし、わたしは言語学だけにとどまらず、いろんなことに興味があり、ムンダ人の文化についても書いてきました。あげくの果てには、インダス文明の研究にまで手を出しました。たぶん、今の学生がこんなことをしていたら、指導教官にいらまれてしまいます。しかし、わたしは日文研や地球研といった研究所勤務で、直接怒られることがありませんでした。好き勝手な研究を続けることができたのはラッキーでした。これも友人たちの協力があつたからこそです。この場を借りて、感謝申し上げます。

謝辞:前回の言語研修用教科書を改善するために、以下の方々からご提案がありました。とくに、小林教授には草稿をチェックしていただきました。名をあげて感謝申し上げます。

1. Nathan Badenoch (前京都大学准教授。現ヴィラノーヴァ大学准教授)
2. Nishaant Choksi (インド工科大学ガンディーナガル校准教授)
3. 小林正人 (東京大学教授)

また、この本は編集ソフト XeLaTeX を使用して作成されていますが、そのソースは高島淳 AA 研名誉教授が準備してくださったものです。感謝申し上げます。

なお、本書は科学研究費基盤研究(B)『ムンダ諸語における危機言語のドキュメンテーション』(2018年度~2021年度。研究課題番号18H00672)による研究成果の一部です。

第 I 部

ムンダ語基本情報

1 ムンダ語:話者人口・方言・分類

ムンダ語 (Mundari) はインド共和国のジャールカンド州を中心として、隣接するオディシャ州や西ベンガル州、チャッティスガル州に分布します。話者人口は 2011 年国勢調査によると、Mundari 1,128,228 です。しかし、Munda として 505,922 が同じ国勢調査に、登録されています。この英語による Mundari と Munda の言語名はよく混同されて使用されていますが、実際には同じ言語をさしています。したがって、ムンダ語の話者人口は 150 万人をこえます。

なお、言語学では Mundari はこの夏期言語研修で学ぶ個別言語ムンダ語をさし、Munda は系統を同じくするムンダ諸語、あるいはムンダ語族をさします。ただし、後者については、Mundarian とか、Mundic とか、あるいは最近では使われることが少なくなりましたが、Kol とか、Kolarian とか、いった名称が使われる (あるいは使われた) こともありますので、注意しましょう。とくに、Kol や Kolarian という名称はもともと「豚」という意味からきた蔑称なので、その点は気をつけてください。また、日本語では、前者をムンダーリー語という呼び方もありますが、ムンダ人は自分たちの言語を *hoṛo jagar* 「人間の言葉」とか、*muṇḍa jagar* 「ムンダの言葉」といいますので、わたしはムンダ語とよんでいます。さらに、ヒンディー語の मुण्डा、転写では *muṇḍā* から、ムンダーと最後をのばす表記も多いのですが、ムンダ語には長短母音の区別がありませんので、わたしはムンダと表記します。

ムンダ語には、つぎのような四つの方言があります。

1. ハサダ方言 ジャールカンド州の州都ラーンチー市から、ほぼ南に向かって、チャーイバーサー市まで走る、ラーンチー=チャーイバーサー道路の東側で話されています。これまでのムンダ語研究は、ほとんどこの方言を扱っています。今回の言語研修でもこの方言を学びます。
2. ナグリ方言 うえであげた道路の西側で話されています。ハサダ方言との大きな相違点は、閉鎖音に、息を思いきり外に出すように発音する有気音 *ph, bh, th, dh, ṭh, ḍh, ch, jh, kh, gh* がみられることです。この有気閉鎖音はインド諸言語に一般的にみられるものですが、日本語にはないために、日本人は苦勞する発音です。しかし、ハサダ方言にはみられないので、発音的には、ハサダ方言の方が学習しやすいと思います。
3. タマル方言 ラーンチー市から、鉄の町で知られるジャムシェドプル市にいたる国道沿いにひろがるパーンチ・パルガニア地方で話される方言です。タマル方言にも、有気閉鎖音はみられません。そういう意味では、ハサダ方言に近いのですが、インド・アリア語族に属するパーンチ・パルガニア語の影響をうけ、借用語などインド・アリア語化がすすんでいます。
4. ケラ方言 ラーンチー市周辺に住むオラオン人がおもに話します。ほかの方言で、過去をしめす (正確に言えば、完了相) *keda* が *kerā* と発音されるために、ケラ方言と呼ばれています。この方言の研究が一番遅れています。

つぎに、ムンダ語族、あるいはムンダ諸語とは、どんな言語をさすのでしょうか。説明しておきましょう。

ムンダ諸語にはつぎのような言語があります。言語名と2011年国勢調査による話者人口をしめしておきます。ただし、レモ語以下は1961年のデータしかありませんので、話者人口の後ろに(1961)としめしておきます。

ムンダ語族	
言語名	話者人口
サンタル語 (Santali)	7,368,192
ムンダ語 (Mundari/Munda)	1,128,228 + 505,922
ホー語 (Ho)	1,421,418
コルク語 (Korku)	727,133
ソーラー語 (Sora/Savara)	409,549
カリア語 (Kharria)	297,614
グトブ語 (Gutob/Gadaba)	40,976
ジュアング語 (Juang)	30,378
コルワ語 (Korwa)	28,453
ブミジュ語 (Bhumij)	27,506
アスル語 (Asuri)	7,783
ビルホル語 (Birhor)	5,950
レモ語 (Remo)	4,677(1961)
グタ語 (Gta?)	1,978(1961)
ゴルム語 (Gorum)	767(1961)

上記のムンダ諸語のうち、サンタル語、ムンダ語、ホー語、ビルホル語、アスル語などはケルワル諸語を形成します。ケルワル諸語の系統関係は近く、それぞれおたがいの言語が通じあうほどです。日本語で言えば、サンタル語とムンダ語で、東北方言と京都方言の差ぐらいでしょう。もっと近い関係のムンダ語とホー語となると、せいぜい京都方言と神戸方言の差ぐらいしかありません。これら北ムンダ諸語（ケルワル諸語とコルク語からなります）の多くはジャールカンド州を中心に分布しますが、コルク語はマディア・プラデーシュ州からマハーラーシュトラ州にかけて分布します。

一方、ソーラー語やグトブ語などの南ムンダ諸語は、北ムンダ諸語と系統的にも遠いばかりではなく、地理的にもはなれたオディシャ州コラプート県を中心に分布します。また、上の表を見ていただければわかるように、話者人口も少なく、消滅の危機に瀕した言語に属します。話者人口が少ない上に、南ムンダ諸語が話されている地域では、武装した過激派が多く、外国人が近づくのも難しい状況です。そうした状況から、南ムンダ諸語の調査研究は、北ムンダ諸語にくらべ、はるかに遅れています。こうしたムンダ諸語はさらにモン・クメール諸語とともに、オーストロアジア語族を形成します。なお、次頁にムンダ諸語の分布図を掲載しておきます。

ムンダ諸語の研究は以下の本が出て、基本的な言語の文法が以前よりもわかるようになりました。この論文集にはムンダ語の文法概略があり、長田が執筆しています。また、前回のムンダ語

講習会を受講された、小林正人東京大学教授がムンダ語の方言であるケラ・ムンダ語を執筆しています。上であげた南ムンダ諸語の記述もあります。言語学的研究を目指す方はぜひ読んでみてください。

Gregory Anderson (ed.) *Munda Languages*, 2008. Routledge Language Family Series Book 3

Osada Toshiki (2008) *Mundari*, Anderson (ed.) 99-164.

Kobayashi Masato and Ganesh Murmu (2008) *Kera Mundari*, Anderson (ed.) 165-194.

ムンダ語の格言に、*sen ge susun, kaji ge durai* 「歩けば踊りに、しゃべれば唄に」というのがあります。ムンダ文化にとって、歌や踊りが不可欠です。この言語研修において、ムンダ語を学ぶとともに、ムンダの音楽やダンスについても、学んでいきます。ムンダ文化と日本文化には類似点もあります。ムンダ語の夏期言語研修を出発点として、今後こうした文化や言語に関心をもっていたいただければ、ムンダ語言語研修の所期の目的は達成されると考えています。夏の暑い盛りに、またコロナ禍に、4週間はかなり長い時間ですが、ムンダ語とムンダ文化に親しみ、楽しい時間を過ごして下さることを祈念しております。

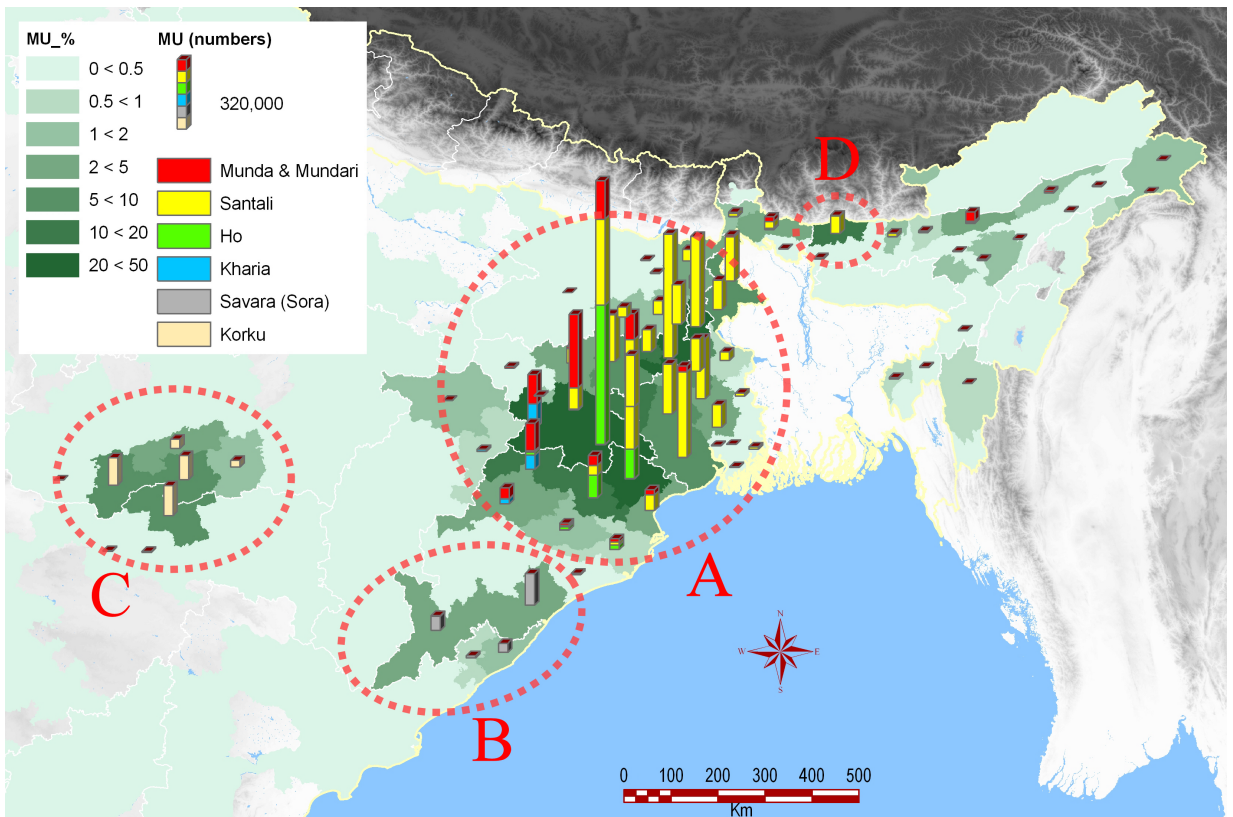


Figure1 ムンダ諸語分布図

2 ムンダ語の音韻体系と表記

ムンダ語には、固有の文字がありません。そこで現在では、ヒンディー語をあらわすデーヴァナーガリー文字を使用しています。しかし、デーヴァナーガリー文字でムンダ語をどのように書き表すのかという正書法も確立していません。したがって、本言語研修ではデーヴァナーガリー表記は使いません。ただし、語彙集にはデーヴァナーガリー表記によるムンダ語をのせておきました。本言語研修でのムンダ語表記は、基本的には、インド諸言語を転写するさいに用いられている転写表記（たとえば、反舌音を *t, d, r* と表記）を使用します。それでも表記できない音は、IPA（国際音声字母）を使用します。

では、ムンダ語の音韻体系と本研修で使用する表記をみていきましょう。

母音：

1. *i* 高・前舌・非円唇母音。
ir 「稲を刈る」
ili 「米の酒」
birid 「立ち上がる」
2. *e* 中低・前舌・非円唇母音。
en 「それ」
ere 「前兆」
berel 「生の」
3. *a* 低・中舌・非円唇母音。
am 「あなた：二人称単数」
ara 「娘婿」
marai 「大きい」
4. *o* 中低・後舌・円唇母音。
ol 「書く」
oko 「どれ」
moloi 「額」
5. *u* 高・後舌・円唇母音。
ur 「掘る」
uku 「隠す」
bului 「塩」

長母音：

長母音はその現れ方が規則的で、予測可能です。また、短母音と長母音の対立によって、意

味が変わることはありません。つまり、弁別的ではありません。「弁別的」とは言語学用語で、たとえば日本語の「ラ行音」は *r/l* の区別がありませんが、日本語では *r* と *l* の区別が弁別的ではないと言う表現をします。ただし、この教本や読本では、表記上、長母音は母音連続として示しておきます。それは、より発音に近い表記をとったほうが、初学者は混乱しないだろうという配慮と、教育を受けた二言語併用者を中心に、長短の区別が弁別的に意識されはじめているという理由からです。長母音があらわれる環境としては、数は多くないのですが、単一開音節語があります。また、歴史的にさかのぼると、もとは二音節語でしたが、母音間の子音 *-h-* が落ちたために母音連続が生じたケースの二つがあります。それらの例をみておきましょう。

joo 「実。果実」

baa < *baha* (ムンダ語ナグリ方言、サンタル語) 「花」

iil < *ihil* (ムンダ語ナグリ方言、サンタル語) 「羽毛」

鼻母音:

鼻母音も現れ方が規則的で、予測可能であり、弁別的ではありません。本言語研修テキストでは鼻母音を表記しませんが、とくに鼻母音であることを強調するさいには、*ā, ē, ī, ō, ū* のように母音の上に鼻音記号をつけて表記します。なお、鼻母音があらわれる環境はつぎのとおりです。

1. 単一開音節語 語頭子音が鼻音であることが多いが、それ以外でもおこる場合があります。

mūū 「鼻」

nūū 「飲む」

jūū 「臭う」

2. *ŋ* の前後の母音 *ŋ* は語中にしかあらわれません。

cēŋē 「鳥」

mōŋē 「5」

3. 母音連続 *oe, oa, ua* 借用語に多い。

kōē 「乞食」

kōāsi 「霧」(ヒンディー語 कुहासा *kuhāsā*)

kūā 「井戸」(ヒンディー語 कुआँ *kuā*)

子音:

閉鎖音

1. *p* 無声・両唇閉鎖音。

puṛu? 「葉器」

ipil 「星」

2. *b* 有声・両唇閉鎖音。

baa 「花」

bul 「酔う」

ibil 「厚い」

ub 「髪」

udub 「教える」

3. *t* 無声・歯閉鎖音。

tii 「手」

tul 「手で持ち上げる」

hatañ 「脳」

4. *d* 有声・歯閉鎖音。

doo 「(物を)置く。結婚する」

dul 「注ぐ」

dondo 「持ち上げる」

ud 「茸」

hambud 「抱く」

5. *ʈ* 無声・反舌閉鎖音。

toʔ 「(的などに)当たる。ぶつかる。」

ʈote 「弓を射る」

haʈaʔ 「箕(稲粃を選り分ける道具)」

6. *ɖ* 有声・反舌閉鎖音。

ɖaʈa 「歯」

ɖoŋɖo 「馬鹿」

7. *c* 無声・硬口蓋破擦音。

coʔ 「キスをする」

raca 「庭」

8. *j* 有声・硬口蓋破擦音。

joʔ 「掃除をする」

raja 「王様」

9. *k* 無声・軟口蓋閉鎖音。

koʔ 「白鷺」

haka 「吊す」

10. *g* 有声・軟口蓋閉鎖音。

goʔ 「背負う」

haga 「兄弟」

11. *ʔ* 声門閉鎖音。

daʔ 「水」

raca? 「引っ張る」

摩擦音

1. *s* 無声・歯摩擦音。
sibil 「おいしい」
hasa 「土」
2. *h* 声門・摩擦音。
had 「切る」
huṛin 「小さい」

鼻音

1. *m* 両唇鼻音。
muu 「鼻」
gama 「雨」
duṛum 「眠る」
2. *n* 歯鼻音。
nuu 「飲む」
mone 「欲する」
an 「それ」
3. *ɲ* 反舌鼻音。
moɲe 「5」
ceɲe 「鳥」
4. *ɲ̄* 硬口蓋鼻音。
aɲ̄ 「わたし」
5. *ɲ̄* 軟口蓋鼻音。
aɲ̄ 「夜が明ける」
buluɲ̄ 「塩」

流音

1. *r* 歯茎卷舌音。
re? 「強奪する」
buru 「山」
bir 「森」
2. *l* 歯茎側音。
le? 「舌」

bulu 「太股」

bil 「敷く」

3. *r* 反舌弾き音。

hoꝛo 「人間」

半母音

1. *w* 両唇半母音。

kiwa 「顎」

2. *y* 硬口蓋半母音。

hoyo 「風」

三種の流音について

日本人にとって、難しいのは流音が三種あることです。*r*は巻き舌で発音されることも多いので、わかりやすいかもしれません。一番難しいのは語中での区別です。以下の発音を聞いて、その違いに慣れてください。

(1)

hoꝛo 「人間」

horo 「亀」

holoꝛi 「小麦粉」

(2)

tala 「間」

tara 「半分」

taꝛa 「先に・・・する」

いわゆる抑止音 (checked consonants) について

ムンダ語の音声的特徴として、いつも取りあげられるのが抑止音 (checked consonants) です。閉鎖音のうち、*b, d* は語末において声門閉鎖音化して、破裂音がきこえません。つまり、調音点はそのままで、息をとめると、この抑止音になります。ただし、息を止めたら、かならず息をはかないといけません、そのときには鼻から息をだすように発音します。また、語末には *g* はたちません。すべて、声門閉鎖音 [ʔ] としてあらわれます。したがって、音韻論的立場からいえば、音素 /g/ をたて、語末は [ʔ] で実現されると解釈することができますが、初学者の無用の混乱を防ぐためと、借用語のなかでは語末の /g/ がそのまま [g] と発音されるケースもあるので、声門閉鎖音はすべて ʔ で表記します。

もう一点、サンタル語とムンダ語はお互いに通じ合うほど近い言語です。そのサンタル語にも同様の現象が見られます。つまり、語末の閉鎖音の破裂がありません。サンタル語には、ボディングというノルウェーの牧師さんが編纂した5巻本の辞書があります。その表記によると、*p', t', c', k'* と無声閉鎖音で表されています。このうち、サンタル語の *p', t'* はムンダ語の *b, d* に対応し、

k' は *'* に対応します。また、サンタル語の *c'* はムンダ語では *-i/e'* に対応します。その対応を示すと以下の通り。

意味	ムンダ語	サンタル語
髪	<i>ub</i>	<i>up'</i>
失う	<i>ad</i>	<i>at'</i>
水	<i>da'</i>	<i>dak'</i>

このサンタル語の表記から、ムンダ語の抑止音でも語末の無声閉鎖音 *p, t* で表記することも可能です。というのも、語末には有声・無声の対立がないからです。しかし、後ろに母音がつくと有声で現れること、ムンダ語の先行研究では有声閉鎖音を使用していることなどを考慮して、*b, d* で表記しています。

それでは、例をみながら、発音の練習をしましょう。

1. 語末の閉鎖音 *b*

ub 「髪」
udub 「教える」
cab 「口を開ける」
rakab 「上る」

2. 語末の閉鎖音 *d*

ud 「茸」
hambud 「抱く」
bid 「たてる」
birid 「たつ」。

3. 語末の声門閉鎖音 *'*

bu' 「吠える」
be' 「吐く」
poe' 「口をすすぐ」
busu' 「藁」
tukui' 「縫う」

さいごに、声門閉鎖音のあるなしの違いについてとりあげます。ここでは、日本人には聞きづらい語末の声門閉鎖音があるかないかについて、対立する単語をみながら、発音の練習をしましょう。一音節の場合と二音節の場合で、声門閉鎖のあらわれ方がことなる点に、注意しましょう。

1. 一音節

- (A-i) *joo* 「果実」
- (A-ii) *jo'* 「掃く」
- (B-i) *maa* 「去年」
- (B-ii) *ma'* 「切る」
- (C-i) *daa* 「根茎」
- (C-ii) *da'* 「水」

2. 二音節

- (A-i) *seta* 「犬」
- (A-ii) *seta'* 「朝」
- (B-i) *uri* 「皮をむく」
- (B-ii) *uri'* 「牛」
- (C-i) *uyu* 「掛ける」
- (C-ii) *uyu'* 「落ちる」

第II部

基本会話編

1 ジョアル

例文

1. *joar.*
2. *joar, bes ge?*
3. *hee, bes ge. ape do?*
4. *ale-o bes ge.*

和訳

1. 「ジョアル」
2. 「ジョアル、元気？」
3. 「はい、元気です。あなたがたは？」
4. 「わたしたちも元気です」

ムンダ人のあいさつ

ムンダ人はあいさつをだいにします。まず、知り合いに出会ったら、「ジョアル」とあいさつをします。そのとき、かならず両手を胸にあてて、軽く会釈をするように、身体を前かがみにしながら、「ジョアル」といいます。「ジョアル」をかわすときには、そのあとに、*bes ge* または *bugi ge* 「お元気ですか」とつづきます。そのあと、「はい、元気です」とこたえたら、*ape do* 「あなたたちは」とか、親しい人や自分よりも若い者に対しては *am do* 「おまえは」とか、村をたずねた場合などは *ne-sa^o-ko do* 「こちらは」とか、聞き返し、その返事として、*ale-o bes ge* 「わたしたちも元気です」とか、*añ-o bes ge* 「わたしも元気です」とか、*ne-sa^o-ko-o bes ge* 「こちらも元気です」とこたえて、一つのあいさつがおわります。あいさつが形骸化して、元気でもないのに、元気ですとこたえるケースを見かけることもありますが、たいていの場合、病気などの場合には、はっきりと元気ではないと言う方が多いように思います。また、人が亡くなったときなどは、このジョアルはかわしません。

その他、キリスト教徒ではあいさつがことなりますが、こうしたあいさつについては、以下にエッセイとしてまとめたことがあります。興味のある方はご覧ください。

長田俊樹（1992）「ムンダ人の挨拶考『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』第76号:1-4頁＋33頁。

2 これなあに？

例文

1. *nea do cana*?
2. *nea do ub*
3. *nea do cana*?
4. *nea do boo*?
5. *nea do cana*?
6. *nea do med*

和訳

1. 「これなあに？」
2. 「これ髪の毛だよ。」
3. 「これなあに？」
4. 「これ頭だよ。」
5. 「これなあに？」
6. 「これは目だよ。」

「これなあに」という質問がいかにかいじかを物語るエピソードからご紹介します。

昔、金田一京助という偉い先生がいました。アイヌ語の研究で有名で、文化勲章をもらった方です。その先生がカラフトへ行って、カラフト・アイヌ語を採集しようとしたときに、絵を使って語彙を採集したそうです。きっと絵がうまかったのでしょう。結構、語彙が増えていきました。絵だけでは限度があります。そこで、先生は少し頭を働かせて、めちゃくちゃな絵を描いて、こどもたちにみせたそうです。すると、こどもたちが「ヘマタ」と叫びました。この「ヘマタ」こそが「なあに？」を意味していたのです。そこで、先生は「ヘマタ」ということばを連発して、カラフト・アイヌ語の語彙採集が飛躍的にのびていったそうです。

このエピソードのように、「これなあに」を駆使すれば、新しい語彙を習得していくことができます。ムンダ語のように、あまり知られていない言語を学習するうえで、ひじょうに大切です。こどものころ、「これなあに」を連発しながら、新しい単語を習得していったことを思い出してください。

身体の名前を覚えよう

ub 髪の毛

boo 頭

med 目

muu 鼻

moca 口

lutur 耳
moloŋ 額 (ひたい)
jowa 頬 (ほほ)
kiwa 顎 (あご)
gucu 髭 (ひげ)
hotoʔ 喉 (のど)
taran 肩
tii 手
supu 上腕
talka 掌 (てのひら)
kaŋuʔ 指
laiʔ 腹
buŋi 臍 (へそ)
mayan 腰
kaŋa 足
mukuŋi 膝
bulu 太股

練習問題

1). 次の日本語をムンダ語に訳しなさい

1. これなあに。これ足だよ。
2. これなあに。これ髭だよ。
3. これなあに。これ掌だよ。
4. これなあに。これ腰だよ。
5. これなあに。これ喉だよ。

2). 次のムンダ語を日本語に訳しなさい

1. *nea do canaʔ? nea do lutur.*
2. *nea do canaʔ? nea do taran.*
3. *nea do canaʔ? nea do supu.*
4. *nea do canaʔ? nea do bulu.*

3 この人はだれですか？

例文

1. *nii' do okoe?*
2. *nii' do munda hoꝛo*
3. *ini' do okoe?*
4. *ini' do uraon hoꝛo*
5. *hani' do okoe?*
6. *hani' do japani*

和訳

1. 「この人はだれですか？」
2. 「この人はムンダ人よ。」
3. 「その人はだれですか？」
4. 「その人はウラオン人よ。」
5. 「あの人はだれですか？」
6. 「あの人は日本人よ。」

有生指示代名詞・無生指示代名詞の相違

前章では「これなあに」を覚えました。ここでは、「この人だあれ」を覚えます。

日本語の指示代名詞「これ」はふつう物をさします。人間をさすときは「こいつ」あるいは「この人」となります。ムンダ語の指示代名詞では、人間と非人間の区別ではなく、生命があるもの（有生指示代名詞と呼びます）と、生命がないもの（無生指示代名詞と呼びます）の区別をします。*nea* 「これ」は人間や動物などの生命があるものをさすことができません。人間などの有生名詞をさすときには *nii'* 「この人、あるいはこの生き物」を使います。*ena* 「それ」*hana* 「あれ」も同様で、有生名詞では *ini'* 「その人」*hani'* 「あの人」となります。以下に図示します。

有生指示代名詞 (Animate Demonstrative)

1. この人 *nii'*
2. その人 *ini'*
3. あの人 *hani'*

無生指示代名詞 (Inanimate Demonstrative)

1. これ *nea*
2. それ *ena*
3. あれ *hana*

なお、ムンダ語では、母音のうち *i* と *e*、そして *e* と *o* は単語（より正確には形態素）内で、共起できません。つまり、**eni*’ という形は許されません。こうした母音の現れ方にある種の制限がある現象を母音調和といいます。

民族名やカースト名を覚えよう

インドでは、憲法によって、カーストは否定されているのですが、実際には、今でもカースト制度が歴然とあります。それぞれの民族やカーストは人々のアイデンティティと関連しています。ムンダ人の周りには、オラオン人やサンタル人などの先住民 (*ādivāsī* と呼ばれている) やヒンドゥー教徒、回教徒 (ムスリム)、そしてキリスト教宣教師である西洋人などがいます。ムンダ語の呼び名を覚えましょう。

muṇḍa ムンダ人
uraon オラオン人
santa/ santara サンタル人
diku ヒンドゥー教徒 (もともとは「よそ者」の意味)
turku 回教徒 (ムスリム)
sayob 西洋人 (もともと *sahib*)
japani 日本人

練習問題

1) 次の文章をムンダ語に訳しなさい。

1. この人は誰ですか。この人は西洋人です。
2. その人は誰ですか。その人はムスリムです。
3. あの人は誰ですか。あの人はムンダ人です。
4. この人は誰ですか。この人は日本人です。

2) 次の文章から、有生指示代名詞を使って、ムンダ語で表現してください。

あなたは今自分の家にいます。あなたの家を人が訪ねてきました。あなたの玄関に三人の人が立っています。一番手前にムンダ人が、真ん中に日本人が、そして一番遠いところに西洋人が立っています。この位置で、ムンダ人、日本人、西洋人をムンダ語の有生指示代名詞で表現してみましょう。

4 あなたの名前はなんですか？

例文

1. *am-a' nutum do cana'?*
2. *añ-a' nutum do soma.*
3. *am do cana=m nutum-aka-n-a?*
4. *añ do etwari nutum-aka-n-a*
5. *etwari do saki nutum ci jonom nutum?*
6. *jonom nutum ge*

和訳

1. 「あなたの名前はなんですか？」
2. 「ぼくの名前はソマです。」
3. 「あなたはなんという名前ですか？」
4. 「わたしはエトワリという名前です。」
5. 「エトワリというのはサキ名ですか、出生名ですか？」
6. 「出生名です。」

ムンダ語の人称代名詞は日本語や英語よりも複雑です。数は単数、双数、複数の三つがあります。たとえば、二人称代名詞では、単数は *am*、双数は *aben*、複数は *ape* で、それぞれ「あなた」、「あなたたち二人」、「あなたたち（三人以上）」を意味します。数にくわえて、一人称双数と一人称複数では、包括形 (inclusive) と排他形 (exclusive) の二形があります。包括形とは聞き手をふくむ場合をさし、排他形とは聞き手をふくまない場合をさします。一人称双数包括形 *alan* は「私とあなた二人」を意味し、一人称双数排他形 *alin* は「私と彼（または彼女）二人」を意味します。また、一人称複数包括形 *abu* は「私とあなたたち」を意味し、一人称複数排他形 *ale* は「私と彼（または彼女）たち」を意味します。日本語でも「手前ども」という言い方がありますが、これはあきらかに一人称複数排他形です。包括形と排他形の区別はアイヌ語にも見られ、けっして珍しい現象ではありません。

属格人称代名詞は人称代名詞に *-a'* がついたものです。ただし、あとでのべるように、親族名称では属格人称代名詞がすこしことなります。それでは以下に、人称代名詞と属格人称代名詞をしめしておきます。

人称代名詞

	単数	双数	複数
一人称（包括形）	<i>añ</i>	<i>alan</i>	<i>abu</i>
一人称（排他形）		<i>alin</i>	<i>ale</i>
二人称	<i>am</i>	<i>aben</i>	<i>ape</i>
三人称	<i>aeʔ</i>	<i>akin</i>	<i>ako</i>

属格人称代名詞

	単数	双数	複数
一人称（包括形）	<i>añ-aʔ</i>	<i>alan-aʔ</i>	<i>abu-aʔ</i>
一人称（排他形）		<i>alin-aʔ</i>	<i>ale-aʔ</i>
二人称	<i>am-aʔ</i>	<i>aben-aʔ</i>	<i>ape-aʔ</i>
三人称	<i>ay-aʔ</i>	<i>akin-aʔ</i>	<i>ako-aʔ</i>

名前

ムンダ人の名前には二種類あります。一つはサキ名 (*saki nutum*)、もう一つは出生名 (*janam nutum*) です。

サキ名は生後1週間ぐらいでおこなわれる *caṭi* という儀礼で、命名されます。サキ名は赤ちゃんの親戚や両親の友人などの名前をもらってつけられます。名前をもらいあった人同士はおたがいを *saki-ñ* と呼び合い、人生の節目には特別のお祝いなどをおこないます。

一方の出生名は出生した曜日にちなんでつけられます。サキ名は家族のなかで、親族関係において忌避関係（反対は冗談関係）にある人とおなじである場合にはその名前呼ぶことが、タブー視されています。そんなときには、出生名を呼び名とします。ちなみに、マキはサキ名で、出生名はエトワリです。以下に、出生名を一覧表にあげておきます。

出生名

曜日	ムンダ語	男	女
日曜日	<i>etwar</i>	<i>etwa</i>	<i>etwari</i>
月曜日	<i>sombar</i>	<i>soma</i>	<i>sombari</i>
火曜日	<i>maṅgar</i>	<i>maṅgra</i>	<i>maṅgri</i>
水曜日	<i>budu</i>	<i>budua</i>	<i>buduni</i>
木曜日	<i>birsipait</i>	<i>birsa</i>	<i>birsi</i>
金曜日	<i>sukurar</i>	<i>sukuram</i>	<i>sukuru</i>
土曜日	<i>sanicar</i>	<i>sanika</i>	<i>sani</i>

ムンダ人の出生名とサキ名について、興味のある方は以下の論文を参照してください。

長田（1992）「ムンダ人の人名について」、『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』第74号 29-32頁。

この紹介文にも書いたのですが、名前について、もう少し付け加えておきます。

マキのヒンドゥー名は Madhu です。これは Maki という名前がヒンディー語の मक्खी *makkhī* 「蠅」と似ているため、「ハエ、ハエ」とからかわれるので、मधुマदु 「蜂蜜」に変えたそうです。なお、ヒンドゥー名マドゥは男性でも女性でも使われます。

また、クリスチャンは教会で名前をつけてもらう、クリスチャン・ネームがあります。この場合は John や Margaret といった名前がつけられます。名前を聞くと、クリスチャンかどうかわかります。日本ではあまり考えられないことです。

姓名の姓について、ムンダには氏族名 *kili* があります。ムンダ百科事典 (Encyclopaedia Mundarica=EM と省略する) によると、氏族は 106 あるそうです。同じ氏族の人は結婚できません。昔は氏族名を姓として名乗る人々が多かったのですが、近年は民族名であるムンダを名乗る人が多くなっています。

練習問題

1) 次の会話をムンダ語に直しなさい。

あなた：こんにちは

マンガリ：こんにちは。お元気ですか。

あなた：元気です。あなたの名前は何かですか。

マンガリ：私の名前はマンガリです。

あなた：あなたの名前は出生名ですか。サキ名ですか。

マンガリ：私の名前は出生名です。

あなた：向こうにいるお二人は誰ですか。

マンガリ：彼らはエトワとスクラムです。

2) 次の会話を日本語に訳しなさい。

あなた *joar*

エトワリ *joar, bes ge?*

あなた *hee bes ge. ape do?*

ソンバリ *ale do bes ge.*

あなた *ama' nutum do cana?*

ソンバリ *añ do etwari nutum aka-n-a.*

あなた *en hoꝛo-a' nutum do cana?*

ソンバリ *ini' do mangra nutum aka-n-a-e'.*

5 あなたの家はどこにありますか？

例文

1. *ama' oɾa' do kota-re mena'?*
2. *aña' oɾa' do ranci-re mena'*
3. *ama' hatu do kota-re-a*
4. *aña' hatu do keora*
5. *keora do kota-re mena'?*
6. *keora do sarwada ayar, birbanki hora-re mena'*

和訳

1. 「あなたの家はどこにありますか？」
2. 「私の家はラウンチーにあります。」
3. 「あなたの村はどこですか？」
4. 「わたしの村はケオラです。」
5. 「ケオラ村はどこにありますか？」
6. 「ケオラ村はサルワダ村の先で、ビルバンキ（村へいく）道路に（面したところに）ありません。」

指示代名詞に、有生指示代名詞と無生指示代名詞の区別があることはすでにのべましたが、名詞にもこの区別があります。以下に、その区別を語例とともに、説明しておきましょう。

名詞の性

無生名詞 (Inanimate Noun)

物や植物など、みずから動くことができない物をさします。すでに、指示代名詞にもこの区別があることをみましたが、動詞語尾にも、この二つの名詞に呼応して、変化が見られます。ムンダ語文法のすべてに及ぶ区別なので、ぜひ覚えましょう。

- baa* 「花」
ub 「髪の毛」
buru 「山」
bir 「森」

有生名詞 (Animate Noun)

基本的には、人間と動物をさします。しかし、それ以外にも、星や太陽などの天体、そして木々や自然に宿る神様などは有生名詞とみなされています。星や太陽、そして神様を有生名詞とみなすのは、みずから動くことができると考えているからでしょう。

horo 「人間」
seta 「犬」
horo 「亀」
singi 「太陽」
ipil 「星」
bonga 「神様」

名詞や指示名詞に有生と無生の区別があると、それをうけるコピュラ動詞（英語の *be* 動詞などのように、*A is B* というように *A* と *B* を繋ぐので繋辞とも、連結詞ともいわれます）にも、その区別が反映されます。日本語において、「これが」に対しては「あります」となり、「この人」に対しては「います」となるように、ムンダ語でも、無生名詞に対応する「あります」と、有生名詞に対する「います」では語形がちがいます。また、その否定形の「ありません」と「いません」は「あります」、「います」の語形ともまったくことなる形です。ここでは無生名詞の場合について、みておきます。有生名詞については次節でのべます。

存在のコピュラ（無生物）

1. …にあります。
-*re mena*?
2. …にありません。
-*re bano*?

練習問題

- 1) 次のムンダ語の疑問文に対し、ムンダ語で答えなさい。

am-a' *nutum do cana*'?
am do okoe? *am-a*' *oꝛa*' *do kota-re mena*'?
am-a' *hatu do kota-re mena*'?
am-a' *hatu-re buru mena*' *ci bano*'?

- 2) 次の会話をムンダ語に訳しなさい。

エトワリ：あなたの家はどこですか
 マングラ：私の家はジョジョハツ村です。
 エトワリ：ジョジョハツ村はどこですか。
 マングラ：マランハダ村の向こうで、ランドゥプ道路にあります。
 エトワリ：あそこには花が咲いていますか。
 マングラ：あそこには花は咲いていません。あそこは山があります。

6 あなたのお父さんは家にいますか？

例文

1. *apu-m oɾa[?]-re mena[?]-i-a ci?*
2. *hee, mena[?]-i-a. eŋga-ñ-lo[?] mosa-te mena[?]-kin-a.*
3. *tobe, kaka-m do?*
4. *kaka-ñ do baŋgai[?]-a.*
5. *kaki-m do?*
6. *kaka-ñ-a[?] oɾa[?]-re do jetae bañ-ku-a.*

和訳

1. 「あなたのお父さんは家にいますか？」
2. 「はい、(家に) います。わたしの母と一緒にいます。」
3. 「じゃあ、あなたの叔父さんは？」
4. 「わたしの叔父さんはいません。」
5. 「あなたの叔母さんは？」
6. 「私の叔父さんの家にはだれもいません。」

前節では、無生名詞に対する「あります」、「ありません」を学習しました。ここでは、有生名詞に対応する「います」、「いません」を学びます。無生名詞のときには数は関係ありませんが、有生名詞では単数、双数、複数の三形があります。「いません」の単数形は不規則な形をしていますので、注意しましょう。

存在のコピュラ (有生名詞)

1. います。
 - (a) 単数 *mena[?]-i-a*
 - (b) 双数 *mena[?]-kin-a*
 - (c) 複数 *mena[?]-ko-a*
2. いません。
 - (a) 単数 *baŋgai[?]-a*
 - (b) 双数 *bañ-kin-a*
 - (c) 複数 *bañ-ko-a; bañ-ku-a*

親族名称

つぎに、ここで親族名称について、みておきましょう。日本語には、「父」と「おとうさん」のように、指示形式 (reference form) と呼びかけ形式 (address form) のちがいがあります。厳密に言うと、「おとうさん」を指示形式で使うことができますが、「父」を呼びかけには使いません。ム

ンダ語でも、この指示形式と呼びかけ形式のちがいはあります。

また、親族名称の指示形式の後ろにハイフンをつけていますが、これはそのうしろに人称代名詞がきて、かならず「わたしの姉」とか、「あなたの父」というふうにあらわし、「姉」や「父」だけが独立して、つかわれることはありません。親族名称に関しては、すでにみた属格人称名詞とはことなり、人称接辞の形がうしろにつきますので、注意しましょう。

ムンダ語の特徴として、自分よりも年長者は男女の差があるのですが、自分より若い者には男女の区別なくまとめて表されます。たとえば、兄と姉は別の単語なのですが、弟と妹をさすのは一つ *boko-* です。弟と妹を区別したいときは、*boko-ñ koṛa* 「弟」と *boko-ñ kuṛi* 「妹」と区別します。英語の *sister* や *brother* が長幼の差をしめさないように、言語によって、親族名称の構造がことなります。ムンダ語では、自分よりも若い世代をあらわすときに、男女の区別が語彙に反映されないという特徴があります。ここでは、「弟・妹」だけをあげましたが、ほかにもこうした例があります。*hon-* 「息子・娘」、*iril-* 「夫の弟・妹」、*gere-* 「妹の子、または妻の弟の子」など。

ムンダ人同士が出会うと、どんな親族関係にあるかを必ず聞き合います。その親族関係をムンダ語で *nata* といいます。お互いが話し合うと、何らかの親族関係がわかるのがムンダ世界です。結構狭いということが出来ます。*nata* を知ることで、お互い呼び方が決まってきます。親族関係は複雑で、長田自身もすべて頭に入っているわけではありません。

以下に、親族名称の指示形式と呼びかけ形式、および親族名称と人称接辞について、まとめておきます。

親族名称

	指示形式	呼びかけ形式		指示形式	呼びかけ形式
父	<i>apu-</i>	<i>aba</i>	祖父	<i>tata-</i>	<i>buṛa</i>
母	<i>eṅga-</i>	<i>yañ</i>	祖母	<i>jia-</i>	<i>nani</i>
伯父	<i>baḍa-</i>	<i>baḍa</i>	曾祖父	<i>guṅgu-</i>	<i>kuku</i>
伯母	<i>baḍi-</i>	<i>baḍi</i>	曾祖母	<i>guṅgu-</i>	<i>kuku</i>
叔父	<i>kaka-</i>	<i>kaka</i>	婿	<i>ara</i>	<i>ara-tani</i> [?]
叔母	<i>kaki-</i>	<i>kaki</i>	嫁	<i>kimin</i>	村の名前
兄	<i>bau-</i>	<i>dada</i>	兄嫁	<i>hili-</i>	<i>hili</i>
姉	<i>aji-</i>	<i>dai</i>	義父	<i>honjar</i>	<i>aba</i>
弟・妹	<i>boko-</i>	名前	義母	<i>hanar</i>	<i>yañ</i>
兄弟	<i>haga</i>		父の姉妹	<i>hatom</i>	<i>hatom</i>
姉妹	<i>misi</i>		母の兄弟	<i>kuma-</i>	<i>mamu</i>

 親族名称と属格

1. 私の母 *eŋga-n̄*
2. あなたの父 *apu-m*
3. 彼、彼女の姉 *aji-te*
4. 私の息子 *hon-iñ koṛa*
5. あなたの妹 *boko-m kuṛi*

練習問題

- 1). 次の日本語をムンダ語に直しなさい。

ソマ: あなたのお父さんのお名前は何か。

ビルシ: 私のお父さんの名前はスクラムです。

ソマ: あなたのお父さんは家にいますか。

ビルシ: いいえ、家にいません。彼は伯父さんの家にいます。

ソマ: あなたのお母さんは家にいますか。

ビルシ: いいえ、私のお母さんは家にいません。両親とも伯父さんの家にいます。

ソマ: 誰が家にいますか。

ビルシ: 誰も家にいません。

- 2). 次の日本語を親族名称の呼びかけ形式を使ってムンダ語に直しなさい。

ビルシ: お母さん、家にいるの。

母: いいえ、家にはいません。わたしはあなたのお兄さんのところにいます。

ビルシ: お姉さん、あなたの村はどこなの。

姉: 私の村はジリミリ村です。

ビルシ: お父さん、どこにいるの。

父: わたしはあなたのお母さんと一緒に家にいます。

7 あなたは本をもっていますか？

例文

1. *am-ta[?]-re kitab mena[?]?*
2. *kaa, añ-ta[?]-re do bano[?]. soma-ta[?]-re mena[?].*
3. *ena do-ñ itu-an-a*
4. *añ-a[?] oṛa[?]-re kitab do moyod-o bano[?].*
5. *ke, mendo siu[?]-calu[?] hoṛo-ko-ta[?]-re do uri[?]-merom-ko mena[?]-ko-a, hecika?*
6. *hee, ale-a[?] oṛa[?]-re-o uri[?]-merom-ko mena[?]-ko-a.*
7. *oṛa[?]-re kami hoṛo-ko mena[?]-ko-a ci?*
8. *hee, hon-ko mena[?]-ko-a. kuṛi hon-kin bar hoṛo-kin mena[?]-kin-a, ad moyod koṛa hon mena[?]-i-a.*

和訳

1. 「あなたは本を持っていますか？」
2. 「いいえ、わたしは持っていません。ソマがもっています。」
3. 「それは知っています」
4. 「わたしの家には一冊も本はありません。」
5. 「ふーん、でも、農業する人の家には、牛や山羊がいるじゃない。」
6. 「はい、わたしたちの家にも牛や山羊はいます。」
7. 「家に仕事をする人はいますか」
8. 「はい、こどもたちがいます。娘が二人います。そして、息子が一人います。」

英語の入門書などをみると、I have a book. という have 動詞を初歩の初歩としてならいます。ところが、ムンダ語ではこの have 動詞にあたるような動詞がありません。「だれそのところに、・・・がある」という表現で、have 動詞の代用をします。ここでも、有生名詞と無生名詞の区別に注意してください。

・・・をもっていますか。

1. 無生名詞：
ta[?]-re mena[?]
2. 有生名詞：
 - (a) 単数 *ta[?]-re mena[?]-i-a*
 - (b) 双数 *ta[?]-re mena[?]-kin-a*
 - (c) 複数 *ta[?]-re mena[?]-ko-a*

なお、have 動詞の欠如という特徴について一言をいっておくと、この特徴は南アジアではめずらしいものではありません。たとえば、ヒンディー語の場合を紹介します。

āp ke pās kitne paise hāī? 「あなたはいくらお金を持っていますか」

このヒンディー語を分析すると、*āp* 「あなた」 *ke* 「の」(普通は *ka* ですが、後ろの名詞によって変化します) *pās* 「側、ところ」を意味します。つまり、ここまでは「あなたのところに」となります。*kitne paise* 「いくら、パイサはインドのお金の単位です」、*hāī* は英語の *be* 動詞に当たるものです。文字通りの訳は「あなたのところには、いくらお金がありますか」です。これが「あなたはいくらお金を持っていますか」を意味します。まさに、ムンダ語と同じ構造を持っています。

練習問題

1). 次のムンダ語の質問に、ムンダ語で答えてください。

am ta²-re kitab mena² ci?

am ta²-re kuṛi hon mena²-i-a ci?

am ta²-re koṛa hon kin baria mena²-kin-a ci?

am ta²-re merom ko mena²-ko-a ci?

oṛa²-re kami hoṛo-ko mena²-ko-a ci?

2). 次の日本語をムンダ語に直してください。

ブドゥイ: あなたには娘さんがいますか。

エトワリ: わたしには二人の娘がいます。

ブドゥイ: あなたには息子さんがいますか。

エトワリ: わたしは(何人か) 息子がいます。

ブドゥイ: あなたは牛を持っていますか。

エトワリ: はい、我々(排他形)の家には牛と羊がいます。我々は農家です。

ブドゥイ: 農家にはお金がありません。

エトワリ: 我々にはお金がありません。

8 わたしは日本人です

例文

1. *am do okoe tan-i'?*
2. *añ do japani tani'. am do okoe?*
3. *añ do soma tan-i'. nea hatu-re-ni'. inku do?*
4. *inku do japani hořo-ko-lo' kami tan-ko.*
5. *am-a' nutum do?*
6. *añ do osada-tan-i'.*
7. *am do maki-a' kisan tan-i', he ci ka?*
8. *he, añ do maki-a' kisan.*

和訳

1. 「あなたはだれですか？」
2. 「わたしは日本人です。あなたは？」
3. 「わたしはソマです。この村の人間です。その人たちは？」
4. 「その人たちは日本人といっしょに働いている人たちです。」
5. 「あなたの名前は？」
6. 「わたしは長田です。」
7. 「あなたはマキの旦那さんじゃないですか？」
8. 「はい、わたしはマキの夫です。」

日本語では、存在を示すのは「あります」「います」と物と人間で別のコピュラを使います。また、「わたしは日本人です」というように、身分・属性をしめすコピュラも違います。ところが、英語では、「あります」あるいは「います」を意味する存在をしめすコピュラも、「・・・です」を表現する身分・属性をしめすコピュラも、be動詞を使います。また、ムンダ語の隣で話されているヒンディー語などでも、存在をしめすコピュラと身分・属性をしめすコピュラの区別はなく、होना *honā* 動詞を使います。

では、ムンダ語はどうでしょうか。ムンダ語では、日本語と同様に、この二つのコピュラが別々の形であらわされます。すでに、存在をしめすコピュラについてはみてきましたが、ここでは身分・属性をしめすコピュラをみておきましょう。

身分・属性をしめすコピュラ

1. 単数 *tan-i'*
2. 双数 *tan-kin*
3. 複数 *tan-ko*

なお、存在をしめすコピュラと身分・属性をしめすコピュラの区別があるという特徴は、うえでのべたように、インド・アリア諸語のうち、西部のヒンディー語などにはみられません、東部のベンガル語などではみられます。この特徴については、すでに論文に書いたことがありますので、関心のある方はそちらをご覧ください。

長田（1991）「インド東部チョターナーグプル地方における言語輻合について」、『内陸アジア言語の研究』第6号：143-177頁。

練習問題

1). 次の日本語の質問にムンダ語で答えなさい。

あなたは誰ですか。

あなたは日本人と一緒に働いていますか。

あなたの名前は何ですか。

あなたはマキの夫ですか。

2). 次の日本語をムンダ語に直しなさい。

わたしの名前は長田です。

わたしは日本から来ました。

わたしは神戸から来ました。

わたしはマキの夫です。

我々二人はムンダ人と一緒に働いています。

彼らはあの村から来た人たちです。

あの村はラーンチャーにあります。

9 この家は大きい

例文

1. *nea oṛaʔ marañ-ge-a.*
2. *ka, nea ate ena oṛaʔ ge marañ-a.*
3. *soben ate marañ-utar oṛaʔ do oko-aʔ?*
4. *hana han-re menaʔ. samu-aʔ oṛaʔ ge.*
5. *añ-aʔ oṛaʔ do bese huṛiñ-ge-a. am-aʔ oṛaʔ do cilika menaʔ?*
6. *añ-aʔ oṛaʔ-o huṛiñ-ge-a. mendo, ote do bese menaʔ.*

和訳

1. 「この家は大きい。」
2. 「いいえ、これよりもそれの方が大きい。」
3. 「一番大きい家はどれですか？」
4. 「あちのあれです。サムの家だよ。」
5. 「わたしの家はとても小さい。あなたの家はどうですか？」
6. 「わたしの家も小さい。でも、土地はいっぱいあります。」

形容詞

ムンダ語は、品詞の区別がたてにくいという特徴があります。とくに、動詞と名詞の区別がないと言われることが多く、言語学者のなかでも、そう信じている人がかなりいます。しかし、これはそういった傾向があるといった程度のことで、実際には、動詞としてだけ使用される単語や名詞としてだけ使用される単語がけっこうあります。

ところが、動詞と形容詞の区別となると、なかなかむずかしいところです。というのは、形容詞の叙述用法は動詞とおなじ語尾をとって、動詞のようにふるまいますし、関係節では、動詞はそのまま直接名詞の前に置かれ名詞を修飾し、形容詞のようにふるまうからです。

しかし、つぎのような文章で、...に入れることができる単語は形容詞とみなすことができるでしょう。動詞と形容詞の一番大きな相違は、接中辞 *-pV-* をとったときの意味がことなる点ですが、それはあとでのべることにします。文法編の形容詞のところを参照してください。

1. 叙述用法
...*ge a*
2. 比較級
A ate B ...
3. 最上級
soben ate ...-utar

練習問題

1). 次のムンダ語を日本語に訳しなさい。

hana oṛaʔ maraŋ-ge-a.

ena oṛaʔ maraŋ-ge-a.

nea hatu-re hana oṛaʔ ate ena oṛaʔ maraŋ-ge-a.

ena hatu-re soma-aʔ oṛaʔ soben ate maraŋ utar-ge-a.

2). 次の日本語の会話をムンダ語に直しなさい。

ソマ: どの家があなたの家ですか。

ビルサ: わたしの家は向こうにあります。ジョジョハツ村にあります。

ソマ: あなたの家は大きいですか。

ビルサ: わたしの家はとても小さいです。マンガラの家はわたしの家よりも大きいです。

ソマ: マングラの家はジョジョハツ村で一番大きな家です。

ビルサ: はい、しかし、わたしは多くの土地を持っています。

10 いま何時ですか

例文

1. *ciminai samae hoba-aka-n-a?*
2. *ek bajao-ta-n-a, jaa'. aĩ ta'-re do gaři bano'. ini' ta'-re do mena' jaa'.*
3. *eei, am ta'-re gaři mena' ci?*
4. *hee, aĩ ta'-re gaři mena'.*
5. *tobe, ciminai samae hoba-o'-tan-a? ek bajao-tan-a ci?*
6. *auri. naa' do bara bajao-tan-a.*

和訳

1. 「いま何時ですか？」
2. 「たぶん一時ごろだよ。わたしは時計をもっていない。その人がたぶん時計をもっているよ。」
3. 「おーい、あなたは時計をもっていますか。」
4. 「はい。もっています。」
5. 「じゃあ、何時になるところですか？もう一時になりますか？」
6. 「まだですよ。いまは12時です。」

ムンダ人のなかでも、教育を受けた人や町で暮らす人は時計をもっています。しかし、大多数の村で暮らす人々は時計をもっていない。もっていても、時計通りにうごく人はまったくいないと断言してもいいほどです。

では、ムンダ人は時計をいっさい気にしない人なののでしょうか。時間に追われている現代人は、悠久の時の流れに身をまかせるムンダ人というように、思いたがる傾向にあります。しかしながら、残念ながら、ムンダ人にはムンダ人独自の時刻名があるのです。それを以下に紹介しておきます。夜明けの時間がこまかくなっているのは、朝早く起きるからでしょう。

ムンダ人の伝統的時間

1. 朝一番 *idañ siñgi*
2. 昼前 *lañdia tikiñ*
3. 昼時 *tikiñ (siñgi)*
4. 午後 *hane' siñgi*
5. 夕刻前 *da' basañ siñgi*
6. 家畜を家に入れるとき *uri' apader siñgi*
7. 夕方 *ayub*
8. 日没 *siñgi hasur-ta-n-re*
9. 日没後の薄暗い時 *nudum-nudum/mĩr-mĩr nuba'-ta-n-re*

10. 夜 *nida*
11. 夜中 *tala nida*
12. ディムチュア鳥の啼くとき *ḍimcua[?] rana[?]*
13. ケルケッタ鳥の啼くとき *kerketta rana[?]*
14. 一番鶏が啼くとき *sida sim-ko rana[?]*
15. 二番鳥が啼くとき *tayom sim-ko rana[?]*
16. 朝鳥が啼くとき *seta[?] sim-ko ra[?]*
17. 夜明け時 *añ-ta-n-re*
18. 日の出 *siñgi tur-ta-n-re*

練習問題

- 1). 次の日本語の質問にムンダ語で答えなさい。
以下の時間はいつですか。

起きる
眠る
昼食する
朝食する
おやつを食べる
仕事に行く

- 2). 次の日本語をムンダ語に直しなさい。

ビルシ: お兄さん、あなたはいつ家にいますか
兄: わたしは夕方に家にいます。
ビルシ: あなたは村にいついますか
兄: わたしは昼間村にいます。
ビルシ: 今何時ですか。
兄: 今はお昼になるところです。

11 あなたはどこへ行きますか？

例文

1. *ko-te=m seno[?]-ta-n-a.*
2. *ranci-te=ñ seno[?]-ta-n-a. am do ko-te-m-ta-n-a.*
3. *añ do jeta-te ka. honor-ta-n-a-ñ. ranci-re do ko-ta[?]-re=m tain-a ?*
4. *hon-iñ kora-ta[?]-re-ñ tain-a. añ-a[?] hon do naa[?] do ranci-re mena[?]-i-a.*
5. *ke. añ-a[?] hon do ora[?]-re ge=[?] kami-ta-n-a. naa[?] ge=[?] hiju[?]-ta-n-a.*
6. *kuri[?] ? hee. hani[?] han-re mena[?]-i-a. hiju[?]-ta-n-a-e[?].*

和訳

1. 「あなたはどこへ行きますか？」
2. 「わたしはランチャーへ行くとこです。あなたはどこへいくのですか？」
3. 「わたしはどこへも行きません。散歩しているところです。ランチャーではどこに泊まるのですか？」
4. 「わたしの息子のところに泊まります。うちの子はいまランチャーにいます。」
5. 「ふーん、そうか。うちの子は家で仕事をしています。いま、(こちらへ) 来るところです。」
6. 「どこですか？ あっ、あそこにいますね。(こちらに) 来るところです。」

動詞と人称接辞

ムンダ語の動詞構造において、主語や目的語が有生名詞の場合に、必ずその主語や目的語の人称を接辞として標示しなければなりません。人称接辞の位置は動詞の直前にくる単語や後置詞をともなった後置詞句などに接尾辞としてあらわれる場合と、動詞の最後にあらわれる場合とがあります。だんだんと、人称接辞は後者の位置におかれることが多くなっていますが、ムンダ語しか話さないおばあさんなどは前者の位置を堅持するケースが目につきます。かなりムンダ語の会話が上達しても、この人称接辞を忘れてしまうことがありますので、気をつけましょう。くわしいことは文法編をごらんください。

人称接辞

	単数	双数	複数
一人称 (包括形)	-(i)ñ	-lan	-bu
一人称 (排他形)		-lin	-le
二人称	-m(e)	-ben	-pe
三人称	-(e) [?] -i	-kin	-ko

疑問詞と後置詞

この節で学習する中心テーマは疑問詞「どこ」です。日本語では、「どこ」に助詞がついて、「どこに」「どこへ」という疑問詞をつくります。ムンダ語では、疑問詞が後置詞をとって、疑問文をつくります。後置詞 *re, te, ate* に、*ta'*, *sa'* がくみ合わさった造語法は指示詞などの代名詞でもみられます。くわしくは文法編をごらんください。

1. どこ *ko-re (oko-re)*
2. どこに *ko-ta'-re (oko-ta'-re)*
3. どちらに *ko-sa'-re (oko-sa'-re)*
4. どこへ *ko-te (oko-te)*
5. どころ辺へ *ko-ta'-te (oko-ta'-te)*
6. どちらへ *ko-sa'-te (oko-sa'-te)*
7. どこから *oko-ate*
8. どこから *ko-tag-ate (oko-tag-ate)*
9. どちらから *ko-sag-ate (oko-sag-ate)*

練習問題

- 1). 次のムンダ語会話を日本語に直しなさい。

長田 *etwari kote=ʔ senoʔ-tanaʔ*

マンガラ *iniʔ do ranci-te=ʔ senoʔ-tana.*

長田 *kuri hon-kin kote=kin senoʔ-tanaʔ*

マンガラ *kuri hon-kin jeta do ka. naaʔ ge oʔaʔ-te=kin hijuʔ-tan-a.*

長田 *ar koʔa hon do kota-re menaʔ-i-aʔ*

マンガラ *añ-aʔ hon do oʔaʔ-re-ge-ʔ kami ta-n-a.*

- 2). 次の日本語会話をムンダ語に直しなさい。

ソマ 「あなたとあなたの旦那さんお二人はどこへ行くのですか」

エトワリ 「われわれ二人はデリーに行くところです」

ソマ 「デリーはどちらの方向ですか」

エトワリ 「デリーはランチーの向こうです」

ソマ 「あなたとあなたの二人の娘はどこから来ますか」

エトワリ 「われわれはあちらの方から来ました。サルワダ村の向こうです。」

12 あなたはなにをしていますか？

例文

1. *cana*[?]=*m cika-ta-n-a* ?
2. *maṅḍi*=*ñ jom-ta-n-a*.
3. *cana*[?] *utu* ?
4. *sim jilu. am do* ?
5. *auri*=*ñ jom-e-a. eṅga-ñ oṛa*[?]-*re baṅgai*[?]-*a*.
6. *tobe, ne-ta*[?]-*re ge jom-e-me*.
7. *ka-ñ-a*[?]. *aji-ñ ge maṅḍi do*=*e*[?] *bai-ta-n-a. oṛa*[?]-*re ge*=*ñ jom-a*.

和訳

1. 「あなたはなにをしていますか？」
2. 「ご飯を食べているところです。」
3. 「おかずはなに？」
4. 「鶏肉です。おまえは？」
5. 「まだ食べていません。わたしのお母さんは家にいません。」
6. 「じゃあ、ここで食べなさい。」
7. 「いいえ食べません。わたしの姉がご飯を作っているところです。家で食べます。」

日本人は会ったときに、よく天候の話をしします。「今日はいい天気ですね」「雨が続きますね」といった具合です。ところが、ムンダ人は「何をしていますか」とか、「何のおかずを食べましたか」といった質問が挨拶代わりです。とくに、挨拶代わりに聞かれるのは「何のおかずか」とか、「何を食べたか」とか、日本人は決して聞かないような質問をしします。これが挨拶なのだ気がつくまでずいぶん時間がかかりました。

ムンダ語は複雑な動詞構造をもっています。ここで、とりあげた「なにをしていますか？」という質問の答えは複雑な動詞構造とかかわってきます。それはここではあつかいません。文法編でゆっくりと学習しましょう。ここでは、疑問文にはつきものの返事やあいづちなどをとりあげておきます。

返事とあいづち（間投詞、接続詞）

1. はい。肯定 *hee*
2. いいえ。否定 *ka*
3. まだ。 *auri*
4. じゃあ。 *tobe*
5. ふーん。 *ke*

練習問題

1). 次の日本語会話をムンダ語に直しなさい。

ソンバリ: あなたは何をしていますか。

スクル: 私は何もしていません。歩いています。

ソンバリ: あなたは何の仕事をしていますか。

スクル: 何もしていません。わたしの息子は仕事をしています。

ソンバリ: あなたの息子は家にいますか。彼はラウンチーに行きますか。

スクル: いいえ、彼はこの村で働いています。

2). 次のムンダ語会話を日本語に直しなさい。

ビルサ: *ee, soma. cana=m cika-tana?*

ソマ: *kaka-ñ-a' ora'-te=ñ seno'-tana*

ビルサ: *kaka-m, cana=e' cika tana?*

ソマ: *jitao ka, añ ge=ñ kami tana*

ビルサ: *kaka-m-a' hon-ko mena'-ko-a ci?*

ソマ: *naa' do bañkua. soben-ko ranci-re=ko tain-tana.*

13 食事は誰が作りますか

例文

1. *maṇḍi do okoe bai-a?*
2. *janao do añ ge=ñ bai-ta-n-a.*
3. *cana=m bai-a?*
4. *aṛa'-sakam ge=ñ ʔeo-i-a.*
5. *jilu-utu do cilika=m bai-a?*
6. *jilu utu do apu-ñ ge=' bai-a. ʔeo keate rasi-i-a. bese sibil-a*

和訳

1. 「食事は誰が作りますか？」
2. 「いつもは私が作ります。」
3. 「何を作りますか。」
4. 「山菜や葉物を炒めます。」
5. 「お肉のおかずはどうやって作りますか」
6. 「お肉は私の父が作ります。炒めたあと、スープにします。とてもおいしい」

食事関連語彙

ここまでは文法事項の説明をするための文例でしたが、実際にフィールドワークする場合には単語を増やすことも重要です。前節ではムンダ人の挨拶が「何のおかずを食べましたか」だという話をしました。そこで、ここではムンダ人の食事に関連した語彙についてみておきます。

ムンダ人はお米を主食としています。植物としてのイネは *baba* コメは *cauli* 炊いたゴハンは *maṇḍi* といい、食事を表す単語も *maṇḍi* といいいます。英語ではイネ、コメ、ゴハンのすべてが *rice* ですが、この三つを区別する点は日本語と同様です。

おかずは *utu* といい、村で食べられているのは *aṛa' sakam* 「山菜と葉物」です。豊富な山菜については、巻末の動植物語彙にあげておきました。また、お祭りの特別な日にはお肉 *jilu* やお魚 *hai jilu* を食べます。調理法は炒める *ʔeo* 煮る *tiki* 火にくべて蒸し焼にする *rapa'* が主です。味付けはいたってシンプルで、塩こしょうだけです。ただし、肉料理などではターメリックやコリアンダー、クミンなどの香辛料を使います。

インド料理を食べたことがある人はナンを食べたことがあると思いますが、ムンダ語では *lad* といいいます。ただし、この *lad* という単語は多義語で、お肉を葉っぱにくるんで、火にくべて蒸し焼きにするのも *lad jilu* といいいます。村のムンダ人はほとんど小麦を食べません。したがって、パンのような食べ物はありません、マゲ祭りに作る、サラソウジュの葉っぱで挟んだ *sakam lad* も米粉から作られています。

インドではパニールのような乳製品が豊富にあります。しかし、不思議なことに、ムンダ人は一切乳製品を作りませんし、食べません。牛乳も飲みません。インドで有名なミルク紅茶である

チャイも飲みません。

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| 1. 食事 <i>maṅḍi</i> | 10. 蒸し焼 <i>rapa'</i> |
| 2. ゴハン <i>maṅḍi</i> | 11. おいしい <i>sibil</i> |
| 3. おかず <i>utu</i> | 12. すっぱい <i>jojo</i> |
| 4. 山菜 <i>aṛa'</i> | 13. あまい <i>herem</i> |
| 5. ヤギ肉 <i>merom jilu</i> | 14. しぶい <i>heben</i> |
| 6. 鶏肉 <i>sim jilu</i> | 15. にかい <i>mer</i> |
| 7. 魚肉 <i>hai jilu</i> | 16. 辛い <i>haṛad</i> |
| 8. 炒める <i>ṭeo</i> | 17. 塩辛い <i>bului</i> |
| 9. 煮る <i>tiki</i> | |

練習問題

- 1). 次のムンダ語会話を日本語に直しなさい。

長田 *maṅḍi jom-ke-d-a-m ci?*
 マングラ *hee, jom-ke-d-a-ñ.*
 長田 *cana utu=m jom-ke-d-a?*
 マングラ *jilu utu ge=ñ jom-ke-d-a.*
 長田 *sibil ge taiken-a ci?*
 マングラ *hee, sibil ge, mendo haṛad ge taiken-a .*

- 2). 次の日本語会話をムンダ語に直しなさい。

ソマ「何を食べていますか」
 エトワリ「ご飯と山菜のおかずを食べています」
 ソマ「おいしいですか」
 エトワリ「はい、おいしいです。でも、酸っぱいです」
 ソマ「どうして、酸っぱいのですか」
 エトワリ「タマリンド (*jojo*) を一緒に煮たから、酸っぱかった。」

14 あなたはいつランチに行きますか

例文

1. *cimtañ ranci-te=m senog-a?*
2. *gapa=ñ senog-a.*
3. *tobe, mosa-te ge=lan senog-a.*
4. *mosa-te do ka=ñ dañi-a.*
5. *cilikate?*
6. *cia[?] ci muñdu-ren kaka-ñ-a[?] oñ-a[?] re kami mena[?]. gapa ranci-te=ñ teba[?]-a ci ka ka=ñ itu-an-a.*
7. *tobe, am-lo[?] do ka-ñ-a[?]. soma-lo[?] ranci-te=lin senog-a.*

和訳

1. 「あなたはいつランチに行きますか？」
2. 「明日行きます。」
3. 「じゃあ、いっしょに行きましょう。」
4. 「わたしはいっしょに行けません。」
5. 「どうして？」
6. 「ムルフーの叔父さんの家に用事があります。明日ランチに着くかどうか、わかりません。」
7. 「じゃあ、あなたといっしょには行きません。ソマといっしょに、行きます。」

疑問詞

ここまでの基本会話編のなかに、いろんな疑問詞が登場しました。最初に、金田一京助が樺太アイヌ語を調査したときの逸話を紹介しながら、「これなあに」で語彙が飛躍的に増えていった話を書きましたが、「これなあに」からはじまって、「いつランチに行きますか」まで、5W1Hは知らないことを聞くためには不可欠なものです。

ここでは、疑問詞をまとめておきましょう。

1. いつ *cimtañ*
2. どこ *kore, kote*
3. だれ *okoe*
4. なに *cana, cina*
5. なぜ *cilikate*
6. いくつ *ciminañ*

練習問題

- 1). つぎの日本語をムンダ語に訳しなさい

マンガラ: ねえ、お姉さん、あなたはいつ私の家に来るの？

エトワリ: わたしは明日あなたの家に行きます。

マンガラ: あなたの夫と一緒に来ますか？

エトワリ: いいえ、わたしは夫とは一緒に行きません。夫は仕事があります。わたしは息子と一緒にいきます。

2). つぎの日本語が答えになるようなムンダ語疑問文を作りなさい。

「わたしはランチーに行くところです」

「わたしは明日ランチーに行きます。」

「わたしは明日お兄さんのソマと一緒にランチーに行きます。」

「わたしはランチーで仕事があります。」

「わたしの仕事は農業です。」

「わたしは2頭の牛を持っています。」

第Ⅲ部

文 法 編

1 名詞の性と数

例文

1. *sirma-re ipil-ko mena'-ko-a.*
2. *sirma-re siŋgi baŋgai'-a. rimbil-ke-d-a-e'.*
3. *oŋa'-re kitab-ko mena'.*
4. *kaka-ñ ar kaki-ñ ranci-te=kin seno'-ta-n-a.*
5. *daŋgara-ko ar daŋgiri-ko akaŋa-re=ko susun-ta-n-a.*

和訳

1. 「空に星がある」
2. 「空に太陽はみえない。雲が出た。」
3. 「家に本がある」
4. 「叔父と叔母がランチーへ行くところです」
5. 「少年たちと少女たちがアカラで踊っています」

文法編の最初は基本会話編の復習を含んでいます。

基本会話編5で示したように、ムンダ語の名詞には有生名詞と無生名詞の区別があります。ムンダ人にとって、有生名詞とはみずから動くことができるかどうかが決め手です。だから、ここに出てくる「星」や「太陽」は有生名詞になります。

基本会話編5と6で無生名詞の存在を表すコピュラと有生名詞の存在を表すコピュラについて習いました。名詞が有生か無生かの区別は、コピュラ動詞に人称が標示されるかどうかでテストすることができます。つまり、コピュラ動詞をとるときに、*mena'*をとれば無生名詞、単数では *mena'-i-a*。または双数では *mena'-kin-a*、複数では *mena'-ko-a* などのコピュラ動詞をとれば有生名詞ということがわかるのです。

上の例文をみていただくと、「星」は有生名詞なので、*ipil-ko mena'-ko-a* となります。また、「本」は無生名詞なので、*kitab-ko mena'* となります。ここで注意しないと行けないのは *kitab-ko* と複数で標示されているのに、動詞では *mena'* と複数が標示されない点です。無生名詞でも、数えられるものには「二冊の本」や「複数の本」を *kitab-kin, kitab-ko* ということができます。

有生名詞と無生名詞の区別は日本語にも「ある」と「いる」の違いなど若干見られますが、英語などの西洋語にはない重要な区別です。ぜひ覚えてください。

西洋語を学んだことがある方は男性名詞・女性名詞、ときに中性名詞などの区別に苦労されたと思います。インドのヒンディー語にもこの区別があります。その隣接するインド・アーリア諸語の影響からか、ムンダ語にも語彙として、つぎのような女性名詞と男性名詞の区別があります。

男性名詞	意味	女性名詞	意味
<i>kaka</i>	叔父	<i>kaki</i>	叔母
<i>baḍa</i>	伯父	<i>baḍi</i>	伯母
<i>daṅgara</i>	少年	<i>daṅgiri</i>	少女
<i>koṛa</i>	男性	<i>kuṛi</i>	女性

この単語の語尾が *-a* が男性を示し、*-i* が女性を示すのはヒンディー語など、インド・アリア諸語の特徴です。ただし、この男性名詞と女性名詞の区別が動詞語尾に変化を与えることはありません。単に、語彙上の区別です。その点はヒンディー語などとは異なります。

数については、単数、双数、複数の区別があります。単数と複数は珍しくありませんが、ムンダ語には双数というのがあります。気をつけましょう。

意味	数		
	単数	双数	複数
犬	<i>seta</i>	<i>seta-kin</i>	<i>seta-ko</i>
人	<i>hoṛo</i>	<i>hoṛo-kin</i>	<i>hoṛo-ko</i>
本	<i>kitab</i>	<i>kitab-kin</i>	<i>kitab-ko</i>
服	<i>lijaʔ</i>	<i>lijaʔ-kin</i>	<i>lijaʔ-ko</i>

数は有生名詞であれ、無生名詞であれ、数がかぞえられるかどうか（言語学では可算名詞、不可算名詞といいます）が規準となります。ただし、うえで見たように、*kitab-ko* は **kitab-ko menaʔ-ko-a* とはなりません。無生名詞は動詞には数が標示されませんので、注意しましょう。

2 名詞と後置詞

例文

1. *hatu-re=ko tain-a.*
2. *hatu-te=kin senog-a.*
3. *hatu-ate=lin hijug-a.*
4. *hatu-ta[?]-re o[?]a[?] mena[?].*
5. *hatu-ta[?]-te bas hijug-a.*
6. *hatu-tag-ate=ko hijug-a*
7. *hatu-sa[?]-re=kin tain-a.*
8. *hatu-sa[?]-te=ñ senog-a.*
9. *hatu-sag-ate=ko hijug-a.*

和訳

1. 「かれらは村に住む」
2. 「彼ら二人は村へいく」
3. 「われわれ二人は村から来る」
4. 「村には家がある」
5. 「村にバスがくる」
6. 「村から来る」
7. 「村の方に二人は住む」
8. 「村の方へわたしは行く」
9. 「村の方からかれらは来る」

ムンダ語には、日本語と同様、名詞の格変化はありません。日本語では助詞を使いますが、ムンダ語では後置詞を使用します。後置詞のなかでは、*re*, *te*, *ate* の三つが重要です。それぞれが英語の前置詞 *in*, *to*, *from* にあたります。この *re*, *te*, *ate* に *ta[?]-*, *sa[?]-* 「付近」と「方向」が加わり、後置詞は複雑な体系を持っています。上の例をまとめると以下になります。

<i>hatu-re</i>	<i>hatu-ta[?]-re</i>	<i>hatu-sa[?]-re</i>
<i>hatu-te</i>	<i>hatu-ta[?]-te</i>	<i>hatu-sa[?]-te</i>
<i>hatu-ate</i>	<i>hatu-tag-ate</i>	<i>hatu-sag-ate</i>

さらに、*cetan*, *latar*, *ayar*, *tayom* 「上、下、前、後ろ」に後置詞をつけて、位置をしめします。たとえば、*hatu-latar-re* 「村の下で」、*hatu-ayar-sa[?]-te* 「村の前の方へ」となります。

3 指示詞

例文

1. *nimin hoꝛo-ko ka=ko soab-a.*
2. *amin hoꝛo-ko ka=ñ lel-aka-d-ko-a.*
3. *niminan̄ do ka soab-a.*
4. *aminan̄ hoꝛo-ko ka=ñ lel-aka-d-ko-a.*
5. *bajar-te=lan̄ senog-a.*
6. *nimtan̄ do ka.*
7. *namtan̄ do ka.*
8. *neka hoba-ja-n-a.*
9. *naka misa-o ka hoba-aka-n-a.*

和訳

1. 「これほどの人は入らない」
2. 「あれほどの人はわたしは見たことがない」
3. 「これほどは入らない」
4. 「あれほどはわたしは見たことがない」
5. 「市場に行きましょう」
6. 「いまは行きません。(あとで)」
7. 「いまは行きません。(いまの時間はとても混んでいて、行くような時間ではない)」
8. 「こんな風になった」
9. 「こんなことは一度もおこらなかった」

指示詞は基本的には、日本語の「こ」「そ」「あ」と同様、近称、中称、遠称の三体系です。ところが、それぞれに *ni/ne* (この二つの形は母音調和によって交替する異形態です) に対して *na*, *in/en* に対しては *an*, *hin/hen* に対しては *han* という形があります。

これらのちがいはどうしておこるのでしょうか。指示詞だけではなかなかわかりにくいのですが、例文であげたような限定指示形容詞や限定指示代名詞などでは、そのちがいがあきらかになります。*nimin* 「これほどの」や *niminan̄* 「これほど」と *namin* 「これほどの」や *naminan̄* 「これほど」では、前者は特別な期待が加味されていないが、後者では期待以上、予想以上の「これほど」をさします。こうしたちがいは、指示副詞 *nimtan̄* 「このとき」と *namtan̄* 「こんなとき」、そして *neka* 「このように」と *naka* 「こんなに」にも反映され、前者は期待や予想とは関連しないが、後者は常に期待や予想をうわまわることとをさします。言語学では、この *ni-/ne-* を無標 (unmarked) といい、*na-* を有標 (marked) といいます。わたしはこの無標・有標で理解できていると思っています。

指示詞と指示詞+後置詞などの派生形について、それぞれを一覧表にしておきましたので、ご

覧ください。

指示詞

近称	中称	遠称
<i>ni/ne</i>	<i>in/en</i>	<i>hin/hen</i>
<i>na</i>	<i>an</i>	<i>han</i>

指示代名詞 (有生)

近称	中称	遠称
<i>ni-i'</i>	<i>in-i'</i>	<i>hin-i'</i>
<i>na-i'</i>	<i>an-i'</i>	<i>han-i'</i>
<i>ni-kin</i>	<i>in-kin</i>	<i>hin-kin</i>
<i>na-kin</i>	<i>an-kin</i>	<i>han-kin</i>
<i>ni-ku</i>	<i>in-ku</i>	<i>hin-ku</i>
<i>na-ku</i>	<i>an-ku</i>	<i>han-ku</i>

指示代名詞 (無生)

近称	中称	遠称
<i>ni-a/ne-a</i>	<i>in-a/en-a</i>	<i>hin-a/hen-a</i>
<i>na-ya</i>	<i>an-a</i>	<i>han-a</i>

指示副詞 (近称)

	<i>sa'</i>	<i>ta'</i>
<i>ne-re</i>	<i>ne-sa'-re</i>	<i>ne-ta'-re</i>
<i>ne-te</i>	<i>ne-sa'-te</i>	<i>ne-ta'-te</i>
<i>ne-ate</i>	<i>ne-sag-ate</i>	<i>ne-tag-ate</i>
<i>na-re</i>	<i>na-sa'-re</i>	<i>na-ta'-re</i>
<i>na-te</i>	<i>na-sa'-te</i>	<i>na-ta'-te</i>
<i>na-yate</i>	<i>na-sag-ate</i>	<i>na-tag-ate</i>

指示副詞 (中称)

	<i>sa'</i>	<i>ta'</i>
<i>en-re</i>	<i>en-sa'-re</i>	<i>en-ta'-re</i>
<i>en-te</i>	<i>en-sa'-te</i>	<i>en-ta'-te</i>
<i>en-ate</i>	<i>en-sag-ate</i>	<i>en-tag-ate</i>
<i>an-re</i>	<i>an-sa'-re</i>	<i>an-ta'-re</i>
<i>an-te</i>	<i>an-sa'-te</i>	<i>an-ta'-te</i>
<i>an-ate</i>	<i>an-sag-ate</i>	<i>an-tag-ate</i>

指示副詞（遠称）

	<i>sa'</i>	<i>ta'</i>
<i>hen-re</i>	<i>hen-sa'-re</i>	<i>hen-ta'-re</i>
<i>hen-te</i>	<i>hen-sa'-te</i>	<i>hen-ta'-te</i>
<i>hen-ate</i>	<i>hen-sag-ate</i>	<i>hen-tag-ate</i>
<i>han-re</i>	<i>han-sa'-re</i>	<i>han-ta'-re</i>
<i>han-te</i>	<i>han-sa'-te</i>	<i>han-ta'-te</i>
<i>han-ate</i>	<i>han-sag-ate</i>	<i>han-tag-ate</i>

指示限定詞

これほどの	それほどの
<i>nimin</i>	<i>imin</i>
<i>namin</i>	<i>amin</i>

指示限定名詞

これほど	それほど
<i>niminai</i>	<i>iminai</i>
<i>naminai</i>	<i>aminai</i>

指示副詞（時）

この時	その時
<i>nimtai/nimtui</i>	<i>imtai/imtui</i>
<i>namtai/namtui</i>	<i>amtai/amtui</i>

指示副詞（様態）

このように	そのように	あのよう
<i>neka</i>	<i>enka</i>	<i>henka</i>
<i>naka</i>	<i>anka</i>	<i>hanka</i>

4 疑問詞

例文

1. *oko hon taiken-a?*
2. *cana=m cika-ta-n-a?*
3. *cilika mena[?]-me-a?*
4. *okoe taiken-a?*
5. *oko-ni[?] taiken-a?*

和訳

1. 「どの子だったか」
2. 「何をしていますか」
3. 「どうですか」
4. 「だれでしたか」
5. 「どの人でしたか」

疑問詞については、ある程度基本会話編でものべましたが、指示詞とよく似た派生形をもっています。次の表は数に対応した派生形で、その下の表は後置詞の付いた派生形です。

疑問代名詞

どんな	どの	どのような
<i>can-i[?]</i>	<i>okon-i[?]</i>	<i>cilikan-i[?]</i>
<i>can-kin</i>	<i>okon-kin</i>	<i>cilikan-kin</i>
<i>can-ku</i>	<i>okon-ku</i>	<i>cilikan-ku</i>
<i>can-a/cin-a</i>	<i>oko-a</i>	<i>cilikan-a</i>

疑問副詞 (場所)

	<i>sa[?]</i>	<i>ta[?]</i>
<i>ko-re/oko-re</i>	<i>ko-sa[?]-re/oko-sa[?]-re</i>	<i>ko-ta[?]-re/oko-ta[?]-re</i>
<i>ko-te/oko-te</i>	<i>ko-sa[?]-te/oko-sa[?]-te</i>	<i>ko-ta[?]-te/oko-ta[?]-te</i>
<i>oko-ate</i>	<i>oko-sag-ate</i>	<i>oko-tag-ate</i>

5 不定詞

例文

1. *okoe hiju²-aka-n-a.*
2. *okoe do hiju²-aka-n-a.*
3. *jaa merom nam-a-i-me.*
4. *jeta merom ka=ko nam-o²-a.*
5. *am jaa-imunuñ kaji-re-o=ñ senog-a.*
6. *jaa-impuruñ maparañ-re-o ka=ñ suku-a.*
7. *jaa-ta²-re tain-re-o=ko hewa-o²-a.*
8. *am lekan horo jeta-ta²-re bai-ku-a.*
9. *jaa-leka bai-a.*
10. *jeta-leka ka=ñ dari-a.*

和訳

1. 「だれが来ていますか」
2. 「誰かが来ています」
3. 「どんな山羊でもいいから、探しなさい」
4. 「どんな山羊も、かれらは探せない」
5. 「あなたがどんなに言っても、わたしは行きます」
6. 「どんなに大きくても、わたしは好きにはなれない」
7. 「どんなところに住んでも、かれらは慣れるだろう」
8. 「あなたみたいな人はどんなところにもいない」
9. 「どんな風でもいいからつくる」
10. 「どんな風にしても、わたしはできない」

一般には、不定詞といえば *Infinitive* をさし、いわゆる動詞の原形をさします。しかし、ここでいう不定詞は *Indefinite* をさします。 *Indefinite article* や *Indefinite pronoun* をそれぞれ「不定冠詞」や「不定代名詞」と訳しているのです。不定詞としましたが、非限定詞といった方がいいかもしれません。

日本語で、「だれ」といった場合、不定詞とも疑問詞ともとれます。たとえば、「誰かが来た」(二番目の例文に対応) ということ不定詞ですし、「誰が来たの」(一番目の例文に対応) ということ疑問詞です。ムンダ語でも、同様に、不定詞と疑問詞は似ています。また、例文のなかにあるような「どんなに・・・」という譲歩文も、この不定詞を使って、あらわします。日本語にも「誰が何としようとも」という言い方がありますが、ムンダ語でも同じです。

指示詞のところで、*ile* と *a* の区別を紹介しましたが、ここでも同様の区別がみられます。ただし、*jaa* に対しては *jeta* が使われます。前者は肯定文となって、譲歩を意味し、後者は否定文

となって、譲歩否定を意味します。

上の例文のうち、次の例文を取り上げて、説明を加えておきます。

jaa-impuruñ maparañ-re-o ka=ñ suku-a.

impuruñ は指示限定名詞 *imuruñ*, (*imnuñ* の異形態) に、接中辞 *-p-* が付いたものです。これは *marañ* 「大きい」に接中辞が付いた *ma<pa>rañ* 「とても大きな」に呼応して接中辞を取っています。この接中辞の用法は「29 形容詞」をご覧ください。例文の最初の部分 *jaa-impuruñ maparañ-re-o* までで、後置詞 *-re* と「も」を意味する助詞 *-o* が譲歩文を示し、「どんなにそれほど大きくても」となります。

不定代名詞

<i>okoe/okon-i[?]</i>	<i>jaae/jaan-i[?]</i>	<i>jetae/jetan-i[?]</i>
<i>oko(n)-kin</i>	<i>jaa(n)-kin</i>	<i>jeta(n)-kin</i>
<i>okon-ku</i>	<i>jaan-ku</i>	<i>jetan-ku</i>
<i>oko-a</i>	<i>jaa</i>	<i>jeta</i>

不定副詞 (場所)

	<i>sa[?]</i>	<i>ta[?]</i>
<i>ko-re/oko-re</i>	<i>ko-sa[?]-re/oko-sa[?]-re</i>	<i>ko-ta[?]-re/oko-ta[?]-re</i>
<i>ko-te/oko-te</i>	<i>ko-sa[?]-te/oko-sa[?]-te</i>	<i>ko-ta[?]-te/oko-ta[?]-te</i>
<i>oko-ate</i>	<i>oko-sag-ate</i>	<i>oko-tag-ate</i>
<i>jaa-re</i>	<i>jaa-sa[?]-re</i>	<i>jaa-ta[?]-re</i>
<i>jaa-te</i>	<i>jaa-sa[?]-te</i>	<i>jaa-ta[?]-te</i>
<i>jaa-ate</i>	<i>jaa-sag-ate</i>	<i>jaa-tag-ate</i>
<i>jeta-re</i>	<i>jeta-sa[?]-re</i>	<i>jeta-ta[?]-re</i>
<i>jeta-te</i>	<i>jaa-sa[?]-te</i>	<i>jeta-ta[?]-te</i>
<i>jeta-ate</i>	<i>jeta-sag-ate</i>	<i>jeta-tag-ate</i>

6 文の基本構造

ムンダ語の文の基本構造はつぎのようにあらわすことができます。

主語(名詞句)+間接目的語(名詞句)+直接目的語(名詞句)+(後置詞句)+(副詞句)+動詞

ムンダ語では、主語と間接目的語、直接目的語を区別する名詞の格語尾は標示されません。したがって、主語と目的語は語順であらわす場合が多いですが、その語順も主語の方が先にくる傾向にあるという程度のもので、絶対ではありません。動詞のなかに標示される主語標示と目的語標示によって、わかることもありますが、主語と目的語が同じ人称語尾をとった場合には、それもわかりにくくなります。その点については、あとで紹介します。間接目的語をとる動詞はすくなく、その場合には、間接目的語は「…のために」という意味になって、*naŋgen* という後置詞をとって、後置詞句となることもあります。ふつう、後置詞句は時間や場所を標示します。また、副詞句も同様です。後置詞句や副詞句は二つ以上、あらわれることもあります。また、後置詞句と副詞句の位置は自由で、文頭にたつ場合も多いです。少し長い文章を例文としてあげておきましょう。

hon-ko oŋa[?]-re seta-ko(-naŋgen) hola maŋdi-ko om-a-d-ko-a.

SUB-PL 家-PP OBJ-PL(-BENEF) 昨日 OBJ-PL あげる-ASP-TR-OBL:PL-IND

「子供たちが家で犬たち（のため）に、昨日ご飯をあげました。」

日本語の訳とくらべてわかるように、日本語の語順とほぼ対応します。とくに、日本語と同様、後置詞句である *oŋa[?]-re* 「家で」や副詞である *hola* 「昨日」の位置はかなり自由に、動詞の前であればどこにでも挿入できます。しかし、主語である *kupul-ko* 「お客さんたち」と間接目的語である *seta-ko* 「犬たち」を入れ替えると、日本語のような「が」や「に」がないために、混乱がおきます。ただし、「犬たちがお客さんにご飯をあげる」ことは介助犬といった特殊な場合を除けば、意味的におかしいので、「お客さんたち」と「犬たち」を入れ替えても、たぶん理解してもらえると思います。ムンダ語では、コンテキストに依存した文章が一般的なので、そのコンテキストがはっきりとしている限り、主語と目的語の位置を入れ替えても、大丈夫です。コンテキストに依存しない文章をつかって、「こういいいますか」とムンダ人に聞くと、「こんなことが起こるはずもないので、言わない」という返事がかえってくるのがよくあります。文法調査の難しさをかんじますが、みなさんも文章がコンテキストに依存していることをいつも忘れないでください。

このように、文の基本構造である語順は日本語とよく似ています。一番ことなるのは、次節以降であつかう動詞の構造です。とくに、日本語は主語や目的語を省略するケースが多いのですが、ムンダ語では主語や目的語を省略してはわからなくなります。動詞に人称を標示しなくてはムンダ語の意味は通じません。

7 動詞の基本構造

平叙文における、動詞の基本構造をしめすと、つぎのようになります。

動詞語幹+アスペクト標識+自動詞標識・他動詞標識+目的語標識+ *-a* +主語標識

(動詞語幹=動詞語根+接辞、自動詞標識 = *-n-*、他動詞標識 = *-d-*、目的語標識と主語標識=人称接辞)

平叙文の場合、未来形あるいは普遍的現在形(「地球は丸い」など)ではアスペクト標識、自動詞・他動詞標識、目的語標識などはあられません。その場合には、主語が無生名詞ならば動詞語根に *a* をつけるだけで文が成り立ちます。

hon-ko dub-a-ko. 「子供たちがすわる。」

hon-ko sim=ko jom-e-a. 「子供たちが鶏肉をたべる。」

ムンダ語の大きな特徴として、本来名詞とみなされる単語が動詞語根としてつかわれることです。たとえば、*buru* 「山、丘」や *gara* 「川」などが動詞として、つぎのように使われています。

hon-ko saan=ko buru-ke-d-a

子供-PL 薪 =SUB:PL 山-ASP-TR-IND

「こどもたちが薪を積み上げました」

hon-ko hora-re=ko gara-aka-d-a.

子供-PL 道-LOC=SUB:PL 川-ASP-TR-IND

「こどもたちは道に溝を掘って川のようにしています。」

上の例からムンダ語は名詞と動詞の区別がない言語と言われることがよくあります。

そういった特別な言語例として、言語学者が取りあげることも事実です。とくに、1903年に出版された『ムンダ語文法』(Mundari Grammar)において、著者のホフマン神父が、ムンダ語には品詞がなく、「おなじ無変化の形が同時に接続詞、形容詞、代名詞、副詞、動詞、名詞になり、..(中略)・・・あいまいな融通性のある語(a vague elastic word)」があるだけだと宣言してしまったために、そう信じている言語学者が多いのです。

これは余談ですが、オランダでは、このホフマンの『ムンダ語文法』は世界の十大文法書の一つと数えられるほど、有名なんだそうです。しかし、わたしは名詞と動詞の区別はあるとかがえています。じつは、学術雑誌『言語類型論』(Linguistic Typology)に以下のような論文を、オーストラリア国立大学教授のニコラス・エヴァンスとの共著でまとめました。

Nicholas Evans and Toshiki Osada (2005) Mundari: The myth of a language without word classes, *Linguistic Typology* 9:351-390

世界の言語の中で、品詞がないといわれている言語について、エヴァンズ教授が類型論的な分析を加え、長田がムンダ語について述べています。名詞を動詞として使用することはかなり頻繁に起きますが、動詞が名詞になる場合は少ないことなどを例を挙げて指摘しています。言語学的

な研究を進めたい人はどうぞ読んでみてください。

前節では、ムンダ語と日本語の基本的な語順がよく似ていると指摘しました。しかし、ムンダ語と日本語でことなる点もあります。大きな相違点は主語や目的語を標示する人称接辞です。この人称接辞は、日本語にはまったくみられません。しかし、おなじ日本の言語であるアイヌ語には使われています。世界の言語をみわたすと、この人称接辞は珍しい現象ではありません。しかし、ムンダ語では主語に呼応する人称接辞が動詞の最後に位置する場合と、動詞の直前にあらわれる目的語や後置詞句にくっついた位置にあらわれる場合があり、固定されていません。とくに、動詞の前に、しかも前の項にくっついて人称接辞があらわれるのはめずらしいようです。例をあげておきます。「あなたはご飯を食べた」には次の二つ、どちらも使います。

(A) *maŋdi=m jom-ke-d-a*

(B) *maŋdi jom-ke-d-a-m*

本来は (A) が一般的だったのだと思いますが、最近は (A) から (B) に移行する傾向がみられます。

口語日本語では、ただでさえ、二人称や一人称をいわないで、コンテキストに依存する傾向がありますが、ムンダ語では人称接辞を言い忘れると、意味が通じないことも多いので、忘れないようにしてください。

アスペクト標識と自動詞標識 *-n-* または他動詞標識 *-d-* についていえば、ホフマンはそれぞれ別のものでなく、二つあわせて、時制標識とかんがえていました。たしかに、自動詞標識または他動詞標識は単独でそれだけがあらわれることはありません。たえずアスペクト標識にくっついた形であられます。しかし、アスペクト標識は未来構文において、自動詞標識または他動詞標識をとまわらないで、単独であられます。したがって、別々のものとかんがえるのが妥当だと思います。アスペクト標識、自動詞・他動詞標識についてはあとでくわしくのべます。

さいごに、動詞の基本構造にあげた *-a* について説明しておきます。ホフマンは動詞化する (verbalizing) *-a* と呼んでいます。平叙文以外の命令文や願望文では、動詞の後ろに、この *-a* はありません。動詞化という用語では命令文や願望文での動詞は動詞でなくなることになりかねません。また、1960年代のシカゴ大学ムンダ語プロジェクトでは *predicator* という用語が使われています。わたしも、1992年に出版した『ムンダ語参照文法』(A reference grammar of Mundari) では、この用語を採用しています。しかし、この用語は最近の言語学では別の使い方がされていますし、動詞化するという用語をたんに言い換えただけの用語のようにみえるので、1996年以降はこれらの用語の使用をやめました。そのかわりに、平叙文にあらわれる点に注目して、わたしは *-a* を平叙文をしめす叙述標識 (indicative marker) と呼んでいます。命令法や願望法についてはあとでくわしくのべます。

8 自動詞と他動詞

例文

1. *dub-aka-n-a-e'*
2. *hon-ko=e' dub-aka-d-ko-a.*
3. *pulis-ko kumburu-kin=ko sab-aka-d-kin-a.*
4. *kumburu-kin sab-aka-n-a-kin.*
5. *hon-ko=e' goe'-ke-d-ko-a.*
6. *hon-ko goe'-ja-n-a-ko.*

和訳

1. 「かれはすわっています」
2. 「かれはこどもたちをすわらせています」
3. 「警察官たちは二人の泥棒を捕まえました」
4. 「泥棒二人は捕まえられました」
5. 「かれはこどもたちを殺した」
6. 「こどもたちは死んだ」

動詞

自動詞	他動詞
<i>durum</i>	<i>jom</i>
<i>inuñ</i>	<i>lel</i>
<i>añ</i>	<i>nam</i>
<i>dub</i>	<i>udub</i>

自動詞と他動詞の区別はあまりはっきりとしていません。動詞語根は自動詞としても他動詞としても使われる場合が多いです。ただし、うえにあげた *durum* 「眠る」 *inuñ* 「遊ぶ」 *añ* 「夜が明ける」などは目的語をとることがなく、これらは自動詞用法しかありません。動詞語根のうち、完全な自動詞は数えるほどしかありません。

動詞語根を自動詞とみなすか、他動詞とみなすか、決定するのはむずかしいのですが、自動詞と他動詞の区別が本来的には、ある程度できます。たとえば、一番目の例文と二番目の例文を比べてみてください。*dub* 「すわる」は基本的には自動詞ですが、他動詞としてあらわれると、「すわらせる」という使役の意味をもちます。

dub-aka-n-a-e' 座る-ASP-INTR-IND-3SG:SUB

hon-ko=e' dub-aka-d-ko-a. 子供-PL=3SG:SUB 座る-ASP-TR-3PL:OBJ-IND

一方、*sab* 「捕まえる」は基本的には他動詞ですが、自動詞用法では、「捕まえられる」という

受身の意味をもちます。

pulis-ko kumbuŋu-kin=ko sab-aka-d-kin-a.

警官-PL 泥棒-DL=3PL:SUB 捕まえる-ASP-TR-3DL:OBJ-IND

kumbuŋu-kin sab-aka-n-a-kin.

泥棒-DL 捕まえる-ASP-INTR-IND-3DL:SUB

もっとも極端な例として、*goe'* 「殺す」は他動詞ですが、自動詞では殺人者がいない場合でもつかわれます。つまり、「殺される」という意味ではなく、「死ぬ」の意味になります。

hon-ko=e' goe'-ke-d-ko-a. 子供-PL=3SG:SUB 殺す-ASP-TR-3PL:OBJ-IND

hon-ko goe'-ja-n-a-ko. 子供-PL 殺す-ASP-INTR-IND-3PL:SUB

自動詞標識 *-n-* と他動詞標識 *-d-* は基本的に自動詞の場合に前者があらわれ、他動詞の場合に後者があらわれます。しかし、未来形など、アスペクト標識があらわれないときには、この自動詞標識、他動詞標識だけが単独であらわれることがあります。つまり、いつもアスペクト標識とともに、あらわれます。また、*ta-n-* 《進行形》では他動詞の場合にも、この自動詞標識が現れます。

自動詞標識と他動詞標識は複雑で、なかなか整理がつかないところがあります。そこで、覚えるときにはアスペクト標識といっしょに覚えるといいと思います。詳しくはアスペクト標識のところを見てください。

9 主語と目的語

例文

1. *hon-ko=ko seno[?]-ja-n-a.*
2. *samae seno[?]-ja-n-a.*
3. *pusi seta-ko=e[?] hua-ke-d-ko-a.*
4. *seta-ko pusi=ko hua-ki-[?]-i-a.*
5. *pusi seta=e[?] hua-ki-[?]-i-a.*
6. *seta pusi=[?] hua-ki-[?]-i-a.*

和訳

1. 「こどもたちは行ってしまった」
2. 「時は過ぎてしまった」
3. 「猫は犬たちを咬んだ」
4. 「犬たちは猫を咬んだ」
5. 「猫は犬を咬んだ」
6. 「犬は猫を咬んだ」

主語と目的語はふつう主語＋目的語の順に位置しますが、固定されているわけではありません。目的語が先にくる場合もあります。たいていの場合は、主語と目的語の順がかわっても、どちらが主語でどちらが目的語かはコンテキストによって判断することができます。

しかし、コンテキストでもあいまいな場合があります。その場合、動詞に標示される主語標識や目的語標識が主語や目的語を決定することがあります。つまり、主語や目的語となる名詞が有生名詞である場合には、動詞に標示される主語標識や目的語標識は絶対に省かれることはありません。主語に呼応する人称接辞が動詞の前か後ろに、かならずつきますし、目的語に呼応する人称接辞が他動詞標識 *-d-* の直後にきます。

うえの例文をみるとわかるように、一匹の猫と三匹以上の犬がいて、どちらが咬んだかという場合には、動詞の目的語標識が複数形を示すときは、「一匹の猫が三匹以上の犬を咬んだ」ことを意味し、動詞の目的語標識が単数形のときには、「三匹以上の犬が一匹の猫を咬んだ」ことを意味します。

それでもあいまいなケースがおこりえます。それは主語と目的語が同じ人称接辞をもち、意味的にも、どちらともとれるケースです。うえにあげた最後の二つの例文をみてください。「猫が犬を咬んだ」のか、「犬が猫を咬んだ」のかがはっきりしません。理論的には、こうしたあいまいな文がかんがえられるのですが、ムンダ人に聞くと、そんなことはめったにないし、*okoni[?] hua-ki-[?]-i-a? seta ci pusi?* 「だれが咬んだのか。犬か猫か、どっち。」と聞けばすむことだと思います。また、こうしたあいまいな文も、つぎのような関係節をくらべると、どちらが咬んだかわかります。

pusi hua-ke-n-seta=e' goe'-ja-n-a.

「猫を咬んだ犬は死んでしまった」

pusi hua-ke-d-seta=e' goe'-ja-n-a.

「猫が咬んだ犬は死んでしまった」

ここで、*-n-* と *-d-* のちがいが重要な役割をになっています。関係節の文はあきらかに他動詞構文ですから、自動詞標識と他動詞標識という名称ではうまく説明できません。ここでは、*-n-* は主語焦点、*-d-* は目的語焦点とかんがえると理解できるかもしれません。つまり、*pusi hua-ke* 「猫咬んだ」と関係節の主要部である *seta* 「犬」の関係をみると、*-n-* では主語に焦点があてられていて、「犬が猫を咬んだ」ことを意味し、一方、*-d-* では目的語に焦点があてられていて、「猫が犬を咬んだ」とみなすことができます。

ここで、もう一点、だいじな点を指摘しておきます。他動詞構文では、主語の主要部を構成する名詞が有生名詞でなければなりません。それは大原則です。たとえば、「ボールがガラスを割った」というような文章は認められません。日本語でも、こうした文章はヘンだと感じるかもしれませんが、日本語についてはここでは問題にしません。英語では、*The food poisoned me* 「わたしは食べ物にあたった。」(文字通りに訳すと、「食べ物がわたしを毒した」ですが、この日本語では意味が通りません) というように、*food* 「食べ物」が主語になることができます。ムンダ語では、こうした文章は許されませんので気をつけてください。

言語学者はこうした不自然な例文ばかりをかんがえだして、「これはムンダ語でいいですか」と質問責めにします。また、うえであげた関係節での *-n-* と *-d-* のちがいなどを発見すると鬼の首をとったように喜びます。実際、このちがいはこれまで誰も指摘したことがなく、わたしがはじめて、そのことに気がついたときはとてもうれしかったことを覚えています。しかし、こんな例文ばかりあつめて喜んでいるから、言語学者は当該言語を話せるようになることが少ないのかもしれない。

横道ばかりそれてしまいました。ここでは、主語や目的語が有生名詞か無生名詞か、をみきわめること、有生名詞の場合には人称接辞を忘れないこと、その二点に気をつけてください。

10 派生動詞語幹(1) 受身形

例文

1. *buru lel-o[?]-ta-n-a.*
2. *kumbuṛu-ko sab-og-a-ko.*
3. *duṛum-o[?]-ta-n-a-e[?].*
4. *kug-o[?]-ta-n-a-e[?].*

和訳

1. 「山がみえています」
2. 「泥棒たちが捕まります」
3. 「かれは眠りそうです」
4. 「咳がでそうです」

動詞語根に *-o[?]* がつくと、受身動詞語幹となります。しかし、この形はたんなる受身形ではなく、最初の文例のように、*buru lel-o[?]-ta-n-a.* 「山がみえています」と、可能をあらわします。日本語の「食べられる」も可能の意味がありますので、日本語話者にはめずらしいことではありません。

また、*duṛum-o[?]-ta-n-a-e[?].* 「かれは眠りそうです」や *kug-o[?]-ta-n-a-e[?].* 「かれは咳をしそうです」では自分の意志に反して、「眠り」や「咳」をさそうケースです。いわば可能推量をあらわします。この場合、自分の意志をもっておこなう行為ではこの *-o[?]* をとることができません。たとえば、つぎの例をみてください。

**cog-o[?]-ta-n-a-e[?]*

「かれはキスをしそうです」

**beg-o[?]-ta-n-a-e[?]*

「かれは唾を吐きそうです」

キスや唾を吐くという行為は自分の意志に反しておこなうことはできません。したがって、うえのような例は許されません。

また、*-o[?]* の現れ方に制限があります。この *-o[?]* がつくと、アスペクト標識のない未来・現在形か、アスペクト標識をとる場合では、*ta-n-a* しかあらわれません。自動詞と他動詞のところでみたように、他動詞 *sab* 「捕まえる」の自動詞用法では、「捕まえられる」となって、受身の意味が生じることを指摘しましたが、この場合は *-o[?]* はつきません。ムンダ語の動詞構造が複雑なのは接辞の現れ方に制限があるためですが、根気よく覚えていってください。

11 派生動詞語幹(2)再帰形

例文

1. *tusiñ-en-ta-n-a-e*?
2. *hařagu-n-ja-n-a-ko*.
3. *soma aina-re=ʔ lel-en-ta-n-a*.
4. *ne hon hola gařa-re atu-ta-n-re daru-re=ʔ sab-en-ja-n-a*.
5. *baba hoba-oʔ redo puraʔ ge=ko bul-en-a*.

和訳

1. 「かれは服を自分で着ているところです。」
2. 「かれらは自分で降りるところです。」
3. 「ソマは鏡で自分自身をみているところです。」
4. 「このこどもは昨日、川で、流されているとき、木を自分で捕まえた（ので助かった）。」
5. 「稲が収穫し終わると、みんな自分で酔っばらう」（EM）

動詞語根が子音で終わる場合は *-en*、母音で終わる場合は *-n* がつき、「自分で・・・する」という再帰動詞語幹を形成します。この接辞も、このあとにつづくアスペクト標識に制限があります。まったくアスペクト標識がつかないか、あるいはアスペクト標識が付く場合では *ta-n-a* と *ja-n-a* だけがあとにつづくことができます。日本語でも、英語でも「自分で」ということばがつかますが、ムンダ語では動詞語根に接辞がついただけで、再帰形となります。

動詞語根のうち、この *-en/ -n* をとって動詞語幹をつくるのは、すべての動詞語根ではありません。以下の動詞は再帰接辞を取りません。

1. 本来自動詞で、他動詞用法の場合に使役の意味をもつ *dub, bolo* などもこの接辞をとりません。すでに8節でみたように、*dub* は自動詞としては「座る」、他動詞用法では「座らせる」になります。
2. 行為者が主語で、その目的語がかならず行為者とことなる条件をもつ動詞では、意味的に再帰形をもつことはできません。たとえば、*arkid* 「・・・を誘拐する」、*idi* 「・・・を持っていく」など。つまり、自分で自分を誘拐することや自分で自分を持って行くことができないからです。
3. 15節でみる使役語幹 *a-jom, a-nuu* は絶対にこの再帰接辞をとりません。これも使役構文の主語は目的語と同一ではないからです。

上のような条件はある程度日本語にも当てはまるかもしれません。再帰構文が意味するところを考えるとわかることなのかもしれません。

12 派生動詞語幹(3)相互形

例文

1. *hora-re hon-ko=ñ ad-ke-d-ko-a.*
2. *hora-re=le a<pa>d-ke-n-a.*
3. *ako-ako ge daṇḍa[?]-te=ko da<pa>l-ke-n-a.*
4. *ako-lo[?]=le da<pa>l-ke-n-a.*
5. *a<pa>d-o[?]-ta-n-a-le.*
6. *a<pa>d-en-ta-n-a-le.*
7. *hoṛo-ko piṛi-re=ko ma<pa>[?]-go<po>e[?]-ta-n-a.*

和訳

1. 「道で子供たちを、わたしは見失った」
2. 「道で、わたしたちはお互いを見失った。」
3. 「彼らはお互い同士棒で叩き合った。」
4. 「彼らとわたしたちは棒で叩き合った。」
5. 「わたしたちはお互いをほとんど見失いあっている。」
6. 「わたしたちは自分たちを見失いあっている。」
7. 「人間たちが野原で斬り合い、殺し合っている。」

「お互いに・・・しあう」という相互形は語根に接中辞 *-pV-* を挿入することによって作ります。語根のうち、自動詞ではこの接中辞をとることができません。ただし、自動詞のうち、使役を意味する他動詞用法がある *dub* などはこの接中辞をとることができます。*du<pu>b* 「お互いにすわらせる」。この接中辞をとった語幹はさらに、受身の接尾辞 *-o[?]* や再帰の接尾辞 *-en/-n* をとることができます。例文にあげた *a<pa>d-o[?]-ta-n-a-le* は「(霧やガスなどが出てきてお互いが確認できない状態において) お互いをほとんど見失いあっている」という状態を意味し、*a<pa>d-en-ta-n-a-le* は「(霧やガスなどが出てきて自分たちが確認できない状態で) 自分たちを見失いあっている」状態をいいます。

-o[?] や *-en/-n* をとることができる語根には制約がありましたが、この接中辞 *-pV-* はかなり生産的に使用できます。たとえば、*suri* (英語の *sorry* からの借用) も接中辞をとって、*su<pu>ri* 「お互いに謝りあう」の意味になります。

なお、世界の言語のいろいろな相互形をあつかった四巻本の論文集のなかに、以下の論文をまとめましたので、関心のある方はそちらをご覧ください。

Toshiki Osada (2007) Reciprocals in Mundari, Vladimir Nedjalkov and Z. Guentcheva (ed) *Typology of the reciprocal constructions*, Lincom Europa, Munich. pp. 1575-1590.

13 派生動詞語幹(4) 部分反復形

例文

1. *uri' jilu ka=le jojom-a.*
2. *oco, alo-m-a. nea jom-e-redo gogoy-a.*
3. *alo-m kumbuŕu-a. sasab-a-ko.*
4. *saan maja jogao-me. baŕi-jan-re dadal-a.*
5. *inia' hon naa' do=e' sesen-ta-n-a.*

和訳

1. 「わたしたちは牛肉を食べません。」
2. 「あぶない、だめだ。これを食べるとかならず死ぬよ。」
3. 「あなた盗んじゃだめよ。かならず捕まるよ。」
4. 「薪をちゃんとおきなさい。薪が倒れてしまうと、あたるよ。」
5. 「その人のこどもはいまでは歩いています(歩くほどに成長した)。」

反復形には部分反復と完全反復があります。ここでは部分反復だけをあつかいます。

部分反復は真理、あるいは慣習をあらわし、未来形をとります。したがって、アスペクト標識がつづくことはありません。また、この部分反復をとる単語の語形はCVC (C=子音、V=母音) だけです。なお、*goe'* はもともと **goj* でCVCでした。

jom 「食べる」 → *jojom* 「習慣的に食べる」
goe' 「死ぬ」 → *gogoe'* 「まちがいなく死ぬ」
sab 「捕まる」 → *sasab* 「まちがいなく捕まる」

この部分反復はすべての動詞でおこる派生ではありません。つまり、生産的とはいえません。これまでの辞書でも、派生形とみるよりも、数が少ないので、別の語彙としてあげられていることの方がふつうです。

なお、完全反復は複合動詞に関連してとりあげますが、完全反復はかなり生産的です。

14 派生動詞語幹(5) 受益者形

例文

1. *daru=m ma'-ke-d-a.*
2. *daru=m mag-a-ñ-ta-n-a.*
3. *mañdi hon-ko=ñ om-a-ko-ta-n-a.*
4. *seta-ko hon-ko=ñ om-ke-d-ko-a.*
5. *kaji-a-m-ta-n-a-ñ.*

和訳

1. 「あなたは木を切った。」
2. 「あなたはわたしのために木を切っている。」
3. 「わたしはご飯をこどもたち（のため）に与えた。」
4. 「わたしは犬たちをこどもたち（のため）に与えた。」
または「わたしはこどもたちを犬（のため）に与えた。」
5. 「わたしはあなた（のため）に言っています。」

この語幹は「…のために」をあらわす受益者形 (Benefactive) をしめしますが、ほかの語幹と違い、*-a* のあとにつづくのは人称接辞で、受益者 (Beneficiary) が提示されます。それにつづくのは *-ta-n-a* だけです。「…に…を与える」といった三項動詞の間接目的語をしめすことが多いので、従来の解釈では間接目的語をしめすための接辞だとかんがえられてきました。

その例をもう一度みてください。受益者構文 *mañdi hon-ko-ñ om-a-ko-ta-n-a.* では、受益者である「こどもたちに」が動詞に受益者接辞 *-a-* とともに標示されています。一方、受益者接辞がない三項動詞では *seta-ko hon-ko-ñ om-ke-d-ko-a.* となり、「犬たちを」または「こどもたちを」のどちらかが動詞に標示されています。同じ人称接辞なので、解釈は二通りかんがえられます。つまり、「わたしは子供たちに犬たちをあげました」か、「わたしは犬たちに子供たちをあげました」になります。意味的には前者の方がありそうですが、後者の *hon* を「(犬の) 子たち」と考えると問題ないかもしれません。

ここで、だいじなのは受益者構文であってもなくても、間接目的語と直接目的語のどちらか一つだけが、動詞に標示されることです。その点は気をつけてください。

こうした三項動詞だけに、この *-a* があらわれるわけではありません。最初の二つをくらべればわかるように、三項動詞以外にも、使用されます。この場合は、受益者形とみなすのが妥当だと思います。これを受益者形であると最初に指摘したのは、ラーム・ダヤル・ムンダ先生です。わたしも先生の指摘にしたがって、受益者形とみなしています。

15 派生動詞語幹(6)使役形

例文

1. *hon-iñ-kuři maṇḍi=ʔ jom-ke-d-a.*
2. *hon-iñ-kuři maṇḍi=m a-jom-ki-ʔ-i-a.*
3. *toa=eʔ nu-ke-d-a.*
4. *toa=ñ anu-ki-ʔ-i-a.*
5. *ili=ñ kirin-ke-d-a.*
6. *ili=ñ akirin-ke-d-a.*

和訳

1. 「わたしの娘はご飯を食べた。」
2. 「わたしの娘にあなたはご飯を食べさせた。」
3. 「かれは牛乳を飲んだ。」
4. 「わたしは乳を飲ませた。」
5. 「わたしは酒を買った。」
6. 「わたしは酒を買わせた（売った）。」

この使役動詞語幹はすべての動詞語根から派生するものではありません。赤ちゃんを育てるといった限られた場面の単語にあらわれます。たぶん、古い接辞の名残なのでしょう。その単語を下にあげておきます。

使役動詞語幹

語根	意味	a-	使役形
<i>jom</i>	食べる	<i>a-jom</i>	食べさせる
<i>nuu</i>	飲む	<i>a-nuu</i>	飲ませる
<i>jal</i>	舐める	<i>a-jal</i>	舐めさせる
<i>kirin</i>	買う	<i>a-kirin</i>	買わせる(売る)

これ以外の動詞では、使役動詞はどのようにあらわすのでしょうか。それは複合動詞として、主動詞の後ろに *rika* をつけます。そうすれば、「・・・させる」という使役の意味になります。また、すでにのべたように、自動詞である動詞語根、たとえば *dub* 「すわる」などが目的語をとると、動詞語根はそのままでも、「すわらせる」という使役の意味になります。使役形ならばすべて *a-* を動詞語根につければいい、あるいは受身形ならば動詞語根に *-oʔ* をつけばいい、と簡単にいかないのがムンダ語のむずかしいところです。自動詞、他動詞、使役、受身、再帰などが微妙に絡み合って動詞構造を複雑なものにしています。さらに、アスペクト標識がかさなると、もっと複雑です。アスペクト標識については次節から学習しますが、動詞語根の派生動詞語幹についてはしっかり頭に入れておきましょう。

16 アスペクト標識(1)-a- と -ja-

アスペクト標識はつぎの六つです。

1. *a*
2. *ke*
3. *le*
4. *ja*
5. *ta*
6. *aka*

うえにあげたうち、*ke* と *le*、*ta* と *aka* は対比しながらおぼえるために、次節以降でべつべつに取りあげます。ここで、*a* と *ja* について説明しておきます。まず、例をあげておきます。

例文

1. *soma do=ñ itu-a-n-a.*
2. *seta-ko maṅḍi=ñ om-a-d-ko-a.*
3. *hon-ko duṛum-ja-n-a-ko.*
4. *hon-ko goe'-ja-n-a-ko.*
5. *seta-ko maṅḍi=ñ om-a-ko-ta-n-a.*

和訳

1. 「ソマはわたし知っています。」
2. 「犬たちにご飯をわたしはあたえた。」
3. 「こどもたちは寝てしまった。」
4. 「こどもたちは死んでしまった。」
5. 「犬たちにご飯をわたしは与えています。」

和訳をみても、この *-a-* と *-ja-* がどんなアスペクトなのか、わかりにくいと思います。

まず、*-a-* についてみていきましょう。このアスペクト標識のあとに、自動詞標識 *-n-* がつくと、*-an-* はすでにある動作が完了し、その影響が現在もつづいていることをしめします。一方、*-ad-* はうえのような三項動詞（「 $\cdot\cdot$ は $\cdot\cdot$ に $\cdot\cdot$ をあげる」というような例）の間接目的語を目的語標示として、動詞に標示する場合にあらわれ、完了相を意味します。どちらも頻度が低く、*itu-a-n-a-ñ* 「私知っています」というフレーズ以外、ほとんど聞くことがありません。*-ad-* の方は三項動詞でよく使われますが、意味がもう一つつかみ切れていません。ムンダ先生はこのアスペクト標識を *cislocative* と名付けています。

つぎに、*-ja-* についてみていきましょう。このアスペクト標識のあとに、自動詞標識 *-n-* がつく *-jan-* は、「すでに動作が始まってしまったこと」をさし、日本語では「 $\cdot\cdot$ してしまった」に

対応します。ところが、他動詞標識 *-d-* がつくると、意味がかなりちがいます。*-ja-d-* は時制からみると、過去のことでなく、現在のことをしめし、「すでに動作が始まっているが、その動作がまだつづいていること」をさします。*-ja-n-* では過去を、*-ja-d-* では現在をしめし、時制としては矛盾があるように思いがちですが、「すでに動作が始まっている」点に注目して、始動相 (ingressive) と名づけておきます。

アスペクト標識がいかに複雑かという例として、つぎの二つの文章をあげておきます。

1. *kula hon-ko=e' lel-ja-d-ko-a.*
2. *kula hon-ko=e' lel-ta-n-a.*

kula 「虎」*hon-ko* 「子供たち」*e'* 「三人称単数主語：虎に呼応」*lel* 「見る」*ko* 「三人称複数目的語：子供たちに呼応」*-a* 「叙述標識」と分析できます。この二つの文はアスペクト標識と自動詞・他動詞標識が違う以外は変わりません。じつは、うへの二つの文は意味はまったく同じで、「虎が子供たちを見ている」です。他動詞標識がある *-ja-d-* では *hon-ko* という目的語が標示されていますが、あとは *-ja-d-* と *-ta-n-* だけの違いです。あえて違いを強調させると、1. は「すでに見始めて、今も見ている」ことをいい、2. は「現在、見続けている」ことをいっています。

アスペクト標識 *-ta-* については 18 節でご紹介しますが、この言語研修で学ぶ方言だけを見ると、*-ta-n-* とだけ出てくることが圧倒的に多く、*-ta-d-* が使われることが少ないことと、この *-ja-d-* と *-ta-n-* が同じ進行形として使われることが関連していることは明らかです。

もう一言付け加えておくと、ホー語やサンタル語などのケルワル諸語はお互に通じるほどで、非常に近い言語差しかありません。しかし、サンタル語の動詞構造はもっと複雑で、「あなたの子供たち」という主語や目的語の所有者である「あなたの」に呼応する *-tam* まで動詞に標示されます。所有者標示 (Possessor marking) というのは世界の言語の中でも珍しいと聞きます。

なお、現在、このケルワル諸語に属するコルワ語を研究調査している小林正人東大教授がムンダ語とコルワ語の言語特徴の比較について、文化講演として発表して下さることになっています。この複雑な言語構造にも触れてくれるはずですよ。

ムンダ語のアスペクト標識と自動詞・他動詞標識は大変複雑で、正直いってなかなか整理することがむずかしいです。うへのアスペクト標識とそれにつづく自動詞・他動詞標識のうち、*an* と *ad* については頻出頻度も低いので、分析的に考えずに、そのまま丸暗記する方がいいかもしれません。

17 アスペクト標識(2)-ke- と -le-

例文

1. *durum-ke-n-a-e'*.
2. *ranci-te=ñ sen-ke-n-a.*
3. *mañdi=ñ jom-ke-d-a.*
4. *mañdi=ñ jom-ke-n-a.*
5. *durum-le-n-a-e'*.
6. *ranci-ate=ñ hiju'-le-n-a. ne-re=ñ tain-ta-n-a.*
7. *mañdi=ñ jom-le-d-a. mendo ka-ñ bi'-ja-n-a*

和訳

1. 「かれは寝た」
2. 「ランチャーへわたしは行った」
3. 「ご飯をわたしは食べた。」
4. 「ご飯をわたしは食べた。」
5. 「かれは寝た。(いまは起きている)」
6. 「ランチャーからわたしは来た。ここに住んでいます。」
7. 「ご飯をわたしは食べた。しかし、お腹がいっぱいにならなかった。」

アスペクト標識のうち、*ke* は単純な完了相 (Completion)、*le* は現在との関連を意識した完了相 (Anterior) をあらわします。日本語では *ke* は過去として訳します。*le* も過去として訳しますが、現在はその動作や状態とは別の動作や状態であることを示唆します。

例文から抜き出して説明を加えておきます。

ranci-te=ñ sen-ke-n-a.

ランチャー-PP=1SG:SUB 行く-ASP-INTR-IND

ranci-ate=ñ hiju'-le-n-a.

ランチャー-PP=1SG:SUB 来る-ASP-INTR-IND

mañdi=ñ jom-ke-d-a.

ご飯 =1SG:SUB 食べる-ASP-TR-IND

mañdi=ñ jom-le-d-a.

ご飯 =1SG:SUB 食べる-ASP-TR-IND

-ke- は単なる完了なので、「私はランチャーに行った」と「私はご飯を食べた」となります。しかし、*-le-* は現在と関連していて、今は別のことをしていることを意味するので、「私はランチャーから来た(そして、今は村に住んでいる)」を、「私はご飯を食べた(しかし今は食べ終わって

別のことをしている)」をそれぞれ意味します。

ここまで、*-d-* と *-n-* を他動詞標識と自動詞標識と呼んできました。ただし、例外があります。上の文例から抜き出しておきます。

maṇḍi=ñ jom-ke-d-a.

ご飯 =1SG:SUB 食べる-ASP-TR-IND

maṇḍi=ñ jom-ke-n-a.

ご飯 =1SG:SUB 食べる-ASP-INTR-IND

この二つの文はあきらかに他動詞構文です。その他動詞構文に、自動詞標識 *ke-n* が現れるのなら、自動詞標識とは言えなくなります。これらの違いはなかなかはっきりしません。

ラーム・ダヤル・ムンダ先生によれば、前者は目的語に焦点が置かれ、後者は主語の焦点が置かれていると解釈しています。この解釈がうまくあてはまる例として、「9 主語と目的語」であげた「猫を咬んだ犬」と「猫が咬んだ犬」を区別する *-n-* と *-d-* があります。しかし、こうした焦点のちがう例は *ke-d-* と *ke-n-* の区別にだけにあてはまります。わたしが自動詞標識、および他動詞標識とみなしている *-n-* と *-d-* を、ムンダ先生は一括して焦点標識（前者を主語標識、後者を目的語標識）とみなしていますが、これには無理があります。たとえば、*le* のつく他動詞構文では *le-d* だけが許されます。つぎのような文は許されません。

**maṇḍi=ñ jom-le-n-a.*

一つ一つの形態素がそれぞれ一つの文法要素をあらわしていれば、解釈はかんたんにすむのですが、なかなかそうはいきません。そのへんの整理がつかないところがムンダ語動詞構造の複雑さを物語るとともに、おもしろいところだと思っています。

なお、*ke* や *le* は日本語の訳だけを見ると、過去形とかがえがちですが、つぎのように未来形とともに *ke* と *le* があらわれますので、過去形とみなすのはまちがいで、あくまでも完了相をしめしています。未来形の場合は、自動詞標識や他動詞標識はありませんので、注意してください。

maṇḍi=ñ jom-ke-a.

「ご飯をわたしは食べてしまいます。(なにかんがえずに)」

maṇḍi=ñ jom-le-a.

「まず、ご飯をわたしは食べてしまいます。(そして、なにかをします)」

18 アスペクト標識(3)-ta- と -aka-

例文

1. *birsa muṅḍa-a' murutu tiṅgu-aka-n-a.*
2. *setag-ate=ñ dub-aka-n-a.*
3. *setag-ate=ñ dub-ta-n-a. mendo i' ka uruñ-o'-ta-n-a.*
4. *nā' ge ranci-te=ñ sen-ta-n-a.*
5. *setag-ate=ñ sen-aka-d-a.*
6. *ranci do=ñ sen-aka-n-a. mendo ṭaṭa do ka=ñ sen-aka-n-a.*
7. *ranci do=ñ lel-aka-d-a.*
8. *maṅḍi=ñ jom-aka-d-a.*
9. *maṅḍi=ñ jom-ta-d-a.*

和訳

1. 「ビルサ・ムンダの像が建っています。」
2. 「朝から、わたしはすわったままです。」
3. 「朝から、(トイレに何度も) すわっています。しかし、便はできません。」
4. 「今、わたしはランチャーに行くところです。」
5. 「朝から、わたしは歩き通しです。」
6. 「ランチャーへは行ったことがあります。しかし、ターターには行ったことはありません」
7. 「ランチャーは見たことがあります。」
8. 「ご飯は食べました。」
9. 「ご飯はいま食べたばかりです。」

ta は進行相 (Progressive) を、*aka* は継続相 (Continuous) をあらわします。

その違いは、動詞が状態を示す場合 (stative verb) と、動作を示す場合 (active verb) で、ことなります。状態がそのままつづいている場合には、*aka* を使います。たとえば、最初の「ビルサ・ムンダの像が建っています」がそれにあたります。一方、動作がつづいている場合には、*ta* を使います。

上の例文から抜き出してみます。

setag-ate=ñ dub-aka-n-a.

朝-PP=1SG:SUB 座る-ASP-INTR-IND

naa' ge ranci-te=ñ sen-ta-n-a.

今 EMPH ランチャー-PP=1SG:SUB 歩く-ASP-INTR-IND

これら二つの例文は英語で言えば、'sitting, going' の進行形に当たるものです。しかし、「座る」は状態を示す動詞で、「歩く」は動作を示す動詞なので、上は継続相標識 *-aka-* が続き、下は進行

相標識 *-ta-* が続きます。言語学では、進行相をテリック (telic 動作にかならずおわりがある場合) と継続相をアテリック (atelic そうした明確なおわりがない場合) という名で区別しています。

逆に言えば、状態を示す動詞語幹が *ta-n* をとると、動作をあらわします。たとえば、*dub-ta-n-a* というと、「すわった状態」ではなく、「すわるという動作」をあらわし、「座る」とその動作が完了することになります。一方、本来動作を示す動詞語幹が *aka* をとると、つぎの二つの意味があります。

1. その動作をもうすでに経験した状態であることをしめす場合、たとえば *lel-aka-d-a* は「見たことがあります」を意味します。英語の経験を表す現在完了 'have been' と同じです。
2. その動作を経験して、その効果がまだつづいている場合、たとえば *jom-aka-d-a* は「食べました (ので、お腹がいっぱいです)」を意味します。英語の現在完了と同じです。

ただし、うえの二つの *sen-aka-n-a* をみると、「行く」の動作がすでに経験した場合と、「行く」という状態が継続されている場合があります。状態を示すのか、動作を示すのかで違いがある点に注意しましょう。

もう一つ、*-ta-* に他動詞標識が付いた *ta-d* について、まだ触れていません。普通に考えると、進行相をしめしているように思いますが、じつは、方言によって意味がちがうのです。タマル方言では *aka-d* と同じように、経験した動作をしめしますが、ハサダ方言ではちょうどいま経験した動作をしめします。

すでに、*ja-d* と *ja-n* が時制がことなることを指摘しましたが、おなじアスペクト標識に、自動詞標識がつく場合と、他動詞標識がつく場合で、アスペクト標識の意味がことなることがあります。その不整合さが方言差も含めると、もっと大きくなりますが、ここではハサダ方言だけをおぼえてください。

19 時制とアスペクト

例文

1. *dub-aka-n-taiken-a-e'*.
2. *goe'-ja-d-ko-taiken-a-e'*.
3. *buru lel-o'-ta-n-taiken-a*.
4. *birsa muṇḍa-a' murutu tiṅgu-aka-n-ge-tain-a*.
5. *dub-aka-n-ge-tain-a-e'*.

和訳

1. 「かれはすわっていました。」
2. 「かれは人々を殺そうとしていました」
3. 「山がみえていました。」
4. 「ビルサ・ムンダの像はずっと建っているだろう」
5. 「かれはずっとすわっているだろう」

ムンダ語では、とくに時制の区別だけをあらわす語はありません。アスペクト標識と自動詞標識あるいは他動詞標識をつかって、過去や現在をあらわします。時制の区別をあえておこなえば、つぎのようになります。

現在：*aka-n, ta-n, ja-d, a-n*

過去：*ke-n, ke-d, le-n, le-d, ja-n, a-d, ta-d, aka-d*

うえにあげたアスペクト標識と自動詞・他動詞標識の組み合わせのうち、現在をあらわす進行形や継続形については、進行形や継続形に、*taiken-a* をつけくわえることで、過去進行形や過去継続形にすることができます。また、*ge-tain-a* をつけくわえることで、未来継続形となります。

ここで、ムンダ語研究史を振り返っておきます。最初に『ムンダ語文法』を著したのはノット牧師 (Nottrott 1882) です。続いて、ホフマン神父 (Hoffmann 1903) です。そして、クック牧師 (Cook 1965) が博士論文としてムンダ語文法をまとめました。いずれもモデルは西洋語文法書なので、*ken, ked* はすべて過去形とみていました。彼らは自動詞標識・他動詞標識もまとめた形で過去とみなしていました。

これらはアスペクト標識だとみなしたのは、我が師ムンダ先生がはじめてでした。以下がその論文です。私もムンダ先生に従って、アスペクトとして論じています。

Ram Dayal Munda (1971) Aspects of Mundari verb, *Indian Linguistics* 32:27-49.

20 命令法

例文

1. *maṇḍi jom-e-me.*
2. *maṇḍi jom-ke-m.*
3. *maṇḍi jom-le-m.*
4. *maṇḍi jom-ta-m.*
5. *maṇḍi jom-aka-m.*
6. *maṇḍi jom-ja-m.*
7. *maṇḍi alo-m jom-a.*

和訳

1. 「ご飯を食べなさい。」
2. 「ご飯を食べなさい。(いま食べないと、あとで食べるチャンスがない)」
3. 「まず、ご飯を食べなさい。(そして、・・・)」
4. 「ご飯を食べなさい。(人生には限りがあるので、いまご飯を食べるべきだ。)」
5. 「ご飯を食べて、準備しておきなさい。」
6. 「(なにかをするついでに) ご飯を食べなさい。」
7. 「ご飯を食べるな。」

命令文の構造

動詞語幹+アスペクト標識+目的語標識+ *-me/ -ben/ -pe*

禁止文の構造

alo + -m/ -ben/ -pe 動詞語幹+アスペクト標識+目的語標識+ *-a*

命令形では、平叙文の最後、または主語標示である人称接辞の直前に、かならずあらわれる叙述標識 *-a* がありません。命令文の構造をみればわかるように、まず語幹がきます。そしてアスペクト標示が語幹のあとにつづきます。

語幹と書きましたが、語幹は語根+派生接辞を意味します。ここまで学んできたことを思い出してください。語幹のうち、再帰動詞語幹 *-en/-n*、相互動詞語幹 *-<pV>*、受益者動詞語幹 *-a*、使役動詞語幹 *a-* が命令形をとることができます。反復動詞語幹は慣習的行為をあらわすので、ふつう命令形はとりません。命令文の構造では、アスペクト標識のあとに自動詞標識または他動詞標識はきませんので、注意しましょう。ただし、他動詞構文が命令文を作れないことを意味するものではありません。他動詞の場合には他動詞標識なしで、目的語標識をとります。そして、最後は二人称単数 *-me* ・双数 *-ben* ・複数 *-pe* のいずれかでおわります。一方、命令形の否定、禁止は文頭に、*alo + -m/-ben/-pe* がつき、叙述標識 *-a* がさいごにつづきます。

この節の例文をみてください。一番最初の文が一般的な命令文です。そのつぎから並んでいるのが、アスペクト標識だけが付いた命令文です。従来、*-ked* を分析せずに、過去形とみなしてきたことを前節で触れましたが、命令文では *-ke* などのアスペクト標識が自動詞標識・他動詞標識を伴わずに出てくることから、アスペクト標識の分析が生まれました。もう一度、みておきましょう。

1. *maṇḍi jom-ke-m. -ke* 完了相

「ご飯を食べなさい。(いま食べないと、あとで食べるチャンスがない)」

2. *maṇḍi jom-le-m. -le* Anterior 完了相

「まず、ご飯を食べなさい。(そして、何かをする)」

3. *maṇḍi jom-ta-m. -ta* 進行相

「ご飯を食べなさい。(人生には限りがあるので、いまご飯を食べるべきだ。)」

4. *maṇḍi jom-aka-m. -aka* 継続相

「ご飯を食べておきなさい。(これから何かをするのでその準備をしておきなさい)」

5. *maṇḍi jom-ja-m. -ja* 始動相

「(なにかをするついでに) ご飯を食べなさい。」

二つの完了相や継続相などはわかりやすいですが、進行相などはわかりにくいかもしれません。このように、命令文によって、アスペクト標識の違いを知ることができるのです。訳には苦労していますが、アスペクト標識の意味をもう一度確認してください。

最後に、語幹のちがう命令文の例文をあげておきましょう。

例文

1. *haragu-n-me* (再帰動詞語幹)

2. *na<pa>m-ko-pe* (相互動詞語幹)

3. *om-a-ñ-me* (受益者動詞語幹)

4. *a-jom-ta-i-me* (使役動詞語幹)

和訳

1. 「自分で降りなさい」

2. 「かれらとお互いに会いなさい」

3. 「わたしにください。」

4. 「たべさせてあげなさい」

21 願望法

例文

1. *maṇḍi jom-e-ka-e?*
2. *maṇḍi jom-le-ka-ko.*
3. *maṇḍi alo-ka-ñ jom-e-ka mente=ko giri-ke-d-a.*
4. *maṇḍi om-a-ñ-ka-ko mente=ñ asi-baṛa-ke-n-a.*

和訳

1. 「かれはご飯を食べればいいのに。」
2. 「かれらはすぐにご飯を食べればいいのに。」
3. 「わたしがご飯を食べなければいいのにと、かれらはご飯をすてた。」
4. 「ご飯をわたしにくれればいいのにと、わたしは要求しまくった」

願望文の構造

動詞語幹+アスペクト標識+目的語標識+ *ka* + 二人称以外の人称接辞

否定願望文の構造

alo + *ka* + 二人称以外の人称接辞動詞語幹+アスペクト標識+目的語標識+ *ka*

命令文は話し手が聞き手に向かって直接命令を下すのに対し、願望文は話し手は聞き手に対し、第三者がなにかをしてくれることを望む場合や話し手が自分がこうあればと望む場合につかいます。第三者に願うときは三人称接辞がつきます。自分の願望をあらわすときは一人称接辞がつきます。アスペクト標識や他動詞の場合における目的語標識などは命令文と同様です。否定願望文では、命令文の否定形である *alo* と平叙文の否定形である *ka* の両方がつかわれています。願望法をあらわす *ka* は否定形と同じ形をしていますが、最後にくるのが願望形です。

命令文と同様、語幹のちがう願望文の例文をあげておきましょう。

1. *haṛagu-n-ka-e?* (再帰動詞語幹)
「自分で降りればいい」
2. *na<pa>m-ko-ka-e?* (相互動詞語幹)
「かれらたちとお互いに会えばいい」
3. *om-a-ñ-ka-ko* (受益者動詞語幹)
「かれらがわたしにくれればいい。」
4. *a-jom-ta-i-ka-e?* (使役動詞語幹)
「彼女がたべさせてあげればいい」

22 経験動詞と経験者目的語構文

例文

1. *balbal-te=ñ sowan-ta-n-a.*
2. *balbal sowan-ja-[?]-ñ-a.*
3. *ne baa maja sowan-ja-[?]-ñ-a.*
4. *ne kuṛi-a[?] sowan maja sowan-ja-[?]-ñ-a.*
5. *sida samae susun-te=ko rasika-le-n-a.*
6. *susun kuṛi lel-ki-[?]-ci bese rasika-ke-d-ko-a.*
7. *sida samae=ko reñge[?]-le-n-a.*
8. *en samae maṇḍi reñge[?]-le-d-ko-a.*

和訳

1. 「汗でわたしは臭います」
2. 「わたしには汗が臭う」
3. 「この花はいい匂いがする」
4. 「この女性の匂いはいい匂いがする」
5. 「むかしは踊りで人々は楽しんだ」
6. 「踊っている女性を見たので、彼らはとても楽しんだ。」
7. 「むかしは貧乏だった」
8. 「そのとき、かれらはお腹がすいた」

ムンダ語には、身体や精神的な経験、感情的な経験、生理的な経験などをあらわす経験動詞において、実際に経験する人が動詞語尾で主語標示される場合と、目的語標示される場合があります。その違いは微妙です。主語で標示される場合は、その経験が経験者のみならず、経験者の周りの人などもふくんだ一般的であるのに対し、目的語で標示される場合は、その経験者だけがとくに経験することを意味します。こうした経験動詞を抜き出してみましょう。

1. 感覚的・精神的経験
 - (a) *buluñ* 「塩辛く感じる」
 - (b) *haṛad* 「辛く感じる」
 - (c) *heṛem* 「甘く感じる」
 - (d) *jojo* 「酸っぱく感じる」
 - (e) *ram* 「塩っぱく感じる」
 - (f) *saba[?]* 「味がなく感じる」
 - (g) *sibil* 「おいしく感じる」
 - (h) *sowan* 「においを感じる」

2. 感情的経験

- (a) *akabakao* 「混乱を感じる」
- (b) *asadi* 「退屈を感じる」
- (c) *ceṅṭa* 「嫉妬を感じる」
- (d) *duku* 「悲しく感じる」
- (e) *giu*[?] 「恥ずかしく感じる」
- (f) *kairao* 「怒りを感じる」
- (g) *kiis* 「不満を感じる」
- (h) *mukuiñ* 「孤独を感じる」
- (i) *mone* 「欲望を感じる」
- (j) *rasika* 「楽しみを感じる」
- (k) *sanai* 「欲望を感じる」
- (l) *suku* 「幸福を感じる」

3. 身体的生理的経験

- (a) *babata* 「かゆみを感じる」
- (b) *balbal* 「汗をかく」
- (c) *bul* 「酔いを感じる」
- (d) *doḃo*[?] 「眠気を感じる」
- (e) *duṛum* 「眠気を感じる」
- (f) *gamañ* 「こそばゆい感じがする」
- (g) *hambal* 「重たさを感じる」
- (h) *hasu* 「痛みを感じる」
- (i) *jeṭe*[?] 「暑さを感じる」
- (j) *kaṭuao* 「寒さを感じる」
- (k) *laga* 「疲れを感じる」
- (l) *lolo* 「熱さを感じる」
- (m) *rabal* 「軽さを感じる」
- (n) *rabai* 「寒気を感じる」
- (o) *reñge*[?] 「空腹を感じる」
- (p) *rua* 「病気を感じる」
- (q) *rukuru* 「痛みを感じる」
- (r) *sukul* 「煙たさを感じる」
- (s) *ṭaṭae* 「凝りを感じる」
- (t) *tetañ* 「のどの渴きを感じる」
- (u) *tutukun* 「冷たさを感じる」
- (v) *urgum* 「暖かさを感じる」

なお、ムンダ語の経験者目的語構文については以下の論文を参照してください。

23 複合動詞構文

例文

1. *ne saman go[?]-ader-e-me.*
2. *hatu-re=le jom-nu-ke-d-a.*
3. *hon-iñ-koṛa=e[?] dumbui[?]-goe[?]-ja-n-a.*
4. *ne gaṛa gaṛi-te=ko har-parom-ke-d-a.*
5. *laga-ja-n-re giti[?]-jom-me.*

和訳

1. 「この荷物を背に担いで家に入れなさい。」
2. 「村でわたしたちは食べて飲んできた」
3. 「わたしの息子は溺れて死んだ」
4. 「自動車を運転してこの川を越した。」
5. 「疲れたら、自分のために横になりなさい」

動詞を連続して、二つの動作の連続や結果などをしめすことができます。最初の例文は、*go[?]* 「背に担ぐ」と *ader* 「家に入れる」の複合動詞で、二つの動作が連続する場合です。*jom-nuu* は二つの動作を交互に、あるいはほとんど同時におこなった場合です。そして、三番目の *dumbui[?]* 「溺れる」と *goe[?]* 「殺す」の複合動詞は動作の連続ともとれますが、つぎのような例をあわせると、原因と結果をしめしているとみることができます。

ma[?]-goe[?] 「斧で切って殺す」
ṭote-goe[?] 「弓矢で射って殺す」
haka-goe[?] 「首をくくって死ぬ」

上の例は二つの動詞が本来の意味を維持しながら、動作の連続や因果関係を示すものですが、複合動詞のなかには、複合動詞の後ろに来る動詞が本来の意味とことなって、使われるものがあります。実は、日本語にも同様な複合動詞がみられます。たとえば、「食べてしまった」の「しまう」はもともとの意味は変化して、「食べる」という行為が完了したことを示しています。

このような複合動詞は南アジアのインド・アリア語族やドラヴィダ語族にもみられます。南アジアは系統の違う言語が長い接触の結果、同じような特徴を持つことが知られています。これを言語領域特徴といい、この複合動詞もその特徴の一つです。

ただし、ムンダ語にしかみられない複合動詞があります。たとえば、上の例文にあげていますが、*jom* 「食べる」が複合動詞の二番目に使われると、「自分のために・・・する」の意味になります。こうした複合動詞の二番目が本来の動詞の意味から、かなりはずれてしまった例は南アジアの他言語にはみられません。

ムンダ語には複合動詞の後ろにくる動詞が本来の意味を失って、アスペクト的な意味や副詞的

な意味となる例が他にもあります。もとの意味からある程度推測がつくものも多いですが、*god* 「果実をもぐ」や *sid* 「山菜を採る」などはなかなか推測が付きません。こうした例はムンダ語特有のものです。

では、複合動詞の二番目の動詞が本来の意味を失って、アスペク的な意味や副詞的な意味を持つ語彙を一覧表にしておきます。

		複合動詞	
ムンダ語	もとの意味	複合動詞	複合動詞の意味
<i>goe</i> [?]	殺す	<i>landa-goe</i> [?]	笑いころげる
<i>idi</i>	もっていく	<i>nir-idi</i>	走り去る
<i>jom</i>	食べる	<i>giti</i> [?] - <i>jom</i>	自分のために横になる
<i>giri</i>	捨てる	<i>laga-giri</i>	疲れ果てる
<i>au</i>	もってくる	<i>nir-au</i>	走ってくる
<i>bai</i>	つくる	<i>lel-bai</i>	よく注意してみる
<i>pere</i> [?]	満たす	<i>om-pere</i> [?]	完済する
<i>god</i>	果実をもぐ	<i>lel-god</i>	見送る
<i>sid</i>	山菜を採る	<i>jagar-sid</i>	話をやめる

最初にあげた *goe*[?] は *ma*[?]-*goe*[?] では「殺す」の意味を持っていますが、*landa* 「笑う」と結合すると、「殺す」の意味はなくなり、「死ぬほど笑う」、つまり「笑いころげる」の意味になります。

なお、言語学では複合動詞という使われ方よりも「動詞連続」という言い方が一般的になっています。ムンダ語は三つ以上の動詞が連続することはありませんが、三つ、四つと連続する言語もあります。

複合動詞は動詞語根として派生接辞が付くことができます。その例をあげておきます。

1. *saman go*[?]-*ader-o*[?] *ta-n-a*. (受身動詞語幹)
「荷物が担いで入れられるところです」
2. *go*[?]-*ader-en ja-n-a-e*[?] (再帰動詞語幹)
「彼は自分で担いで入れました」
3. *ma*<*pa*>[?]-*go*<*po*>[?]-*ta-n-a-ko* (相互動詞語幹)
「彼らはお互いに斬り合って殺し合っています」

24 動詞強調辞

例文

1. *maṇḍi jom-baa-e-me.*
2. *aṛandi naṅgen=ko seno[?]-baṛa-ta-n-a.*
3. *jom-hantaṛa-e-me.*
4. *jom-kate-ke-d-a-ko.*
5. *maṇḍi jom-no[?]-ke-d-ci=ko seno[?]-ja-n-a.*
6. *oṛa[?] jaked=ko idi-tuka-ki^{-?}-ñ-a.*
7. *japan-te=ko seno[?]-utar-ja-n-a.*

和訳

1. 「ご飯を早く食べなさい。」
2. 「結婚のために、あっちこっち行っている。」
3. 「先に食べはじめなさい。」
4. 「かれらは何回も食べた。」
5. 「かれらはちょっとご飯を食べて行ってしまった。」
6. 「かれらは家までわたしを送り届けてくれた。」
7. 「かれらは日本へ行ったきりになった。(もうもどってこない)」

動詞強調辞は見た目には前節でみた複合動詞とかわりません。複合動詞の場合はそれぞれ独立した動詞が二つ続くのですが、この動詞強調辞は二番目にくる語が単独で動詞としてあらわれないうことです。また、意味的には動詞があらわす行為や状態を副詞的に添加するのが一般的ですが、複合動詞と似たようなアスペクト的な完了などをあらわす場合もあります。こうした動詞強調辞を下にあげておきます。

1. *-baal/ -tab* 「はやく … する」
2. *-bapad/ -goroe[?]* 「完全に … する」
3. *-baṛa/ -baṛaṅ* 「あちこち (いろいろと) … する」
4. *-coṭe[?]* 「ちょっとだけ … する」
5. *-garaṅ* 「思いきり … する」
6. *-hantaṛa* 「… しはじめる」
7. *-kate/ -kuca* 「何回も … する」
8. *-no[?]* 「すこし … する」
9. *-taṛa* 「先に … する」
10. *-torsa* 「… してくる」
11. *-tuka* 「… してかえる」
12. *-utar* 「… してしまう」

25 動詞反復構文

例文

1. *rakab-rakab-ta-n-a-le*
2. *taŋgi-taŋgi-te=ko asadi-ja-n-a.*
3. *taŋgi-taŋgi-ke-n-a-ko. mendo=ko seno[?]-ja-n-a.*
4. *jom-jom-te lai[?] pere[?]-ja-n-a.*
5. *jom-jom-la-[?]-ko. mendo ka=ko jom-caba-ke-d-a.*
6. *kumburu-ko sab-sab-o[?]-ta-n-a-ko.*
7. *hon-ko lum-lum-en-ta-n-a-ko.*

和訳

1. 「わたしたちは徐々に進歩している。」
2. 「かれらは待って待って待ち疲れてしまった。」
3. 「かれらはしばらく待ったが、行ってしまった。」
4. 「食べて食べてお腹がいっぱいになった。」
5. 「かれらは何度か食べ物を口に含んだが、食べ尽くさなかった。」
6. 「泥棒たちが（ちゃんとした証拠もなく）捕まえられるところです。」
7. 「こどもたちは水にすこし濡れかかっています。」

13節で「部分反復形」を学びました。ここでは完全反復形を学びます。部分反復が真理や慣習をあらわし、限られた語形にだけみられましたが、こちらの完全反復形は生産的です。

完全反復の意味は、大きく二つに分かれます。

1. 動作が繰り返し行われることを意味する場合

たとえば、*jom-jom-te lai[?] pere[?]-ja-n-a.* 「食べて食べてお腹がいっぱいになった」では *jom* 「食べる」という行為を繰り返した結果、おなかがいっぱいになったことを意味します。

2. 何度かその動作をはじめようとするが、結局その動作を完全には遂行しない場合

たとえば、*jom-jom-la-[?]-ko. mendo ka-ko jom-caba-ke-d-a.* 「かれらは何度か食べ物を口に含んだが、食べ尽くさなかった」では *jom* という行為を繰り返すには繰り返したが、全部食べなかったことを意味します。

この動詞はどちらも *jom* です。この二つの違いは動詞の意味にかかわるのではなく、あとにつづくアスペクト標識や道具や手段をしめす後置詞 *-te* の違いによって、意味が変わります。なお、部分反復による動詞語幹は慣習的な行為をしめす場合が多く、この完全反復とはちょっと意味が違いますので、気をつけてください。

26 関係節

例文

1. *maṇḍi jom-hoꝛo auri=eʹ hijug-a.*
2. *maṇḍi jom-ke-n-hoꝛo ranci-te=eʹ senoʹ-ja-n-a.*
3. *pusi hua-ke-n-seta=eʹ goeʹ-ja-n-a.*
4. *pusi hua-ke-d-seta=eʹ goeʹ-ja-n-a.*
5. *oko-niʹ pusi hua-ke-niʹ iniʹ geʹ goeʹ-ja-n-a.*
6. *en ʔaka-te je mone se kiriṅ-e-me*

和訳

1. 「ご飯を食べる人はまだ来ない。」
2. 「ご飯をたべた人はランチーへ行ってしまった。」
3. 「猫を咬んだ犬は死んでしまった。」
4. 「猫が咬んだ犬は死んでしまった。」
5. 「誰か猫を咬んだ、そいつが死んでしまった。」
6. 「そのお金で、おまえの好きなように買いなさい」

日本人が英語を学ぶときに苦労するのが関係詞と関係節です。関係詞 *which* や *that* のあとにくる節が最初にたつ名詞を修飾していくのですから、日本語とはかなりちがいます。ところが、ムンダ語の関係節は日本語と同じように、被修飾名詞が修飾する関係節のうしろにつきます。関係節は平叙文の最後にくる叙述標識 *-a* をのぞいて、関係節が修飾する名詞につづきます。

上の例文を詳しくみておきましょう。

maṇḍi jom-hoꝛo auri=eʹ hijug-a.

ご飯 食べる-人 まだ =3SG:SUB 来る

「ご飯を食べる人はまだ来ない」

maṇḍi jom-ke-n-hoꝛo ranci-te=eʹ senoʹ-ja-n-a.

ご飯 食べる-ASP-INTR-人 ランチー-PP=3SG:SUB-ASP-INTR-IND

「ご飯をたべた人はランチーへ行ってしまった」

「人」を修飾する関係節は「人」のまえに直接付いているので、「ご飯を食べる人」という日本語と同様の構造を持っています。

すでに、「9 主語と目的語」のところで説明したので繰り返しません。被修飾名詞が関係節の主語である場合と目的語である場合で、自動詞標識がつくか、他動詞標識がつくか、決定されます。「猫を咬んだ犬」と「猫が咬んだ犬」の相違は自動詞標識と他動詞標識によってしめされています。

しかし、日本語にはない関係節もあります。それがつぎの二つの例文です。

okoni' pusi hua-ke-n-i' ini' ge=e' goe'-ja-n-a.

誰か猫咬む-ASP-INTR-3SG その人 EMPH=3SG:SUB 死ぬ-ASP-INTR-IND

「誰か猫を咬んだ、そいつが死んでしまった」

en taka-te je moṇe se rika-e-me

そのお金-INST INDF 望む COR する-EPH-2SG

「そのお金で、どんな望みでも、それをかなえなさい」

例文は不定詞 *oko* で始まる従属節が指示詞 *ini'* で受ける主節につづくもので、ヒンディー語などにもみられる相関関係構文というものです。一方、もう一つの例文は関係接続詞 *je ...se* が使われています。

従属節が疑問詞ではじまり、主節は指示詞で受けるのが一般的です。いくつか例文をあげます。

cimtañ hiju'-a-e' imtañ jom-e-a-bu

「彼がいつ来るか、そのときに食べましょう」

ae' ko-te senog-a ente maṅgri-o senog-a

「彼がどこかに行くと、マングリもそこに行く」

okoe jom-ke-d-a ini' ge paisa=e' om-e-ka

「誰が食べた、その人がお金を払うといい」

cimtañ 「いつ」に *imtañ* 「そのとき」が受け、*kote* 「どこに」に *ente* 「そこに」が受け、*okoe* 「誰」に対し *ini'* 「その人」が相関しています。

こういう表現はヒンディー語やサダニー語から借用したものです。したがって、教育を受けた二言語併用者がよく使用しますが、民話などではあまりみられない表現です。

27 複文 -re, -redo 構文

例文

1. *ranci-te=m seno[?]-redo saři kirin-a-n-me.*
2. *apu-n hiju[?]-ja-n-re maṇḍi=bu jom-a.*
3. *agar apu-n hiju[?]-ja-n-re maṇḍi=bu om-a-i-a.*
4. *judi apu-n hiju[?]-ja-n-re jagar-i-me.*

和訳

1. 「あなたがランチへ行くなら、サリーを買ってください。」
2. 「わたしの父が来れば、ご飯を食べましょう。」
3. 「もしわたしの父が来れば、ご飯をあげましょう。」
4. 「もしわたしの父が来ているのなら、話しをください」

ここでは後置詞 *-re* や後置詞+助詞 *-redo* を使った假定構文や接続構文を学びましょう。助詞 *do* については後ほど学びます。

じつは、ムンダ語では假定構文と接続構文の違いがはっきりしません。上の例文をみましょう。

ranci-te=m seno[?]-re-do saři kirin-a-n-me.

ランチ-PP=2SG:SUB 行く-PP-TOP サリー買う-BENE-1SG-2SG

「あなたがランチへ行くなら、サリーを買ってください」

この表現ならば「あなたがランチに行く」ことがほぼ決まっていて、「行ったときに、サリーを買ってほしい」と訴えていることになります。一方、仮定の話ならば、隣接するインド・アリア諸語からの借用語である *agar, judi* を文頭につけます。条件節の *re* や *redo* の直前に来る動詞語幹はアスペクト標識だけをとる未来形をとることはできず、語幹だけか、語幹にアスペクト標識+他動詞・自動詞標識がきます。このへんには注意が必要です。

つぎの二つの例文をくらべてみましょう。

1. *apu-n hiju[?]-ja-n-re maṇḍi=bu jom-a.*

父 私の来る-ASP-INTR-PP ご飯 =1PL(INCL) 食べる-IND

「わたしの父が来れば、ご飯を食べましょう」

2. *agar apu-n hiju[?]-ja-n-re maṇḍi=bu om-a-i-a.*

もし 父-私の来る-ASP-INTR-PP ご飯 =1PL(INCL) 与える-BENE-3SG:OBJ-IND

「もしわたしの父が来れば、ご飯をお父さんにあげましょう。」

1. は「私の父」が来ることになっていて、「来たらご飯を食べましょう」を意味し、2. は来るかどうかは定かでなく、「もし来たらご飯をあげましょう」を意味します。

28 複文 *ci* 構文

例文

1. *jom-ke-d-ci=ko seno^o-ja-n-a*
2. *kupul-ko ranci-te=ko seno^o-ja-n-ci=le jom-ta-n-a*
3. *hoꝛo-ko dub-aka-n-ci=ñ nir-ja-n-a*
4. *maṇḍi=m jom-ta-n-ci=ko lel-giꝛi-ja-d-me-a*

和訳

1. 「かれらは食べると、行ってしまった。」
2. 「お客さんがランチーへ行ってしまったので、私たちは食べている。」
3. 「多くの人が座っているので、わたしは逃げてしまった。」
4. 「あなたがご飯を食べているので、みんながあなたをみている。」

前節では *-redo* や *-re* を使った複文をみましたが、ここでは *ci* を使った複文をみておきましょう。

まず *ci* の説明をしておきます。普通、疑問助詞として文末につけられて「…か」の意味を持ちます。また、英語の 'or' のように、*kuꝛi ci koꝛa* 「女か男」という用法もあります。ここでは二つの文章をつなぐ役割を果たしています。意味としてはつぎの二つがあります。

1. 基本的に、二つの文章をつなぎますが、一つ目の意味は前の文章から連続した動作を示します。
たとえば、*jom-ke-d-ci=ko seno^o-ja-n-a* では *jom-ke-d-a-ko* 「彼らは食べた」と *seno^o-ja-n-a-ko* 「彼らは行ってしまった」の二つの文章からなり、連続した行為を意味します。日本語では「彼らは食べると、行ってしまった」と訳しました。
2. もう一つの意味は原因と結果を表します。
たとえば、*kupul-ko ranci-te=ko seno^o-ja-n-ci=le jom-ta-n-a* では *kupul-ko ranci-te=ko seno^o-ja-n-a* 「お客さんがランチーへ行ってしまった」と *jom-ta-n-a-le* 「私たちは食べています」の二つの文章からなります。前の文章が原因で、あとの文章は結果を意味するので、日本語では「お客さんがランチーへ行ってしまったので、私たちは食べている」と訳しました。

ci 構文は文章をつなぐのに便利です。ぜひ覚えてください。

29 複文 mente 構文

例文

1. *kote=m seno[?]-ta-n-a mente=ko kuli-ja-[?]-ñ-a.*
2. *ranci-re jom-e-me mente apu-ñ kaji-la[?].*
3. *alo-m senog-a mente mana-ki-[?]-ñ-a.*
4. *tisiñ jom-e-a[?] bano[?] mente hon-ko=ko ra[?]-ta-n-a.*
5. *mañdi=ñ jom-ta-n-a mente=ko lel-giri-ja-[?]-ñ-a.*

和訳

1. 『『あなたどこ行くの』と彼らは私に聞いてくる。』
2. 『『ランチで食べなさい』と私の父は言った。』
3. 『『あなた行くなよ』と私を止めた。』
4. 「今日、食べ物がないと子供たちは泣いている。」
5. 「私のご飯を食べていると思って、みんなであなたをみている。」

ここまで、*-redo* や *-re* を使った複文や *ci* を使った複文をみてきました。これらは従属節にあたる、*-re*、*-redo*、*ci* がついた文は叙述標識である *-a* を取らない形式でしたが、この *mente* は叙述標識 *-a* が付いたあと、現れます。

まず *mente* の説明をしておきます。*mente* は *men* 「言う」と *-te* 「*'to* や *'by*」に相当する後置詞に分析可能です。日本語の「という」の「と」にあたると考えるとわかりやすいと思います。

用法としては三つあります。

1. 直接話法として、*mente* までの前半の文章受けています。ムンダ語には間接話法はなく、*mente* の前の文章は発言した、そのままが入ります。
最初の三つの例文のでは、*kote=m seno[?]-ta-n-a?* 「どこへ行くの」*ranci-re jom-e-me* 「ランチで食べなさい」*alo-m senog-a* 「あなた行くな」という発話があり、それを受けて、*mente* が繋いでいます
2. 前半の文章は発話ではなく、前半の文章が原因や理由を示し、後半がその結果を示します。
上の例文の *tisiñ jom-e-a[?] bano[?] mente hon-ko=ko ra[?]-ta-n-a.* では、「今日、食べ物が無い」という原因があって、後半の「子供たちが泣いている」という結果が生じています。
3. *mente* までの文章は実際におこなわれた行為と違い、みんながそう想定していることを示しています。
上の例文で *mañdi=ñ jom-ta-n-a mente=ko lel-giri-ja-[?]-ñ-a* 前半の「私のご飯を食べている」のではなく、実際には別のものを食べているか、食べるという行為すらしていないのに、「私のご飯を食べているに違いない」と思って、「みんなが私をみている」ことになります。

mente は読本のテキストにたくさん登場しますので、それを見ながら、覚えていきましょう。

30 接続詞

例文

1. *jom-ke-d-a-e' ad=e' seno'-ja-n-a.*
2. *apu-m do=e' jom-ta-n-a ci=e' seno'-ja-n-a.*
3. *apu-m hiju' ca-e' seno' ka=ñ itu-a-n-a.*
4. *apu-ñ maṅḍi=e' jom-ke-d-a mendo auri=e' senog-a.*
5. *apu-ñ auri=e' senog-a cia'ci bas ka hiju'-ta-n-a.*
6. *apu-ñ maṅḍi=e' jom-ke-d-redo ranci-te=e' senog-a.*
7. *jom-redo jom-e-me karedo ranci-te=lañ senog-a.*

和訳

1. 「かれは食べた。そして行ってしまった」
2. 「あなたのお父さんは食べているの、それとも行ってしまったの」
3. 「あなたのお父さんが来ようと思おうとわたしは知らない」
4. 「わたしの父はご飯を食べたが、まだ行っていない」
5. 「わたしの父はまだ行かない。なぜならバスが来ないから」
6. 「わたしの父はご飯を食べたら、ランチーへ行く」
7. 「食べるのなら食べなさい。食べないのならば、ランチーへ行きましょう」

1. *ad/oro'* 「そして」
2. *ci* 「または」
3. *ca* 「それとも」
4. *mendo* 「しかし」
5. *cia'ci* 「なぜなら」
6. *redo* 「ならば」
7. *karedo* 「しないならば」

このうち、*ci*, *redo* はすでに学びました。*ad/oro'* は単語と単語を繋ぐこともできますし、節と節、文と文を繋ぐこともできます。*mendo* は逆接を、*cia'ci* は理由をしめし、文頭に來ることが一般的です。

31 形容詞

例文

1. *kumburu do añ imunuñ salañgi hoṛo=e' taiken-a.*
2. *kumburu do añ imunuñ salañgi-ge=? taiken-a.*
3. *kumburu do añ-ate salañgi hoṛo=e' taiken-a.*
4. *kumburu do añ-ate salañgi-ge=? taiken-a.*
5. *kumburu do soben-ko-ate salañgi hoṛo=e' taiken-a.*
6. *kumburu do soben-ko-ate salañgi-ge=? taiken-a.*

和訳

1. 「泥棒はわたしと同じぐらいの背の人だった」
2. 「泥棒はわたしと同じぐらいの背だった」
3. 「泥棒はわたしより背が高い人だった」
4. 「泥棒はわたしより高い背だった」
5. 「泥棒はみんなよりも背の高い人だった」
6. 「泥棒はみんなよりも高い背だった」

ムンダ語は形容詞と動詞の区別がつきにくい言語です。というのは、形容詞の叙述的用法においては、動詞のように、アスペクト標識などの動詞語尾をとることができます。また、動詞は関係節において、形容詞のように、直接名詞の前に置かれて、名詞を修飾します。たとえば、つぎのような例をみてください。普通には、*marañ* は形容詞、*jom* は動詞とみなすことができますが、以下の例を見ていただくと、振る舞いはほとんど同じです。

<例>

en marañ hoṛo

「その大きな人」

en jom hoṛo

「その食べる人」

en hoṛo marañ-ta-n-a

「その人は大きくなっています。」

en hoṛo jom-ta-n-a

「その人は食べています。」

形容詞と思われている *marañ* も動詞と同じ位置に立つことができ、動詞と思われている *jom* も形容詞のように名詞を修飾しています。また、日本語ですと、形容詞は「しい」や「い」で終わるといった語形に特徴がありますが、ムンダ語には語形の特徴がありません。つまり、動詞と形容詞の区別がなかなかつかないのです。

しかし、動詞と形容詞でことなる用法があります。それは、接中辞 *-pV-* をとったときの意味です。「12 派生動詞語幹 (3) 相互形」でみたように、動詞 *jom* にこの接中辞がついた *jo<po>m* は「お互いに食べる」という相互動詞になります。ところが、形容詞の *marañ* の場合、*ma<pa>rañ* は「お互いに大きくなる」という意味にはなりません。「とても大きい」という強調の意味になります。

この違いを規準にして、形容詞をあげると、その数はかなり限られてきます。つぎの八つぐらいしかありません。

1. *marañ* 「大きい」
2. *hurin* 「小さい、短い」
3. *jilin* 「長い」
4. *duŋgae* 「短い」
5. *salangi* 「背が高い」
6. *ḍiŋgae* 「背が低い」
7. *cakar* 「幅が広い」
8. *moṭo* 「太い」

ただし、今回の言語研修用の語彙集では、言語学的な厳密な規準とそれに基づく分類をするのではなく、あくまでも初学者として理解しやすいように、形容詞をうへの定義に限定しないで、名詞を修飾する用法などは形容詞用法として、〈形〉でしめしておきました。

32 数詞

1. *miad/moyod* 「1」
2. *bar-ia* 「2」
3. *api-a* 「3」
4. *upun-ia* 「4」
5. *moŋe-a* 「5」
6. *turu-ya/turi-alturui-a* 「6」
7. *ee-ya* 「7」
8. *iral-ia* 「8」
9. *are-ya/are-a* 「9」
10. *gel-ea* 「10」
11. *gel miad/moyod* 「11」
12. *mid/mod hisi* 「20」
13. *mid/mod hisi miad/moyod* 「21」
14. *bar hisi* 「40」
15. *api hisi* 「60」
16. *moŋe hisi* 「100」

ここにあげた数詞はムンダ語固有の語彙ですが、現在はヒンディー語などの隣接インド・アーリア語の数詞に徐々に置き換わりつつあります。ちなみに、ヒンディー語の数詞は以下です。

एक दो तीन, चार, पाँच, छह, सात, आठ, नौ, दस
ek, do, tīn, cār, pāc, che, sāt, āṭh, nau, das

固有の数詞の場合は、以下にあげる部分反復がみられ、意味は「ずつ」を意味します。ただし、部分反復は1~6までで、7以上は完全反復となっています。

配分数詞

配分数詞を表すのには二つの方法があります。一つは部分重複を使う場合、もう一つは接中辞 (infix) *-pV-* を使う場合です。ただし、「三つずつ」と「四つずつ」はどちらも同じ形になります。また、接中辞を使う形は「六つ」以上の数詞には見られません。

1. *mimiad mi<pi>ad* 「一つずつ」
2. *babar-ia ba<pa>r-ia* 「二つずつ」
3. *apapi-a* 「三つずつ」
4. *upupun-ia* 「四つずつ」
5. *momōŋe-a mo<po>ŋea* 「五つずつ」
6. *tuturi-a* 「六つずつ」
7. *eea eea* 「七つずつ」

8. *iralia iralia* 「八つずつ」
9. *area area* 「九つずつ」
10. *gelea gelea* 「十つずつ」

序数詞

「1 番目」「2 番目」というのが序数詞で、英語には、*first, sencond, third* というような特別な形があります。しかし、ムンダ語に *sida* 「一番目、最初」しかありません。二番目以降をあらわす特別な形はなく、ヒンディー語の *dūsūrā, tīsūrā* 「二番目、三番目」が使われます。

その他

日本語においても、「一日」をツイタチと呼んだり、「一人、二人」をひとり、フタリと呼んだり、「イチ、ニイ、サン」という言い方と違う形式がみられます。

ムンダ語においては、*miad/ moyod* 「一」に多くのバリエーションがみられます。また、日が付いた場合、「一日」「二日」だけが *siñ* という形を取り、「三日」以上は *ma* を取ります。

・ 回

mi-sa/mo-sa 「一回」

bar-sa 「二回」

api-sa 「三回」

・ 日・週・月・年

mu-siñ 「一日」

bar-siñ 「二日」

api-ma 「三日」

upun-ma 「四日」

moñe-ma 「五日」

turi-ma 「六日」

mid/mod aṭauri 「一週間」

mid/mod caṇḍu[?] 「一ヶ月」

mid/mod sirma 「一年」

33 感嘆詞と呼びかけ

例文

1. *aba-ga, dola=bu senog-a.*
2. *hee, mar.*
3. *ee bai, seno[?]-ta-n-a-le.*
4. *juu, maja teba[?]-e-pe.*
5. *dela, seka[?]-e-pe*

和訳

1. 「お父さん、さあ行きましょう」
2. 「よっしゃ、行きましょう」
3. 「おーい、われわれは行きますよ」
4. 「行っておいで、安全につきなさい」
5. 「さあ、行くぞ。早くしなさい」

会話をするうえでは、感嘆詞や呼びかけは非常に重要です。以下にあげたなかでも、*ela, dela, dola*はムンダ語がまだ話せないうちから、よく聞かされます。どこかに行くときに、「さあ行きましょう」というかけ声です。命令口調としては、*de, juu, oco* 「ちょうだい、行きなさい、逃げろ」などがあり、これらは覚えておかないとひどい目に遭います。*au, iti[?], iya*は口癖のように連発する人がいます。マキも *iti[?]*をよく使います。ムンダ先生のお母さんはよく *ke*とすることが多かったですが、今の世代には使う人が少なくなっているかもしれません。*mar*というのは「よっしゃ。うん。じゃ。」だけでなく、「(あなたから)どうぞ」というニュアンスでも使います。また、*hee*「はい」といっしょに、*hee mar*「はい、それでいいですよ」という使われ方が多いです。*hee mar*を動詞として使うと、「承諾する」という意味になります。

感嘆詞

1. *ate* 「ちょっと」
2. *au* 「あれえ、しまった。ごめんなさい。(失敗したときなどに、思わずだす感嘆のことば)」
3. *bai* 「ちょっと (女性同士)」
4. *ci* 「ちえ。(汚い物やいやな物を見たり、聞いたりしたときに発する)」(子供に対して、連続して *ci, ci, ci* と使うことが多い)
5. *de* 「ちょうだい」
6. *ei/hoo* 「おーい」
7. *ela* 「さあ、さあ、こっちに来て」
8. *do* 「さあ、さあ、行きましょう (追い立てるように)」
9. *dola* 「行きましょう。(みんなといっしょに)」

10. *dela* 「さあ、行くぞ。(命令口調で、先頭に立って、行くのをうながす)」
11. *hale* 「ちょっと (男同士)」
12. *idu/idoro* 「さあね。知らない。」
13. *iti?* 「そうじゃないでしょう。」
14. *iya* 「あのお。えーと。」
15. *juu* 「行きなさい」
16. *kaci* 「じゃない。だろう。」
17. *ke* 「なるほど。ふーん。あっそかあ。」
18. *mar* 「よっしゃ。うん。じゃ。」
19. *ne* 「ほら。これ。」
20. *oco* 「逃げろ。はなれろ。あぶない」
21. *ter* 「もってけ。」
22. *tobe* 「ちょっと (男女共通)」

呼びかけ

1. *-ga* 「目上の人に」
2. *-a* 「自分よりも若い人に」
3. *-re* 「自分よりも若い人に」
4. *-na* 「自分よりも若い人に (女性が用いる)」

34 助詞 do

例文

1. *añ do=ñ senog-a.*
2. *mañdi do=ñ jom-ke-d-a.*
3. *ranchi-re do=ñ taiken-a.*
4. *am do ranci-te=m sen-ke-n-a, mendo añ do kuñti-te=ñ sen-ke-n-a.*
5. *okoe hiju'-aka-n-a-e'.*
6. *okoe do=e' hiju'-aka-n-a-e'.*

和訳

1. 「わたしは行きます」
2. 「わたしご飯は食べた。」
3. 「わたしランチーには住んでいた」
4. 「あなたはランチーへ行き、わたしはクンティーへ行った」
5. 「だれが来ていますか」
6. 「だれかが来ています」

ムンダ語の *do* は日本語の助詞「は」とよく似ています。言語学的には話題標識 (Topic marker) と呼んでいます。

ムンダ語 *do* の用法としては三つあげられる。

1. 話題化。主語だけでなく、目的語や後置詞句なども *do* をつけて話題化する。
mañdi do=ñ jom-ke-d-a. 目的語 *mañdi* を話題化。
「わたしご飯は食べた。」
ranchi-re do=ñ taiken-a. 後置詞句 *ranchi-re* を話題化。
「わたしランチーには住んでいた」
2. 対比。
am do ranci-te=m sen-ke-n-a, mendo añ do kuñti-te=ñ sen-ke-n-a.
「あなたはランチーへ行き、わたしはクンティーへ行った」
3. 疑問詞の不定詞化。
okoe hiju'-aka-n-a.
「だれが来ていますか」
okoe do hiju'-aka-n-a.
「だれかは来ています」

この三つの用法とも、日本語「は」と共通しています。*do* は「は」と覚えましょう。

35 助詞 ge

例文

1. *añ ge=ñ senog-a.*
2. *mañdi ge=ñ jom-ke-d-a.*
3. *ranci-re ge=ñ taiken-a.*
4. *mañdi=ko jom-ta-n-ge-a.*
5. *okoe ge hiju[?]-aka-n-a-e[?].*

和訳

1. 「わたしが行きます」
2. 「わたしは（ほかでもない）ごはんを食べた」
3. 「わたし（ほかでもない）ランチーに住んでいた」
4. 「ご飯を食べている最中です」
5. 「だれが来ていますか」

ムンダ語の *ge* は強調の助詞とみなしています。

うえの例文を順番にみると、最初の文は主語が強調され、つぎは目的語が強調され、そして後置詞句が強調され、最後には動詞が強調されています。

1. *añ ge=ñ senog-a.*
「(誰でもない) わたしが行きます」
2. *mañdi ge=ñ jom-ke-d-a.*
「わたしは（ほかでもない）ごはんを食べた」
3. *ranci-re ge=ñ taiken-a.*
「わたし（ほかでもない）ランチーに住んでいた」
4. *mañdi=ko jom-ta-n-ge-a.*
「ご飯を食べている最中です」

36 その他の助詞

例文

1. *añ-o=ñ senog-a.*
2. *mañdi-o=ñ jom-ke-d-a.*
3. *ranci-re-o=ñ taiken-a.*
4. *añ-baari senog-a-ñ.*
5. *mañdi-bari=ñ jom-ke-d-a.*
6. *ranci-re-bari=ñ taiken-a.*
7. *ranci-te=ko seno[?]-ja-n-a, jaa[?].*
8. *kumbu ru nanigen sen-a-e honaⁿ mendo=le mana-ki-[?]-a.*
9. *apu-ñ ra[?]-ki-[?]-re raⁿi soma ka=e[?] hiju[?]-ja-n-a.*

和訳

1. 「わたしも行く」
2. 「わたしはご飯も食べた」
3. 「わたしはランチーにも住んでいた」
4. 「わたしだけ行く」
5. 「わたしはご飯だけ食べた」
6. 「わたしはランチーにだけ住んでいた」
7. 「かれらはランチーへ行ってしまったんじゃない」
8. 「かれは泥棒に行くはずだったが、われわれが禁止した」
9. 「わたしの父が呼んだのに、ソマは来なかった」

助詞

1. *o* 「も」
2. *bari/ baari* 「だけ」
3. *jaa[?]* 「かもね。たぶん」
4. *honaⁿ* 「はずなのに」
5. *raⁿi* 「・・・のに」

37 擬態語・擬音語 (expressive)

ムンダ語には Expressive と呼ばれる語群があります。一時期、感情語という名称を使っていましたが、言語学では感情語を指す意味がことなるので、今では Expressive という英語を使っています。基本的には、擬音語、擬態語などのオノマトペをさしますが、意味だけではなく、その語形に特徴があります。語形として、反復形や子音交替形、母音交替形などがもちいられています。日本語のペラペラ、ベラベラ、ヘラヘラなどと、似ています。しかし、日本語では副詞的にもちいられるだけですが、ムンダ語では動詞としても使用されています。

2019年、『ムンダ語擬音語擬態語辞典』をこの東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所から出版しました。せっかく辞書を作ったので、そこから形式分類と意味特徴を紹介しておきます。

ムンダ語の Expressive を形式的に分類すると、以下に分かれます。

1. 同一重複形：前半と後半がまったく同一形をとり、数としてはこの形式が一番多い。
2. 非同重複形：前半と後半が異なる形式をとります。この形式は後半の交替形から、さらに以下に分かれます。

- (a) 子音交替形：後半の第一子音で子音交替がみられるタイプ。交替する後半の第一子音は数の多い順でいえば、*p, b, m* で、他の閉鎖音 *t, d, ʈ, ɖ, c, j, k, g* もみられますが、数は少ない。語例は少ないが、*s, r* もみられます。また、第一子音だけではなく、第一音節の子音+母音が交替する場合もみられます。

たとえば、以下に、「キラキラ、ピカピカ、テカテカ」など、光の輝きや反射を表す語彙をあげます。いずれも、前半の第一子音が後半では *m* に交替しています。

語形	意味
<i>caka-maka</i>	(靴など) ピカピカになる様
<i>jaka-maka</i>	(金のついたサリーなどが) キラキラと輝く様
<i>jiki-miki</i>	革製品がテカテカと光る様
<i>jili-mili</i>	家やビルの壁が) キラキラと反射する様
<i>jolo-molo</i>	お祭りの飾りなどがピカピカとする様

これら単語は隣接するインド・アーリヤ語にもみられる現象です。

- (b) 母音交替形：前半の母音が後半では別の母音に交替するタイプ。前半が *a* (二音節の場合は *a-a*) が後半で *u* (二音節の場合は *u-u*) となる場合が一番数が多い。次いで、*a* または *a-a* が後半では *o* または *o-o* となる場合。そして、前半 *i-a* が後半 *o-o* となる場合が続きます。他に、前半 *a-a* が後半 *i-i* となったり、*e-e* となったりする場合がありますが、数は少ない。

たとえば、以下にあげる三例のうち、*par-pur* と *par-pir* はあきらかに関係があります。

語形	意味
<i>par-pur</i>	鳥が各々別々に飛び去っていく様
<i>par-por</i>	おならの比較的大きな音。ブーブー
<i>par-pir</i>	鳥が一斉にパタパタと飛び立つ様

- (c) 不規則形：上記の子音交替形や母音交替形とはかなりことなります。前半部分と後半部分の子音をくらべると二つ以上ことなったり、また音節の数がことなったり、前半と後半の規則性が見出されない語形をさします。

たとえば、以下の例は前半と後半を比べると、不規則形であることがあきらかですが、二つの単語をくらべると、母音交替形となっていて、意味的にあきらかに関係があります。

語形	意味
<i>rañku-jañguru</i>	ヒョロヒョロと背が高く痩せた様
<i>renke-jeñgere</i>	飢餓でお腹が出て、目だけがギラギラしている様

3. *-ken* 形、*leka* 形：同一重複形の基本形に *-ken* (完了アスペクト形) がつく場合は意味的に、「すばやい、一回きりの動作」を示します。日本語の「クルクル」が連続的でない回転の場合に、「クルッと」と副詞形が派生されますが、これに似ています。一方、*leka* (「~のような」の意味) がつく場合は「自らがその動作をしてみせる」ことを意味します。

たとえば、*jar-jar* は「(同じ場所で) クルクルと何度も回る様」を意味し、*jar-ken* は「クルッとすばやく一度だけ回る様」を意味し、*jar-leka* は「自らクルクルと回ってみせる様」を意味します。

形式的に、面白い現象があります。それはいくつかの語彙で、音位転倒がみられることです。以下に例をあげておきます。

語形	意味
<i>cadani-cadani</i>	ジャンプしながら後ろ足をケリながら進む様
<i>dacani-dacani</i>	(牛や馬が) 前足を蹴り上げてジャンプする様
<i>kofo-kofo</i>	トントンと (ドアを叩くための金具などで) ドアを叩く
<i>toko-toko</i>	トントンと (手で) ドアをノックする
<i>kusud-kusud</i>	(人に知られないように) シクシクと泣く様。花嫁が嫁ぐときに泣く様
<i>sukud-sukud</i>	(声を出さずに) しゃくりながら、泣きじゃくっている様
<i>pete-pete</i>	犬が座っているとき、しっぽをふる様
<i>tepe-tepe</i>	犬が立っているとき、しっぽをふる様

意味特徴として、豊富な語彙の例として雨に関連するものをあげておきます。日本語には「夕立、霧雨、五月雨、梅雨」など、雨に関する語彙が豊富です。また、「シトシト、ザーザー、ポツポツ」など、雨に関する擬音語もあります。ムンダ語の Expressive においても、「雨」に関するものを以下にあげておきます。

ムンダ語	意味
<i>biṛaʹ-biṛaʹ</i>	雨が止んだかと思うと、また降り出す様
<i>gul-gul</i>	曇って、雨が降りそうな様
<i>jaam-jamka</i>	空が真っ暗になって、前が見えないほど激しい雨の様
<i>jaṛa-jaṛa</i>	突然篠突くような雨が降り出し、しばらくザーッと降った後止む様
<i>jaṛam-jaṛam</i>	一日中、ずっと間断なく雨がザーザーと降る様
<i>jimbiṛi-jimbiṛi</i>	雨がシトシトと降る様
<i>jipir-jipir</i>	雨が降ったり止んだり、しかし一日中断続的に降っている様
<i>jirim-jirim</i>	<i>jaṛam-jaṛam</i> よりも雨の降り方は緩やかだが、一日中雨が降っている様
<i>juru-kunḍu</i>	身体がびしょりに濡れてしまうような、すごい雨が降る様
<i>kaṛaṅ-kaṛaṅ</i>	雨季のはじめに、雨が突然上がって、太陽がガラガラとさす様
<i>peṭer-peṭer</i>	ザーッとにわか雨が降る様
<i>pisi-pisi</i>	雨が弱いが、傘がないと身体が濡れてしまうように降る様
<i>pisir-pisir</i>	雨季の最初の頃、弱い雨が降る様
<i>pudui-pudui</i>	雨季に降る雨で、霧雨よりも濡れる度合いが大きい、細かい雨
<i>pudul-pudul</i>	雨季に降る雨で霧雨みたいに、ほとんど濡れないような雨
<i>pusu-pusu</i>	小雨だが、髪の毛が濡れるほどのサッと降る雨
<i>pusur-pusur</i>	身体が濡れる程度の小雨がザッと降る様
<i>sao-sao</i>	雨が強く、ザーザーと降る音
<i>saṛa-saṛa</i>	雨がバケツの水をひっくりがえしたように、ザーザーと降る様
<i>saṭa-saṭa</i>	雨季のはじめの頃の通り雨。比較的長いザーッと降る様
<i>siṭi-siṭi</i>	雨季のはじめの比較的短い通り雨がザッと降る様
<i>ṭab-ṭib</i>	雨がポツポツと降っている様

最後に、日本語では考えられない意味を持った Expressive をあげておきます。

ムンダ語	意味
<i>lumbuiʹ-lumbuiʹ</i>	人には言うてはいけないことを言いたがり、実際に話しまわる様
<i>miyaṛa-muyuru</i>	さびしそうで、一人で何をしたいのかわからない様
<i>lasar-lusur</i>	食べ物や酒を求めて、あちこちの家を訪ねて歩いて盗む様
<i>musur-musur</i>	何も持たずに、呼ばれないのに、あちこち歩き回る様
<i>nari-nari</i>	自分事は云わずに、他人のうわさ話や悪口ばかりを言う様
<i>nariki-pariki</i>	言うことに一貫性のない、矛盾することを平気でする様
<i>pal-pal</i>	家族を見捨てるように、社会的責任を放棄した様
<i>palaʹ-palaʹ</i>	女性で結婚しているのに、まるで独身のように振る舞う様

第Ⅳ部

ムンダ語彙集

1 ムンダ=日本語語彙集

略語：名=名詞、動=動詞、形=形容詞、副=副詞、代=代名詞、接=接続詞、後=後置詞、助=助詞、数=数詞、疑=疑問詞、感=感嘆詞、借=借用語、ヒ=ヒンディー語、ベ=ベンガル語、ペ=ペルシャ語、ア=アラビア語、サ=サダニー語、英=英語

A

a -अ (呼びかけを表わす接辞)。

a -अ (直說法標示接辞)。

a -अ (受益を表わす接辞)。

a' -अ: の。に関して。(属格接辞)

a' अ: <名>弓。

a' sar अ: सर् <複合語>弓矢。

aba अब <名>お父さん。(親族名称。呼びかけ形式)

aben अबेन् <代>あなたたち二人。(二人称双数形)。

abu अबु <代>私たち。(一人称複数包括形)。

abun अबुङ् <動>手や足を洗う。

acaka अचक <副>急に。突然に(借。<ヒ。अचानक *acānak*)

acu अचु <動>仕事をさせる。

ad अद् <動>(ものを)なくす。失う。(道に)迷う。

ad अद् <接>と。そして。

ader अदेर् <動>取り込む。(中)に入れる。

adin अदिङ् <名>奥の間。(ここに先祖の霊が宿ると考えられている)。

ae' अए: <代>彼、彼女。(三人称代名詞単数有生形)。

ae' tege अए: तेगे <副>自然に。

agam अगम् <動>わかる。理解する。

agu अगु <動>持ってくる。連れてくる。《同意語》*au*

ajal अजल् <動・使役>なめさせる。《基底形》*jal* なめる。

aji अजि <名>姉。(親族名称。指示形式)《呼びかけ形式》*dai*

aji hanar अजि-हनर् <名>義姉。(親族名称。指示形式)《呼びかけ形式》*dai*

ajom अजोम् <動・使役>食べさせる。《基底形》*jom* 食べる。

aka अक (アスペクト標識)

akabakao अकबकओ <動>おちつかない。混乱する。【経験者目的語をとる】(借。<ヒ。अकबकाना *akbakānā*)

akadanda अकदँद <動>おどろく。

akara अकड़ <名>アカラ(村の踊り場)。

akid अकिद् <動>1.(果物などを、両手で拾うように)籠に入れる。2.(米の酒を)造る。

akirin अकिरिङ् <動・使役>売る。《基底形》*kirin* 買う。

akin अकिन् <代>彼女たち二人、かれら二人。(三人称双数形)。

ako अको <代>彼女たち、かれら。(三人称複数形)。

alan अलङ् <代>わたしたち二人。(一人称双数包括形)。

ale अले <代>わたしたち。(一人称複数排他形)。

ali अलि <動>湿る。濡れる。

alin अलिङ् <代>わたしたち。(一人称双数排他形)。

alo अलो …するな。…しなければなあ。(命令法及び願望法における否定形。禁止を表わす)。

- alpuñ** अल्पुइ <名>波。
- alu** अलु <名>じゃが芋。(借。<ヒ आलू ālū)
- am** अम् <代>あなた。君。おまえ。(二人称単数形)。
- aminañ / aminuñ** अमिनइ/अमिनुइ <代>こんなに。
- an** अन् <代>これ。
- añ** अन् <代>私。一人称単数。
- añ** अइ <動>夜が明ける。<名>明け方。夜明け。
- ana** अन <代>この。
- añgob** अंगोब् <名・動>欠伸(する)。
- añjed** अंजेद् <動>枯渇する。干上がる。(沸騰して)水がなくなる。
- anu** अनु <動・使役>飲ませる。《基底形》*nu* 飲む。
- apan** अपन् 自分自身。
- ape** अपे <代>あなたたち。(二人称複数形)。
- apapia** अपपिअ <数>三つずつ。(配分数詞)。
《基底形》> *apia*
- apia / api** अपिअ / अपि- <数>三つ。3。
- api hisi** अपि हिसि <数>六十。
- api hisi gelea** अपि हिसि गेल्-एअ <数>七十。
- api horo** अपि होड़ो <複合語>三人。
- api ma** अपि म <複合語>三日。
- apir** अपिर् <動>飛ぶ。飛行する。
- apu** अपु <名>父。(親族名称。指示形式)。
《呼びかけ形式》*aba*
- apu hoñjar** अपु होञ्जर् <名>しゅうと。(親族名称。指示形式)。
《呼びかけ形式》*aba*
- ara** अर <名>娘婿。妹婿。(親族名称。指示形式)。
《呼びかけ形式》*babu*
- ara'** अर: <形>赤い。<動>赤くなる。赤くする。
- area / are-** अरेअ / अरे- <数>九つ。9。
- are'** अरे: <動>(魚を捕るために)水をかきだす。
- arid** अरिद् <動>目をあける。目をあけている。
《反意語》*japid* 目をつむる。
- aril** अरिल् <名>雹(ひょう)。霰(あられ)。
<動>雹が降る。霰が降る。
- arki** अर्कि <名>(マファの花などから造る)蒸留酒。
- arkid** अर्किद् <動>奪う。無理やりもっていく。誘拐する。連れ去る。
- arsal** अर्सल् <動>(ライトなどで)照らす。
- ara'** अइ: <動>手放す。解放する。
- ara'** अइ: <名>野菜。
- ara' sakam** अइ: सकम् <集合名詞>食用野菜の総称。
- ara' uru'** अइ: उड़ु: <動>躊躇する。ためらう。
【経験者目的語をとる】
- arandi** अइंदि <名>結婚。婚礼。結婚式。<動>結婚する。結婚式をあげる。
- ari** अड़ि <名>畦道。
- arisa** अड़िस <動>怠惰な。怠ける。怠る。【経験者目的語をとる】
- asadi** असदि <動>飽きる。いやになる。【経験者目的語をとる】
- asar** अस् <名>影響。効果。(借。<ヒ असर *asar*)
- asarae'** असरए: <名>期待。望む。(借。<ヒ आशा *āsā*)
- ase / asi** असे / असि <動>促す。催促する。頼む。求める。要求する。
- asid** असिद् <動>泣きやむ。
- asul** असुल् <動>慣らす。飼う。養う。
- ata** अत <動>あぶる。焼く。
- ate** अते <感>おーい。(呼掛け)。
- ate** अते <後>から。よりも。以来。
- ate huñin** अते हुड़िइ <複合語>以下。
- ate pura'** अते पुर: <複合語>以上。
- atiñ** अतिइ <名・動>放牧(する)。
- atom** अतोम् <名>岸。土手。(川や海)沿い。
- atom te** अतोम् ते <副>に沿って。
- atu** अतु <動>流す。流れる。
- aṭauri** अटउरि <名>一週間。
- aṭakar** अटक् <動>気づく。感ずる。

au अउ <動>取る。採る。持って来る。もたらす。《同意語》*agu*

au अउ <感> (失敗したときなどに、思わずだす感嘆のことば) あれえ、しまった。ごめんなさい。

ayar अयर् <名>前。前方。<動>導く。

ayar tayom अयर्-तयोम् <集合名詞>前後。過去未来。

ayub अयुब् <動>夕方になる。日が暮れる。<名>夕暮れ。夕方。

ayum अयुम् <動>聞く。聞こえる。

B

baa बा <名>花。花祭。<動>花が咲く。花祭をする。

ba' -ब: <動詞強調辞>早くをする。

baba बब <名>稲。

babaria बबरिअ <配分数詞>二つずつ。《基底形》*baria* 二つ。

babata बबत <動>かゆい。【経験者目的語をとる】

baḍa बड <名>伯父。

baḍi बडि <名>伯母。

badkan बद्कन् <感>ふーん。そお。

badli बद्लि <動>取り替える。変える。変わる。<名>取り替え。(借。<ヒ बदली *badlī*)

bagaica बगइच <名>庭。庭園。

bagarao बग(अ)ड़ओ <動>壊れる。砕く。壊す。故障する。潰す。

bage बगे <動>残す。捨てる。置き去る。

bahar बहर् <名>外。外部。外側。(借。<ヒ बाहर *bāhar*)

bai बइ <感>おーい。(呼掛け)

bai बइ <動>建てる。作る。直す。<複合動詞>注意して…する。

baira बइर <名>耳の悪い人。

baje बजे <名>時間。時。(借。<ヒ बजे *baje*)

bakal बकल् <名>板。

bakala' बकल: <名>樹皮。

bakri बक्कि <名>柵。囲い。

baksa बक्स <名>箱。(借。<ヒ बक्स *baks* <英 box)

bakuo बकुओ <動>驚く。

balae बलए <名・動>苦勞(する)。

balṭi बल्ति <名>桶。バケツ。手桶。(借。<ヒ बालटी *bālṭī*)

balbal बलबल् <動>汗をかく。【経験者目的語をとる】<名>汗。

bale' बले: <名>乳幼児。

balu बलु <名>気違い。狂気。バカ。あほ。<動>気が狂う。

baṅasi बंणसि <名>釣り。<動>釣る。

bañcao बंचओ <動>救う。助ける。(借。<ヒ बचना *bačnā*)

banda बंद <名>湖。

banduku बंदुकु <名>鉄砲。銃。<動>銃で撃つ。(借。<ヒ बंदूक *bādūk*)

banam बनम् <名> (バイオリンのような) 弦楽器の一種。

baṅgai' बंगइ: <動> (人一人が) いない。(存在のコピュラ有生単数否定形)

baṅkina' बंकिन: <動> (人が二人) いない。(存在のコピュラ有生双数否定形)

baṅkoa' बंकोअ: <動> (人が皆) いない。(存在のコピュラ有生複数否定形)

baṅia बंणिअ <名>商人。(借。<ヒ बनिया *baniyā*)

bano' बनो: <動> (物が) ない。(存在のコピュラ無生否定形)

ba<p>ai बपइ <動・相互>仲直り(する)。《基底形》*bai*

barabari' बर-बरि: <動>均等にする。平等になる。<名>同じ。平等。(借。<ヒ बराबर् *barābar*)

barca बर्च <名>槍。(借。<ヒ बरचा *barcā*)

- bare re** bare re <副詞句>事柄について。(借。<ヒ ~के बारे में ~ke bāre mē)
- bari** बरि <助>だけ。
- bariya / bar** बरिय / बर्- <数>二つ。
- bar hajar** बर् हजर <数>二千。
- bar hisi** बर् हिसि <数>四十。
- bar hisi geleya** बर् हिसि गेलेय <数>五十。
- bar hoṛo** बर् होड़ो <複合語>二人。
- bar sau** बर् सउ <数>二百。
- baran sa'** बरन् सः <後置詞句>両側。
- barankiñ** बरन्किड़ 両方。
- baṛa** -बड़ <動詞強調辞>何度もをする。
- baṛae** बड़ए <名>鍛冶屋。
- baṛe** बड़े <名>ベンガルボダイジュ。
- basan** बसड़ <動>沸騰する。
- basi** बसि <動>腐る。
- baṭi** बटि <動>倒れる。転ぶ。
- baṭu** बटु <名>義兄。(親族名称。呼びかけ形式)《指示形式》tenja-
- bau** बउ <名>兄。(親族名称。指示形式)《呼びかけ形式》dada
- bayar** बयर् <名>紐。綱。
- be'** बेः <動>唾を吐く。
- beda** बेद <動>騙す。
- begar** बेगर् 無しに。(借。<ヒ बगर begar)
- beṅgaṛa** बैंगड़ <名>ナス。
- ben** -बेन् <接辞>二人称双数。
- berel** बेरेल् <形>生の。<動>まだよく煮えていない。火が通っていない。
- bera** बेड़ <名>谷。
- bes** बेस् <形>安全な。良い。<動>元氣である。(病気が) 治る。(借。<ヒ बेश bes)
- bese** बेसे <形>多い。
- bicar** बिचर् <名>考え。思いつき。(借。<ヒ विचार vicār)
- bid** बिद् <動>立てる。建てる。立つ。
- bida** बिद <動>別れを告げる。(借。<ヒ बिदा bidā)
- bijili** बिजिलि <名>電気。(借。<ヒ बिजली bijli)
- bil** बिल् <動>(ゴザなどを) 敷く。
- bili** बिलि <名>睾丸。
- biñ** बिड़ <名>蛇。
- bindu** बिनदु <名>点。(借。<ヒ बिनद् bindū)
- biṅga** बिंग <動>分かれる。分離する。<形>違った。異なる。
- biṅga biṅga** बिंग बिंग <形>別の。別々。
- bi<ni>yur** बि-नि-युर् <名>回転。《基底形》biyur
- bir** बिर् <名>森。
- birsipait** बिर्सिपइत् <名>木曜日。(借。<ヒ बृहस्पतिवार brhaspativār)
- birid** बिरिद् <動>起こす。起きる。立つ。立ち上がる。
- bis** बिस् <名>毒。(借。<ヒ विश viś)
- biswas** बिस्वस् <名・動>信用(する)。(借。<ヒ विश्वास viśvās)
- bitar** बितर् <名>内。内部。内側。(借。<ヒ भीतर bhītar)
- bitar re** बितर् रे <後置詞句>奥に。中に。
- biyur** बियुर् <動>回る。向く。曲がる。
- boo'** बोओः <名>頭。
- bo' jambaṛa** बोः जम्बड़ <複合語>南。
- boka** बोक <動>ナイフなどで刺し、そのまま引く。《類語》sobo' ナイフなどで刺す。had ナイフなど、先のとがったもので切る。layar ナイフで皮をむく。
- boko** बोको- <名>弟妹。(親族名称。指示形式)。
- bokoñ koṛa** बोको-ञ् कोड़ <名>私の弟。
- bokoñ kuri** बोको-ञ् कुड़ि <名>私の妹。
- bolo** बोलो <動>入る。
- boṅga** बाँग <動>供える。崇拜する。祈る。拝む。<名>神。靈。幽霊。礼拝。
- boṅga buru** बोड़ बुरु <集合名詞>信仰。宗教。
- bōr** बोओर् <名>花婿。
- borkod** बोर्कोद् <名>肺。

boro बोरो <動>臆病な。怖がる。恐れる。
bororo बोरोड़ो <動> (石鹼など) ぬるぬるする。
borsa बोर्स <動>期待する。<名>期待。(借。<ヒ भरोसा *bharosā*)
boṛa बोड़ <動>切れなくなる。鈍くなる。《反意語》*leser* 鋭く切れる。(刃が) 鋭い。
botoe' बोटोए: <名>ふんどし。
bu -बु <接辞>一人称複数包括接辞。
bu' बु: <動>貫く。貫通する。穴をあける。
bu' बु: <動>吠える。
budu बुदु <名>水曜日。(借。<ヒ बुधवार *budhvār*)
bugi बुगि <動>治す。治る。<形>良い。《同意語》*bes*
bugin बुगिन् <形>元気な。良い。《反意語》

edkan

buguli बुगुलि <名>鞆。袋。
bujao बुजओ <動>了解する。理解する。わかる。(借。<ヒ बूझना *būjhna*)
bul बुल् <動>酔う。【経験者目的語をとる】
bulu बुलु <名>腿 (もも)。
buluñ बुलुङ् <名>塩。<動>塩辛く感じる。【経験者目的語をとる】
bunum बुनुम् <名>白蟻の巢。
burdulud बुर्दुलुद् <名>羽アリ。
buru बुरु <名>丘。山。<動>盛る。積む。
huriya बुड़िअ <名>おばあさん。《対語》*haṛam* おじいさん。
busu' बसु: <名>藁 (わら)。
buṭa बुट <名>幹。
buṭi बुटि <名>臍 (へそ)。

C

ca च <接>もしくは。
caa चअ <名>茶。(借。<ベ च *ca*)
ca'lom च:लोम् <名>尻尾。尾。
caab चाब् <動>口をあける。あくびをする。《対語》*rikub* (口を) とじる。
caba चब <動>終わる。無くなる。<複合動詞>…し終わる。
cabi चबि <名>鍵。<動>鍵をかける。(借。<ヒ चाबी *cābī*)
caka चक <動>味見をする。
cakar चकर् <名>横。幅。面積。広さ。
calao चलओ <動>運転する。何とかやって行く。(借。<ヒ चलाना *calānā*)
camaci चमचि <名>スプーン。匙。(借。<ヒ चमची *camacī*)
candi चँदि <名>銀。(借。<ヒ चाँदी *cāḍī*)
caṇḍu' चँडु: <名>月。
caṇi चँणि <動> (皮膚が) 突っ張る。引っ張る。
capi चपि <名> (米を) 洗う。水洗いする。《類

語》*abui* 顔を洗う。手足を洗う。*gasar* (食器などを) 洗う。

capu चपु <動>触れる。触る。接触する。摘む。
cara चर <名>餌。(借。<ヒ चारा *cārā*)
care चरे <名>禿 (はげ)。<動>はげる。
catom चतोम् <名>傘。笠。
caṭa' चट: <動>ひび割れする。
caṭe' चटे: <動> (味見をする程度に) 舐める。《類語》*jal* (ペろりとペろりと) 舐める。
caṭu चटु <名>水壺。
caṭu luṇḍi' चटु लुण्डि: <集合名詞>陶器。
cauli चउलि <名>米。《類語》*baba* 稲。*maṇḍi* 飯。
ceṇe चेंणें <動>鳥。
ceṇṭa चेंट <動>うらやむ。【経験者目的語をとる】
ceped चेपेद् <動> (空気などでふくらんでいったものが) しぼむ。(おなか)がスリムになる。
cetan चेतन् <名>上。《反意語》*latar* 下。

ci चि <疑問助詞>か。<接続詞>…か、…か。

cia' ci चिअ: चि <接>なぜなら。

cini चिनि <名>砂糖。(借。<ヒ चीनी *cīnī*)

cina' / cikana' चन: चिन:/चिकन:/चन: <疑>何。

cika चिक <疑問助詞>かな。

cikani' / cani' चिकनि:/चनि: <疑>どんな人か。

cikankiñ / cankiñ चिकन्किङ्/चन्किङ् <疑>どんな人達(双数)か。

cikanku / canku चिकन्कु/चन्कु <疑>どんな人達(複数)か。

cilika चिलिक <疑>どんな。どのような。どう。どのように。

cilika te चिलिक-ते <疑>なぜ。

cilika te ci चिलिक-ते चि <接>なぜなら。だから。

cimin paisa चिमिन् पइस <疑>いくら。

cimin samae mena' चिमिन् समए मेन: <疑>何時[時間]。

ciminañ चिमिनङ् <疑>いくつ。

cimtañ चिम्तङ् <疑>何時。

cina चिन <名>印。(借。<ヒ चिन्ह *cinha*)

cipa चिप <動>(手で)しぼる。

cipi चिपि <名>皿。

cipud चिपुद् <動>握る。<名>拳。一握り(量の単位)

citi चिति <名・動>さび(になる)。

citu चितु <名・動>ふけ(がでる)。

ciṭa चिट <動>怪しむ。疑う。<名>疑念。

ciṭi चिटि <名>手紙。(借。<ヒ चिट्टी *ciṭṭī*)

coo चोओ <名>チョウ(仮面を被って踊るダンス劇)。<動>チョウを踊る。

co' चो: <名・動>キス(する)。

coka' चोक: <名>殻。(果物の)皮。

coke चोके <名>カエル。

cokoe' चोकोए: <副>少し。

copo' चोपो: <名>接吻。<動・相互>接吻しあう。《基底形》*co'*

cote' -चोटे: <動詞強調辞>殆どする。

coṭoñ चोटोङ् <動>(蒸発して)水がなくなる。《類語》*anjed* (人為的操作によって)水がなくなる。

cud चुद् <動>(カエルなどが)すわった位置からジャンプする。

cumañ चुमङ् <名>(結婚式などでおこなわれる)儀礼的キス。<動>儀礼的キスをする。

cunḍul चुँडुल् <動>指す。差し示す。

cunḍul kaṭu' चुँडुल् कटु: <複合語>人差し指。

cunḡi चुँगि <名>タバコ。

cu' चु: <動>(米や塩などを)指の先でつまむ。

cuṭi चुटि <名>尖。頂上。(借。<ヒ चोटी *coṭī*)

cutṭi चुट्टि <名>休み。休日。(借。<ヒ छुट्टी *chuttī*)

cuṭu चुटु <名>ネズミ。《類語》*katiya cuṭu* よりも大きなネズミ。*guru* 田畑に生息する大きなネズミ。

D

daa दा <名>植物のイモ状になる球根。(ミツバチの)巣。(アリの)卵。<動>(ミツバチが)巣を作る。(アリが)卵を生む。

da' द: <名>水。雨。(比喩として)尿。<動>雨が降る。水に溶ける。小便をする。

dab दब् <動>(瓦などで)屋根をふく。(雲

が)空を覆う。

dada दद <名>兄。(親族名称。呼かけ形式だが、指示形式としても使用)《指示形式》**बौ**

dadal ददल् <動・反復>何度も叩く。《基底形》**दल्**

dai दइ <名>姉。(親族名称。呼かけ形式だ

が、指示形式としても使用)《指示形式》*aj*
dal दल् <動> (棒で) 打つ。叩く。
dali दलि <名>豆スープ。(豆スープにする)
 豆。(借。<ヒ दाल *dāl*)
danañ दनङ् <動>隠す。隠れる。
dañ दङ् <助>もちろんだ。(強調を表わす)
dañgara दङ्गड़ <名>青年。少年。<動>少年
 になる。
dañgari दङ्गड़ि <名>乙女。少女。<動>少女
 になる。
dane दणें <名>供犠。供犠獣。<動>供犠す
 る。供犠獣をさがす。
daṇa दणँ <動>探す。
dapal दपल् <動> (布や葉で) 覆う。
darom दरुम् <動>迎える。出迎える。
daru दरु <名>木。樹木。
dari दड़ि <動>できる。勝つ。<複合動詞>…
 できる。
dasain दसइन् <名>ダサイン祭。(借。<ヒ
 十夜 *dasahrā*)
dasi दसि <名>男の使用人。《対語》*kamini*
 女の使用人。
dastur दस्तुर् <名>儀式。式典。(借。<ヒ
 十夜 *dastūr* <ペ>)
datorom दतोरुम् <名> (稲刈りに使用する)
 鎌。
daya दय <名>同情。憐憫。<動>哀れむ。
 (借。<ヒ दया *dayā*)
de दे <感>ちょうだい。(呼びかけ)
de' दे: <動>登る。昇る。(車に) 乗る。
dea देअ <名>背中。
dela देल <感>おいで。(呼掛け)
deṅga देंग <動>手伝う。助ける。
deona देंऑणँ <名> (悪霊の呪いをとく) 呪
 医。
depeṛe देपेड़े <動・相互>性交する。《基底形》
deṛe
deṛe देड़े <名・動>性交(する)。
didi दिदि <名>ハゲタカ。

diku दिकु <名>よそ者。よそ者がしゃべる言
 葉(ヒンディー語やサダニー語など) <動>
 よそ者言葉をしゃべる。
dinḡae' दिँगए: <形> (背が) 低い。
dipili दिप्(इ)लि <名>時。
diri दिरि <名>石。
dirin दिरिङ् <名> (動物の) 角。
disum दिसुम् <名>国。(借。<ヒ देश *deś*)
diya दिय <名>ランプ。(借。<ヒ दीया *dīyā*
)
do दो <助>は。(主題マーカー)
doo दोओ <動>置く。(比喩) 結婚する。
dola दोल <感>さあ、行きましょう。(呼掛
 け)
dondo दोंदो <動>持ち上げる。
dorpon दोर्पोन् <名>鏡。<動>鏡で見る。(借。
 <ヒ दर्पण *darpaṇ*)
duar दुअर् <名>扉。ドア。(借。<ヒ द्वार *dvār*
)
dub दुब् <動>坐る。腰掛ける。
dudumul दुदुमुल् <動>鳩。
dukan दुकन् <名>商店。店。(借。<ヒ दुकान
dukān <ペ>)
duku दुकु <名>悲しみ。<動>苦しむ。悲し
 い。【経験者目的語をとる】(借。<ヒ दुःख
duḥkh)
duku suku दुकु-सुकु <集合名詞>喜びと悲し
 み。感情。
dul दुल् <動> (水などを) そそぐ。
dulara दुलड़ <名・動>愛(する)。恋愛(す
 る)。
dumañ दुमङ् <名>太鼓の一種。
duniya दुनिय <名>世界。(借。<ヒ दुनिया
duniyā <ア>)
du<nu>b दुनुब् <名>集会。ミーティング。《基
 底形》*duḥ*
dupil दुपिल् <動> (荷物を) 頭に乘せて運ぶ。
 《類語》*go'* 背中にかついで運ぶ。*kud* 背中に乗
 せて運ぶ。*kuṭuñ* 天秤棒にかついで運ぶ。

durañ दुरङ् <動>歌う。<名>唄。《対語》
susun 踊る。舞踊。
durum दुडुम् <名>睡眠。眠り。<動>眠る。
 眠たくなる。【経験者目的語をとる】

dusman दुस्मन् <名>敵。(借。<ヒ> दुश्मन
 duśman <ペ>)
dutam दुतम् <名・動>仲人(する)。

D

ḍakṭar डक्टर <名>医者。(借。<ヒ> डाक्टर
 ḍakṭar <英> doctor)
ḍaku डकु <名>強盗。<動>奪う。(借。<ヒ>
 डाक् ḍākū)
ḍanda' डँड: <名>棒、ステッキ。<動>棒
 などで叩く。(借。<ヒ> डँडा ḍandā)
ḍari डड़ि <名>泉。
ḍari डड़ि <名>泉。
ḍata डट <名>歯。<動>(こどもの)歯が
 生える。
ḍebel डेबेल <動>水浴する。<名>水浴。
ḍedeb डेडेब् <名>雀。
ḍeke डेके <名>(木に上るための足場となる)
 窪み。
ḍende डँडे <動>(結び目などを)締め付け
 る。<形>(服などが)きつい。
ḍilan डिलङ् <動>緩める。弛む。緩む。

ḍiṅḍa डिँड <名>未婚。<形>未婚の。
ḍoba डोब <名>池。水溜り。
ḍobo' डोबो: <動>首をたてに振る。眠たくな
 る。【経験者目的語をとる】
ḍoḍo' डोडो: <名>小便。尿。<動>小便する。
ḍoṅḍo डोंडो <名>馬鹿。<形>馬鹿な。
ḍoṅga डोंग <名>小舟、ボート。(借。<ヒ>
 डोंगा ḍōgā)
ḍub(u)ri डुबुरि <名>碗。
ḍuki डुकि <名>小便。尿。<動>小便をする。
 <複合動詞>…しやがる。(捨てぜりふ、憎
 まれ口)
ḍuki ora' डुकि ओड़: <名。複合語>便所。
ḍulki डुल्कि <名>ドゥルキ(片面はスティッ
 クでたたき、もう一方の面は手で叩く太鼓)
ḍumbui' डुँबुइ: <動>潜る。(日が)沈む。溺
 れる。

E

e' -ए: <接辞>三人称単数。
eea / ē- एअ / एए- <数>七つ。
ekdam एकदम् <副>すっかり。(借。<ヒ>
 एकदम ekdam)
ekela एकल <動>振る。震える。揺れる。身
 震いする。
en एन् <代>その。
-en/ -n -एन्/-न् <接辞>動詞に添いて再
 帰動詞語幹を形成する。
ena एन <代>それ。
enañ एनङ् <助>…まで。
en-ate एन्-अते <後置詞句>そこから。
ene एणे <名>ラックカイガラムシ。(ラック

カイガラムシのだす分泌液が染料やニス
 の材料となる)
ene' एणे: <動>(火を)消す。
eneṭe' एनेटे: <名>起源。初源。《基底形》*eṭeḥ*
eṅga एँग <名>母。(親族名称。指示形式)《呼
 びかけ形式》एयङ्。雌。
eṅga-apu एँग-अपु <集合名詞>親。両親。
eṅga sim एँग सिम् <複合語>雌鶏。
eṅga ṭepo' एँग टेपो: <複合語>親指。
enka एन्क <代>そんな。そのような。
enkate एन्कते <接>それゆえ。だから。
enre एन्-रे <代>そこに。
enta' एन्-त: <代>そこで。

ente एन्-ते <代>そこへ。
eperaṅ एपेरङ् <動・相互>けんかする。《基底形》**eraṅ** <名>けんか。
eraṅ एरङ् <動>叱る。ののしる。
ere एरे <名>悪い前兆。(ムンダ人の信仰として、ある特定の場面で、カラスや牛などを見ることを悪い前兆とみなす) <動>そうした前兆の影響をうける。
esel एसेल् <形>肌が白い。《類語》**puṅḍi** (一般的に) 白い。**paṅḍu** 白髪。《対語》**hende** (肌の色もふくむ、一般的に) 黒い。
eser एसेर् <動> (場所を) 占める。占有する。
eskar एस्कर् <動>一人になる。寂しくなる。孤立する。

esṭesan / ṭisan एṣṭেসন্ / ṭिसन् <名>駅。停車場。(借。<ヒステーション *ṣṭeśan*)
etaṅ एतङ् <形>淡い。薄い。《反意語》**ibil** 厚い。
etka एत्क <形>悪い。《反意語》**bugi** 良い。
etwar एत्वर् <名>日曜日。(借。<ヒ *इतवार itvār*)
eṭa' एटः <形>他の。別の。
eṭa' eṭa' एटः एटः <副>種々。色々。様々。
eṭe' एटेः <動>始まる。始める。
eṭe' re एटेः रे <副>初めに。
eṭed एटेद् <動>窮屈である。不快である。
eyon एयोन् <動>覚める。目覚める。

G

ga -ग <接辞>目上の人に呼びかける際に使用。
gada गद <名>ロバ。(借。<ヒ *गधा gadhā*)
gaded गदेद् <名>苔。緑色。
gadi गदि <動> (歌いすぎなどで) 声がかれる。
gala गल <名>口が不自由な人。
galan गलङ् <動> (ゴザなどを) 編む。
galti गल्ति <名>まちがい。<動>まちがう。誤る。(借。<ヒ *गलती galtī*)
gama गम <名>雨。<動>雨が降る。
gamaṅ गमङ् <動>くすぐったい感じがする。
【経験者目的語をとる】
gaṅḍe गण्डे <名>斜め。
gaṅḍui' गंङुइः <名>腰掛け。
gaṅṭa गण्ट <名>時間。時。(借。<ヒ *घंटा ghaṅṭā*)
gaṅṭi गण्टि <名>鐘。鈴。(借。<ヒ *घंटी ghaṅṭī*)
gao गओ <名>傷。けが。<動>傷つく。けがする。(借。<ヒ *घाव ghāv*)
gapa गप <副>明日。《類語》**tisiṅ** 今日。**hola** 昨日。**miyaṅ** 明後日。**indiri'** 三日後。

gapa kote गप कोते <後置詞句>未来。将来。
garan -गरङ् <動詞強調辞>
gara गड़ <名>小川。川。<動>溝を掘る。
gari गड़ि <名>車。自動車。(借。<ヒ *गाऋई gārī*)
gari गड़ि <名>猿。
gari-ñ गड़ि-ञ् <名>叔母 (母の妹、または叔父の妻) (親族名称。指示形式) 《呼びかけ形式》**kaki**
gasar गसर् <動> (食器を) 洗う。《類語》**gesa** (灰などで) こする。**heṅga** (汚れを落とすために) こする。
gasi' गसिः <名>屁。おなら。<動>おならをする。
gati गति <名>友人。<動> (踊りの時) 手や腕を組む。
gaui' गउइः <名・動>手招き (する)。合図 (する)。
ge गे <助>こそ。(強調を表わす)。
ged गेद् <動> (肉を) 切る。《類語》**had** (ナイフなど刃の鋭いもので) 切る。**maḥ** (斧などで) 切る。
geḍe गेडे <名>アヒル。

gejera ゲジェ ゲ <動> (子供が) ぐずる。

gejo ゲジョ <動> どもり。

gele ゲレ <名> 穂。 <動> 穂が出る。

geleya / ゲル ゲレイ / ゲル- <数> 十。

gel apiya ゲル アピヤ <数> 十三。

gel areya ゲル アレイ <数> 十九。

gel bariya ゲル バリヤ <数> 十二。

gel ea ゲル エア <数> 十七。

gel hajar ゲル ハジャール <数> 一万。

gel iraliya ゲル イラリヤ <数> 十八。

gel moṇeya ゲル モンエイ <数> 十五。

gel miyad ゲル ミヤド <数> 十一。

gel turuya ゲル トルユヤ <数> 十六。

gel upuniya ゲル ウプニヤ <数> 十四。

gember ゲンベール <動> くわえる。

ger ゲール <動> (鼠が) かじる。

gere ゲレ <名> 姪、甥。男性の姉妹の子。または女性の兄弟の子。(親族名称。指示形式)

gesa ゲサ <動> (食器などをきれいにするために、灰などで) こする。

gil ギル <動> げんこつでたたく。《類語》 *dal* 棒でたたく。 *tabri* 平手でたたく。

gilas ギラス <名> コップ。(借。 <ヒ ギラス *gilās* <英 glass)

girja ギルジャ <名> キリスト教教会。(借。 <ヒ ギルジャ *girjā*)

giri ギリ <動> こぼす。棄てる。投げる。

giti' ギティ <動> 寝る。横たわる。伏す。

gitil ギティル <名> 砂。砂利。

giyu' ギユ <動> 恥じる。恥ずかしい。【経験者目的語をとる】

go' ゴ <動> 肩にかついで、運ぶ。 *paragrhgod* ゴド <動> (果実を) 摘む。《類語》 *heḥ* (葉っぱを) 摘む。 *hod* 枝から出た葉をしごくようにしてとる。 *peteḥ* (小枝を) 折る。 *sid* (山菜を) 摘む。 *ṭoe* (穂を) 折る。 *tud* 根っこごと引き抜く。 *tusa* 爪で折るようにとる。

godar ゴダール <動> 爪で搔く。

goe' ゴエ <動> 殺す。枯れる。

gogoe' ゴゴエ <動・反復> 間違いなく、死ぬ。(強調) 《基底形》 *goeḥ*

goja ゴジャ <名> 尖った先。 <動> 先を尖らせるために削る。

gojo' ゴジョ <動> 殺される。死ぬ。《基底形》 *goeḥ*

gol ゴル <名> 丸。円。丸い。(借。 <ヒ ゴル *gol*)

golaṅ ゴラウ <動> (こそばゆく) なでる。

gole ゴレ <名・動> 口笛 (をふく)。

gomke ゴムケ <名> 主人。首領。シンボンガ神。

gonon ゴノウ <名> 値。価格。値段。結納金。

gonḍo ゴンヂョ <名> 汚さ。屑。 <動> 汚くする。(借。 <ヒ ゴンヂョ *gandā* <ペ)

goom ゴオム <名> 麦。(借。 <ベ ゴム)

gopoe' ゴポエ <動・相互> 争う。喧嘩する。《基底形》 *goe'*

gore ゴレ <動> くすぐる。くすぐったがる。【経験者目的語をとる】

gore gote ゴレ-ゴテ <名> 脇の下。

gora ゴラ <名> 畑。陸稲田。《類語》 *loyon* 水田。 *badi* 天水田。

gore' ゴレ <動> (鼻水を顔一杯に) こする。

gosari ゴサリ <動> (指で) まさぐる。

goso ゴソ <動> (木や花が) 枯れる。

goso' ゴソ <動> 拭く。

gota' ゴト <動> (かゆみを止めるために) 掻く。《類語》 *godar* (虎などが) 爪で掻く。 *hudir*

(とげなど尖ったもので) 掻く。 *ruba* (動物が獲物を) 爪で捕獲する。 *poska* (鳥が食料を

さがすために、地面を) 引っ掻く。

gota ゴト <名> 全部。丸々。

gota muli ゴト ムリ <副> 回りに。方々。至る所。あちこち。

gucu ゴク <名> 口髭。

gugula ゴグ <動> 頭を布で覆い隠す。

guiram ゴイラム <名> 義理の兄弟の兄弟姉妹、あるいは義理の姉妹の兄弟姉妹。(親族名称。呼びかけ形式だが、指示形式としても使用)

guli गुलि <名>玉。弾丸。(借。<ヒ गोली *golī*)

gun गुन् <名>本質。性質。才能。(借。<ヒ गुण *gun*)

gunda गुंड <名>粉。

gungu गुंगु <名>祖々父母。(親族名称。指示形式)《呼びかけ形式》*kuku*

gupi गुपि <動>(牛や山羊を)放牧させる。<名>牛飼いの仕事(借。<ヒ गोपी *gopī*)

guri' गुरिः <名>牛ふん。

guru गुडु <名>野ネズミ。

gutu गुतु <動>(針などを)さす。(針などをさして)ひもを通してつなげる。

guyu गुयु <名>小屋。

H

hai हइ <名>魚。

habi' हबिः <後>まで。

hacu' हचुः <動>くしゃみをする。

had हद् <動>(ナイフなど先の尖ったもので)切る。

haga हग <名>兄弟。(親族名称。指示形式)

haka हक् <動>下げる。掛ける。吊るす。

hakan हक्न् <動・再帰>みずから吊り下げる。<名>ハカン祭。四月から六月にかけて各地で行われる。

hake हके <名>木を切るための斧。《類語》*kondeh* 小斧。*kapi* 狩猟用の斧。

halan हलङ् <動>拾う。

hambal हम्बल् <形>重い。複雑な。<名>目方。重量。重さ。<動>重く感じる。【経験者目的語をとる】

hambud हम्बुद् <動>抱く。抱きかかえる。

han हन् <代>あの。

hana हन <代>あれ。(遠称。物を指す)

hanate हन्-अते <代>あそこから。

hani' हन्-इः <代>あの人。(遠称。人を指す)

hankin हन्-किङ् <代>あの人達(双数)。

hanku हन्-कु <代>あの人達(複数)。

hanre हन्-रे <代>あそこに。

hanta' हन्-तः <代>あそこで。

hantara -हँतड़ <動詞強調辞>先に、する。

hante हन्-ते <代>あそこへ。

hanar हनर् <名>しゅうとめ。(親族名称。指示形式)

hani हनि <名・動>損(する)。

hantara -हँतड़ <動詞強調辞>先に、する。

handed हँडेद् <動>(ドアなどを)閉める。閉じる。

hana हँण <動>気分を害する。むくれる。

hanab हँणब् <動>(米を炊くために)鍋に入れる。

hapad हपद् <名>蛭(ヒル)。《類語》*leṇḍad* ミミズ。

hape हपे <動>黙る。

hape hape te हपे-हपे-ते <副>こっそり。

har हर् <動>(車などを)運転する。(家畜を)追い立てる。

hara हर <動>(髪が)伸びる。(草が)生い茂る。(人間が)成長する。

harao हरओ <動>負ける。(借。<ヒ हरना *harnā*)

harta' हर्तः <名>樹皮。

harub हरब् <動>蓋をする。

hara' हड़ः <動>足をひっかける。

harad हड़द् <動>辛い。辛く感じる。【経験者目的語をとる】

haragu हड़(अ)गु <動>(車から)降りる。下る。

harām हड़म् <名>年寄り。爺さん。<動>年をとる。《類語》*बुःऋइअ*

hasa हस <名>土。地面。

hasa gara हस गड़ <複合語>葬式。墓。

hasangar हसङ्गर् <名>炭。

hasarad हसरद् <動> (皮膚が) かさかさする。(舌が) ざらざらする。【経験者目的語をとる】

hasu हसु <名> 病気。<動> 痛い。痛む。【経験者目的語をとる】

hasur हसुर् <動> (日が) 沈む。

hasuru हसुड़(उ) <動> (雨が) 止む。

hatañ हतइ <名> 脳。

hatar हतर् <動> (紐や布で子供や物を) 肩から吊す。《類語》*hebe* だっこする。

hati हति <名> 象。(借。<ヒ> हाथी *hāthī*)

hatom हतोम् <名> 父方の叔母、または伯母。母の兄弟の妻(親族名称。指示形式、呼びかけ形式でも使用)

hatu हतु <名> 村。

haṭa' हटः <名> 箕。

haṭiñ हटिइ <動> くぼる。わける。<名> 分け前。

hau हउ <名> アカアリ。

haya हय <動> 欲しがる。<名> 欲望。

hayad हयद् <動> 水気をきる。《類語》*rooṛo* (天日などで) 乾かす。

hayam हयम् <動> ささやく。

hee हेए はい(肯定の返事)。<動> 引き受ける。賛成する。承諾する。

hee cika हेए चिक じゃない。(付加疑問)

hee mar हेए मर् <感> よろしい。オーライ。

he' हे: <動> (葉っぱを) 摘む。

heari हेअड़ि <動> (牛などが) 稲などの穀物を食べてしまって、だめにする。

hebe हेबे <動> だっこする。

heben हेबेन् <動> (味が) 苦い。【経験者目的語をとる】

helta हेल्त <名> 竹の子。《類語》

hena हेन <代> それ。

hende हेंदे <名> 黒。<形> 黒い。<動> 黒くなる。

heñja' हेंजः <名> 目くそ。

henga हेंग <動> (汚れを落とすために、食器などを) こする。《類語》*od* (汚れを落とすために、布や手で肌を) こする。

her हेर् <動> (種を) まく。

hera हेड़ <動> 遅い。遅れる。

here हेड़े <名> 粃殻。《類語》*lupuḥ* むか。

hered हेड़ेद् <名> (田んぼの) 草取り。<動> 草取りをする。

herem हेड़ेम् <動> 甘い。甘く感じる。【経験者目的語をとる】

hewa हेव <動> 慣れる。馴れる。<名> 習慣。癖。(借。<サ> *hewā*)

hia' हिअः <動> しゃっくりをする。<名> しゃっくり。

hiatiñ हिअतिइ <名> 悲しみ。<動> 悲しくなる。《同意語》*चकतिइ*

hicir हिचिर् <名> 稲光。<動> 雷が落ちる。

hiju' हिजुः <動> 来る。

hilañ हिलइ <動> 嫌う。憎む。【経験者目的語をとる】

hili हिलि <名> 兄嫁(親族名称。指示形式)。《呼びかけ形式》*dai*

hirci हिर्चि <動> 水をまく。<名> 水まき。

hiri' हिरिः <動> こぼす。

hirum हिरुम् <名> 第二夫人。

hisab हिसब् <名・動> 計算(する)。(借。<ヒ> हिसाब *hisāb* <ア>)

hisi हिसि <数> 二十。

hisinga हिसिंग <動> 嫉妬する。【経験者目的語をとる】<名> 嫉妬。

hisir हिसिर् <名> 首飾り。ネックレス

hita हित <名> 種。

hiya' हियः <動> しゃっくりする。

hoba होब <動> おきる。なる。

hoka होक <動> 延期する。止す。止む。断わる。

hola होल <名> 昨日。

holad होलद् <名> 剃刀。

holoñ होलोइ <名> 小麦粉。

hon होन् <名>子。子供。赤ん坊。
hon gaṇa होन् गणं <複合語>子孫。
honañ होनइ <動>もしとしたら。
honder होंदेर् <副>先日。
honḍoe' होंडोए: <動>沸かす。沸く。沸騰する。
hoñjar होंजर <名>義父。(親族名称。指示形式。)《呼びかけ形式》*aba*
honor होनोर् <動>散歩する。<名>旅行。散歩。
hora होर <名>道。
hora re होर रे <後置詞句>途中で。
horo होरो <動>守る。防御する。
horo होरो <名>亀。
hoṛo होड़ो <名>人。人間。ムンダ人。
hoṛomo होड़ोमो <名>体。肉体。
hosoro होसोड़ो <動>ウソをつく。だます。<名>ウソ。
hoṭa' होट: <動>(耳を)棒で搔く。
hoṭo' होटो: <名>首。のど。

hoyo होयो <名>風。空気。<動>風が吹く。
hoyo gama होयो गम <集合名詞>嵐。暴風。
hoyo होयो <動>剃る。剥く。
hu'tir हु:टिर् <動>舂(いびき)をかく。
hua' हुआ: <動>かじる。噛まれる。
hukum हुकुम् <名>命令。(借。<ヒ हुक्म *hukma* <ア)</p>
</div>

I

i' इ: <名>大便。糞。<動>大便をする。
ibil इबिल् <形>厚い。《反意語》*etañ*
ica' इच: <名>海老。
ica' इच: <動>(親指と人差し指で)つねる。《類語》*itih* (親指で)押す。*lin* (全部の指で、果物などが熟しているかどうか調べるために)押す。(ニキビを)絞り出す。*picaḥ* (親指と人差し指で)つまむ。*ruba* (手全体で)つかむ。*ota* (手全体で)押す。
idañ इदइ <副>早朝。
idi इदि <動>運ぶ。持って行く。持ち去る。連れる。引き連れる。連れて行く。
idu इदु <感>さあねえ。
idu oṛo' इदु ओड़ो: <感>知らないねえ。
iil ईल् <名>羽毛。
iim ईम् <名>肝臓。
ikir इकिर् <形>深い。

ili इलि <名>どぶろく。酒。
iminañ / imunun इमिनइ / इमुनुइ <代>これだけ。
iminañ ge इमिनइ गे これだけで十分。
imtañ इम्टइ <代>する時に。
in इन् <代>その。
ina इन <代>それ。
inam इनम् 報いる。(借。<ヒ इनाम *inām* <ア)</p>
</div>

indiri' इंदिरि: <副>明々後日。
ini' इन्-इ: <代>その人。
inkin इन्-किइ <代>その人達(双数)。
inku इन्-कु <代>その人達(複数)。
inuñ इनुइ <名>遊び。スポーツ。<動>遊ぶ。
indi इंदि <名>インディ祭。
iñdika इंदिक <名>かかど。
ipil इपिल् <名>星。
ir इर् <動>(稻などの穀物を鎌で)刈る。

iraliya / iral इरलिय / इरल्- <数>八つ。
iril इरिल् <名>義妹。義弟。(親族名称。指示形式)
isin इसिन् <動>煮る。煮える。
isin basan इसिन्-बसइ <集合名詞>料理。
iskul इस्कुल् <名>学校。(借。<ヒ स्कूल skūl <英 school)>
isu इसु <副>とても。
isu pura' इसु पुरः <副>非常に。はなはなだ。
iti? इतिः <感>そうじゃないでしょう。
itikid इत्(इ)किद् <動>(両手で稲籾を外すた

めに) こする。(目を両手で) こする。《類語》
itir (両手で) マッサージする。utukud (目を手の甲で) こする。

itil इतिल् <名>脂。脂肪。
itir इतिर् <動>マッサージする。(体を) さする。
itu इतु <動>教える。知る。知っている。
īṭa इट <名>煉瓦。(借。<ヒ ईट īṭ)>
iya इय <感>あの一。えーと。
iyam इयम् <動>(声をあげて) 泣く。

J

jaa जा <代>ある。(不定代名詞)
jaa imtan जा इम्तन् <代>いつでも。
jaa leka जा लेक <後置詞句>まあまあの。
ja' जः <感>多分。恐らく。じゃない。
jadka जद्क <副>もっと。
jadur जदुर् <名>冬から春にかけて行われる踊り。
jae' जएः <代>誰でも。
jaga जग <名>場所。
jaga re जग रे <後置詞句>代りに。
jagar जगर् <名>言葉。<動>話す。
jai जइ <名>孫。(親族名称。指示形式)《呼びかけ形式》**babu** 男の孫。**mai** 女の孫。
jaked जकेद् <後>まで。
jakoe' जकोएः <動>腹をへこませる。
jal जल् <動>なめる。
jaal जाल् <名>(クモの) 巣。(借。<ヒ जाल jāl)>《類語》**jalakari** (ものを入れるための) ネット。**jali** 小さいネット。**jalom** (魚などを捕獲するための) 大きな網。
jala जल <名>目の不自由な人。<動>目が不自由である。(借。<ヒ जाला jālā)>
jalakari जलकरि (ものを入れるための) ネット。(借。<ヒ जालिका jālikā)>
jali जलि <名>小さいネット。<動>(白内障などで) 目に幕がかかったようになって、目

が見えなくなる。(借。<ヒ जाली jālī)>
jalom जलोम् <名>網。
jama जम <動>加わる。参加する。含む。合計する。集まる。付ける。くつつける。
janao जनओ <副>毎日。
janao janao जनओ जनओ <副>度々。
janar जनर् <名>(山の) 傾斜。
janum जनुम् <名>とげ。
januwar जनुवर् <名>獣。動物。(借。<ヒ जानवर् jānvar <ペ>
jaṇḍa जँड <名>旗。(借。<ヒ झंडा jhāḍā)>
jan जइ <名>骨。種子。種。
japa' जपः <名>側。付近。近所。
japa' japa' te जपः जपः ते <後置詞句>沿って。
japi जपि <名>狩猟の踊り。
japid जपिद् <動>目を閉じる。
japud जपुद् <動>大雨が降る。<名>大雨。
jara जर <名>(焼畑のための) 野火。<動>山焼きをする。
jargi जर्गि <名>雨季。
jari जरि <動>続く。続ける。
jarom जरोम् <動>熟する。熟した。<名>卵。
jaru जरु <動>(人々と) すわって談笑する。
jaruru जरुडु <動>必ず要る。勿論。(借。<ヒ जरूर zarūr <ア>

- jati** जति <名>カースト。民族。(借。<ヒ
जाति *jāti*)
- jayar** जयर् <名>花祭りが取り行われる聖なる林。
- jee** जेए <代>すべての。
- jembed** जेम्बेद् <動>吸う。しゃぶる。
- jeta** जेत <代>どんなに
- jetana'** जेतनः <副>全然。全く。
- jetao** जेतओ <代>どんなでも。
- jeṭe** जेṭे <名>夏。乾季。直射日光。<動>日が照る。カンカン照る。日差しを感じる。【経験者目的語をとる】
- jū** जी <名>生命。魂。気分。(借。<ヒ जी *jī*)
- jū** जीँ <動>嗅ぐ。
- jid** जिद् <動>生きる。
- jiden** जिद्-एन् <動>暮らす。生活する。
- jiki** जिकि <名>やまあらし。
- jilin** जिलिद् <形>長い。
- jilu** जिलु <名>肉。食肉。
- jima** जिम <名>責任。担当。(借。<ヒ जिम *zimma* <ア>)
- jinid** जिनिद् <名>命。生命。人生。
- jir** जिर् <動> (扇子などで) あおいで、風をおくる。
- jirub** जिर्ब <動>火にあたる。(体を) 火で暖める。
- jiwan daru** जिवन् दरु <名>松。
- jiya** जिय <名>祖母。(親族名称。指示形式) 《呼びかけ形式》 *eyani*
- joo** जोओ <名>実。フルーツ。
- jo'** जोः <動>掃く。
- joa** जोअ <名>頬。
- joar / johar** जोअर्/जोहर् <感>こんにちは。さようなら。お休みなさい。お早う。今晚は。ありがとう。
- jod** जोद् <動>拭く。ふきとる。
- jogao** जोगओ <動>置く。入れる。保つ。保管する。預かる。預ける。
- jojo** जोजो <名>タマリンド。<動>酔っぱく感じる。【経験者目的語をとる】
- jojom** जोजोम् <動>習慣的に食べる。
- joka** जोक <動>比べる。量る。
- jola** जोल <名>鞆。バッグ。(借。<ヒ झोला *jholā*)
- jolom** जोलोम् <動> (壁や床などを) 土で塗る。
- jom** जोम् <動>食べる。
- jom tī** जोम् तिद् <複合語>右。
- jomea** जोमेअ <名>穀物。食物。
- jone** जोने <名> (顔以外にできる) 吹出物。
- jono'** जोनोः <名>箒。《基底形》 *jo'*
- jonom** जोनोम् <動>産む。(人が) 生まれる。(借。<ヒ जन्म *janm*)
- jonḍa** जोँड <名>トウモロコシ。
- zor** जोर् <動>頑張る。(借。<ヒ जोर *zor* <ベ>)
- joro** जोरो <動> (液体が) 漏れる。
- joṛa** जोड़ <名>対。ペア。(借。<ヒ जोड़ा *joṛā*)
- jū** जुउ <感>行け。
- jua** जुअ <名>サイコロ賭博。(借。<ヒ जुआ *jūā*)
- jugu** जुगु <名>時代。(借。<ヒ युग/ जुग *yug / jug*)
- jul** जुल् <動>燃やす。燃える。火を灯す。火が灯る。
- jumburī** जुम्बुड़ि <名>欲張り。
- jumka** जुम्क <名>ふくらはぎ。
- juṇḍi** जुण्डि <動>火をつける。
- jururu** जुरुड़ु <動>滑らかである。
- jurī** जुड़ि <動>適する。相性が合う。<名>対。
- juta** जुत <名>靴。(借。<ヒ जूता *jūtā*)
- juṭid** जुटिद् <動>口をつける。

- ka** क (願望法マーカー)
- kaa** कअ <否定>無い。いいえ。でない。
- kabu** कबु <動>困る。心身ともに疲れる。【経験者目的語をとる】
- kacairi** कचइरि <名>裁判所。(借。<ヒ कचहरी kacahrī)
- kacara** कचर <名>短気。<形>短気な。
- kaci** कचि <感>じゃない。
- kadal** कदल् <名>バナナ。
- kadarao** कदरओ <動>怒る。【経験者目的語をとる】
- kadsom** कद्सोम् <名>木綿 (もめん)。
- kagaj** कगज् <名>紙。(借。<ヒ कागज kāgaz <ペ>)
- kaji** कजि <動>しゃべる。言う。<名>言葉。
- kaka** कक <名>叔父。(親族名称。指示形式。呼びかけ形式でも使用)
- kakala** ककल <動>叫ぶ。大声で呼ぶ。
- kakaru** ककरु <名>カボチャ。
- kaki** ककि <名>叔母。(親族名称。指示形式。呼びかけ形式でも使用)
- kalam** कलम् <名>ペン。万年筆。(借。<ヒ कलम qalam <ア>)
- kalom** कलोम् <副>来年。《類語》*satom* 再来年。*maa* 去年。
- kamaṇa** कमणं <名>毛布。(借。<ヒ कंबल kambal)
- kamini** कमिणिं <名>女中。
- kami** कमि <名>仕事。用事。<動>働く。(借。<ヒ काम kām)
- kamjor** कमजोरु <名>弱さ。<形>弱い。(借。<ヒ कमजोरा kamzor <ペ>)
- kanda** कंद <動>(兄弟けんかななどで)家をわける。別々に住む。
- kanta** कंत <名>パッチワーク。ふとん。(借。<ヒ कंथा kāthā)
- kaṇṭi** कंṭि <名>釘。(借。<ヒ कांटी kāṭī)
- kaṇṭara** कंṭड़ <名>ジャックフルーツ。(借。<ヒ कठल kaṭhal)
- kapa'** कप: <動>(食べ物を)口に放り込む。
- kapi** कपि <名>(狩猟用の)斧。
- karam** करम् <名>カラム祭り。カラム踊り。
- kare** करे <接>あるいは。もしくは。
- karkad** कर्कद् <動>歯を磨く。
- karpa** कर्प <名>ぞうり。スリッパ。(借。<ヒ खरपा kharpā)
- kaṛakom** कड़कोम् <名>蟹。
- kaṛai** कड़इ 鍋。(借。<ヒ कड़ही kaṛāhī)
- kaṛi** कड़ि <名>借金。<動>借りる。
- kasara** कसर काさぶた。
- kate** -कते <動詞強調辞>何度もする。
- katu** कतु <名>小刀。ナイフ。包丁。
- kaṭa** कट <名>足。
- kaṭa jambara** कट जम्ब(अ)ड़ <複合語>北。
- kaṭab** कटब् <動>(儀礼のために)断食をする。<名>断食。
- kaṭea** कटेअ <名>大きな野ネズミ。
- kaṭu'** कटु: <名>指。
- kaṭuao** कटुअओ <動>寒気を覚える。【経験者目的語をとる】
- ke** के <感>なるほど。
- keca'** केच: <動>破る。破れる。裂く。裂ける。
- keco'** केचो: <名>瓦。タイル。
- kelen** केलेइ <動>からかう。ふざける。
- keṛa** केड़ <名>水牛。
- kesed** केसेद् <動>囲む。取り囲む。取り巻く。塞ぐ。
- keserembed** केसेरेम्बेद् <形>狭い。<動>混む。狭く感じる。【経験者目的語をとる】
- keṭe'** केटे: <形>堅い。固い。
- keyad** केयद् <名>オウム。
- kickiri** किचिरि <名>着物。衣服。
- kili** किलि <名>氏族。
- kimin** किमिन् <名>嫁。
- kin** -किन् <接辞>三人称双数接辞。
- kirin** किरिइ <動>買う。

- kiṛiki** किड़िकि <名>窓。(借。<ヒ खिड़की *khīrkī*)
- kisan** किसन् <名>夫。(借。<ヒ किसान *kisān*)
- kisana** किसणं <名>富んだ。<名>金持ち。
- kisim** किसिम् <名>種類。(借。<ヒ किस्म *qism* <ア>)
- kiis** कीस् <動>怒る。憤る。【経験者目的語をとる】
- kita** कित <名>椰子の木。
- kitab** कितब् <名>本。書物。(借。<ヒ किताब *kitāb* <ア>)
- kiti** किति <名>耕作。農業。(借。<ヒ खेती *khetī*)
- kiṭil** किटिल् <動> (突然の音やできごとで) ドキッとして驚く。
- kiwa** किव <名>顎。
- ko** -को <接辞>三人称複数接辞。
- ko'** को: <名>白鷺。
- koasi** कौअंसि <名>霧。霞。朝もや。<動>霧がでる。
- kobo'** कोबो: <動> (軽く会釈をするように) 首をまげる。首を曲げて、見下ろす。
- koca** कोच <名>隅。<動>隅に置く。
- koce** कोचे <動>曲がる。
- kode** कोदे <名>シコクビエ。
- koe** कौएँ <名>乞食。<動>乞食をする。
- koko'** कोको: <名> (ホッケーのスティックのように) 先がまがった棒。
- kokor** कोकोर् <名>ふくろう。
- kokoreco'** कोकोरेचो: <名>コケコッコー。
- kolom** कोलोम् <名>脱穀場。
- kona** कोन <名>角。(借。<ヒ कोना *konā*)
- koneya** कोनेय <名>花嫁。(借。<ヒ कन्या *kanyā*)
- konḍe'** कौंडे: <名>鉈 (なた)。
- konka** कौक <名>馬鹿。おろか。
- kopa** कोप <動>手でふき取る。
- koṛa** कोड़ <名>少年。男。
- koṛa hon** कोड़ होन् <複合語>息子。
- koṛam** कोड़म् <動> (鋤など、棒状のものをもって) たたく。
- kosa'** कोस: <疑>どちら。どっち。
- kota'** कोत: <疑>どこに。
- koto** कोतो <名>枝。
- koṭa** कोट <動> (身体や頭についたゴミなどを) ふりはらう。
- koṭasi** कोटसि <名>金槌。ハンマー。槌。
- koṭe'** कोटे: <動> (ハンマーや石で) たたく。
- koṭoṇ** कोटोड़ <動>行き手を妨げる。
- koyo'** कोयो: <動>のぞき見て、しらべる。
- ku'** कु: <動>咳をする。<名>咳。
- kua** कुआँ <名>井戸。(借。<ヒ कुआँ *kuā*)
- kuba** कुब <動>腰が曲がる。<名>腰が曲がった状態。<形>腰の曲がった。
- kuca** कुच <動> (ひもや綱を) 巻く。
- kuca** -कुच <動詞強調辞>多いにする。
- kucuṇ** कुचुड़ <動>膝を曲げる。
- kud** कुद् <動>背負う。
- kuda** कुद <名>ブラックベリー
- kudlam** कुद्लम् <名>鋤。
- kuila** कुइल <名>石炭。(借。<ヒ कोयला *koylā*)
- kuku** कुकु <名>祖々父母 (親族名称。呼びかけ形式) 《指示形式》 *guṅgu*
- kul** कुल् <動>送る。
- kula** कुल <名>虎。<動>人間が虎になる。
- kulae** कुलए <名>ウサギ。
- kulgiya** कुल्लिय <名>夫婦。
- kuli** कुलि <動>問う。
- kumbuṛu** कुम्ब(उ)ड़ु <名>泥棒。<動>盗む。
- kumu** कुमु <名・動>夢 (を見る)。
- ku<nu>li** कुनुलि <名>質問。《基底形》 *kuli*
- kuṇḍam** कुंडम् <名>裏庭。
- kuṇṭa** कुंट <名>柱。(借。<ヒ खँटा *khūṭā*)
- kupul** कुपुल् <名>客。親戚。<動>客となる。
- kurkur** कुर्कूर् <動>激怒する。【経験者目的語をとる】

kursi कुर्सि <名>椅子。(借。<ヒ *kursī* <ア)>
kuṛam कुडम् <名>胸。
kuṛi कुड़ि <名>女。少女。
kuri hon हुड़ि होन् <複合語>娘。

kuṛil कुड़िल् <動>跳ねる。跳躍する。
kuṛkaṭi कुट्टकटि <名>クトッカティ制度。(ムンダ人の土地保有制度)
kuṛu कुट्ट <形>けちな。<名>けち。

L

laa' ला: <動>越える。越す。
laco लचो <名>唇。
lad लद् <名>チャパティ、ナンなどパン類。
ladi लदि <動>(荷台などに)物を載せる。
laga लग <動>疲れる。【経験者目的語をとる】
lagatiñ लगतिङ् <複合動詞>しなければなら
ない。
lai' लइ: <名>胃。腹。<動>妊娠する。
lambu' लम्बु: <動>曇る。日差しが雲にさ
ぎられる。
landa लँद <動>笑う。<名>笑い。
landa jagar लँद जग् <複合語>冗談。
lanḍi लँडि <名>尻。
lanḍia लँडिअ <動>怠ける。(なにも仕事をし
たくないで)怠けたい気分である。【経験者目
的語をとる】
laṅ(a)ra लँगड़ <名>足が悪い人。
larai लइइ <名>争い。戦い。<動>争いをす
る。(借。<ヒ *larāi* <ア)>
lata लत <名>洞窟。洞穴。
latar लतर <名>下。
latar-re लतर-रे <副>下に。
latum लटुम् <動>口の中に入れる。
laṭab लटब् <名>はさみ。<動>はさみで切
る。
laṭum लटुम् <動>(衣服などを)たたむ。
le' ले: <名>舌。
lean लेअङ् <動>(水や固形物が水や液体に)
溶ける。
lebe' लेबे: <形>やわらかい。<動>やわらか
くなる。
leka लेक <動>試す。試験する。数える。<
副>程。位。約。

lel लेल् <動>見る。見張る。
lelo' लेलो: <動・受動>見える。《基底形》*lel*
len लेन् <動>油を絞り出す。
leṅḍad लेंडद् <名>ミミズ。
leṅga लेंग <名>左。
le<p>el लेपेल् <動・相互>知り合う。《基底
形》*lel*
lepo लेपो <名>しわ。<動>しわになる。
leser लेसेर् <形>(ナイフなどの刃が)鋭い。
よく切れる。
lete लेटे <名>肉や野菜を入れた粥。
lija' लिज: <名>布地。服。
lin लिन् <動>(全部の指で、果物などが熟し
ているかどうか調べるために)押す。(ニキビ
を)絞り出す。
liṅgi लिंगि <動>(水などが)流れる。
liru लिडु <動>曲がる。曲げる。
liṭa लिट <名>末っ子。
loo लोओ <動>燃える。燃やす。焼く。
lo' लो: <後>と一緒に。
loe' लोए: <名>陰茎。
lobo' लोबो: <形>(濁り酒などの濃度が)濃
い。
lolo लोलो <動>熱い。熱する。【経験者目的
語をとる】
lolo da' लोलो द: <複合語>湯。
losod लोसोद् <名>泥。<動>(服などに)泥
がつく。
loṭa लोट <名>水瓶。
loṭoe' लोटोए: <名・動>捻挫(する)。
loyoñ लोयोङ् <名>水田。
luu लू <動>(ご飯を)よそう。

luṅḍa लुंड <動>雑巾掛けをする。<名>雑巾掛け。

luṅḍi' लुंडि: <名>柄杓。

lum लुम् <動>濡れる。濡らす。

lumam लुमम् <名>蚕。

lupu' लुपु: <名>糠(ぬか)。

lutur लुतुर् <名>耳。

M

maa मा <名>去年。

ma' म: <名>(木を斧で)切る。

mad मद् <名>竹。

mad ḍaṅḍa' मद् ङंड: <複合語>竹竿。

madukam मदुकम् <名>マファの木。

mage मगे <名>毎年、十二月に行われる祭り。

mai मइ <名>少女。女陰。

maja मज <形>良い。可愛い。愛らしい。正しい。

maji मजि <名>南京虫。

mamu ममु <名>母方の叔父、或は伯父。(親族名称。指示形式、呼びかけ形式の両方)

mana मन <動>禁ずる。(借。<ヒ मना manā <ア>)

manatiṅ मनतिङ् <動>従う。遵守する。尊敬する。(借。<ヒ मन्ता mānnā)

manda मंद <名・動>風邪(をひく)。

mane मने <名>意味。(借。<ヒ माने māne <ベ<ア>)

mani मनि <名>からし菜。(植物油の原料となる)

manowa मनोव <名>人間。(借。<ヒ मानव mānaw)

māñāki मणँकि <名>マンキ(村の連合体の長)。

maṅḍa मंड <名>足跡。

maṅḍi मंडि <名>ご飯。食事。<動>ご飯を炊く。

maṅḍi utu मंडि उतु <複合語>料理。

māñi te मणि ते <後置詞句>ゆっくり。

maṅgar मंगर् <名>火曜日。(借。<ヒ मंगलवार māgalwār)

mar मर् <感>どうぞ。

marci मर्चि <名>とうがらし。

marañ मरङ् <形>大きい。大きな。広い。偉い。偉大な。<動>育つ。成長する。増える。膨張する。

ma<p>arañ मपरङ् <形>とても大きな。とても偉大な。《基底形》marañ

mara' मर: <名>インドクジャク。

maṣṭar मस्टर् <名>先生。<動>先生になる。先生をする。(借。<英 master)

masakal मस्(अ)कल् <名>光。明り。光明。

mata मत <動>熟する。成長する。大人になる。

mayañ मयङ् <名>腰。

mayom मयोम् <名>血。<動>出血する。

me -मे <接辞>二人称単数接辞。

med मेद् <名>目。

med da' मेद् द: <複合語>涙。

med muṅa मेद् मुँणँ <複合語>顔。

med pipini मेद् पिपिनि <複合語>眉。眉毛。

mela मेल <名>お祭り。特に一月から二月にかけて、一年で一度だけ行われる大きな市をさす。(借。<ヒ मेला melā)

men मेन् <動>言う。

mena' मेन: <動>存在する。(物が)ある。

mena'ia मेन:इअ <動>(人が一人)居る。

mena'kina मेन:किन <動>(人が二人)居る。

mena'koa मेन:कोअ <動>(人が三人以上)居る。

mendo मेन्दो <接>しかし。けれど。

mente मेन्ते <接>だから。なので。

mened मेणँए <名>鉄。

mer मेर् <動>(ニガウリの苦さみたいに)苦さを感じる。【経験者目的語をとる】

merom मेरोम् <名>山羊。
mid / mod- / miyad- / moyod मिद्
 /मोद्/मियद्/मोयोद् <数>一つ。
mid hajar / mod hajar मिद् हजर् <数>千。
mid hisi / mod hisi मिद् हिसि <数>二十。
mid geleya / mod hisi geleya मिद् हिसि गेलेया
 <数>三十。
mimid / momod / mimiya मिमिद्/मोमोद्
 /मिमियद् <配分数詞>各々。一人づつ。
miṇḍi मिँडि <名>羊。基底形 *mid/ mod*
misa मिस <副>一度。
misa misa मिस मिस <副>時々。時折。
misi मिसि <名>姉妹。《対語》*haga* 兄弟。
miyañ मियङ् <副>明後日。
mōō मौँऔँ <動>腫れる。脹れる。<名>瘤。
 むくみ。
moca मोच <名>口。
mōē मौँऐँ <名>蕾 (つぼみ)。
moloñ मोलोङ् <名>額 (ひたい)。
momonea मोमौँणैअ <配分数詞>五つづつ。基
 底形 *mōñēa*
mon मोन् <名>心。(借。<ヒ मन *man*)

mone मोने <動>したい。欲する。欲しい。【経
 験者目的語をとる】
mōñēya / mōñē- मोणेय /मोणे- <数>五つ。
moroe' मोरोए: <形>酸っぱい。
moṭai te मोटइ ते <後置詞句>むりやり。
moṭo मोटो <形>太い。太った。(借。<ヒ मोटा
moṭā)
moṭor मोटोर् <名>自動車。車。(借。<英
motor)
muu मूँ <名>鼻。
mui' मुइ: <名>蟻。
muka मुक <名>指先から肘までの長さ。
mukuiñ मुकुइङ् <動>孤独を感じる。【経験者
 目的語をとる】
mukuñi मुकुँणिं <名>膝。
muli मुलि <名>方向。道。
muli te मुलि ते <後置詞句>経て。通って。
mulu' मुलु: <名>新月。
mundam मुन्दम् <名>指輪。
muṇḍa मुँड <名>村長。ムンダ人。ムンダ語。
musiñ मुसिङ् <副詞>一日。先日。
murai मुइ <名>大根。(借。<サ मुराई *murāi*
)

N

naa' ना: <名>今。
naeke नएके <副>後で。後に。
nagera नगेर <名>太鼓。一面だけ皮が張って
 あり、二本のばちで叩く。
nai' नइ: <代>この人。
najom नजोम् <名>魔女。
naki' नकि: <名>櫛。<動>櫛で髪をとかす。
nakin नकिङ् <代>この人達 (双数)。
naku नकु <代>この人達 (複数)。
nala नल <名>賃金労働。
nam नम् <動>獲得する。手に入れる。入手
 する。見つける。見出す。受け取る。得る。探
 す。求める。

na<p>am नपम् <動・相互>訪ねる。訪問す
 る。会う。出会う。合う。《基底形》*nam*
nambar नम्बर् <名>番号。(借。<英 number
)
namin नमिन् <代>こんなに。
namtañ नम्तङ् <代>この時。この時間。
nana नन <形>痩せた。
nana नन <名>祖父。(親族名称。指示形式と
 呼びかけ形式の両方)
nani ननि <名>祖母。(親族名称。指示形式と
 呼びかけ形式の両方)
nañe' नँणै: <形>近い。近く。
nāñi नँणिं <名>蔓 (つた)。

napa नप <名。動>得(する)。(借。<ヒ napa naphā <ア>
nasib नसिब् <名>運命。運。宿命。(借。<ヒ नसीब nasīb <ア>
nata नत <名>親戚。親類関係。
naten / nanġen नतेन् / नङ्गेन् <助>為に。
nawa नव <形>新しい。(借。<ヒ नया nayā)
nayal नयल् <名>鋤。
ne ने <代>この。
ne' ने: <感>ほら、これ。
neate ने-अते <代。これから>。
neg नेग् <名>行事。祭り。祭日。
neka ने-क <代>こんな。このような。
nerē ने-रे <代>ここに。
nesa' ने-स: <代>こっち。
nesagate ने-सग्-अते <代>こちちから。
nesa're ने-स:-रे <代>こちちに。
nesa'te ने-स:-ते <代>こちちへ。
neskan नेस्कन् <副>こんど
neta' ने-त: <代>ここ。
netagate ने-तग्-अते <代>ここから。
neta're ने-त:-रे <代>ここで。
neta'te ने-त:-ते <代>ここへ。
nete ने-ते <代>こちちへ。
neya ने-य <代>これ。(近称)
ni' नि: <動>開ける。開く。
ni' नि: <代>この人。

nikin नि-किन् <代>この人達(双数)。
niku नि-कु <代>この人達(複数)。
nida निद <名>晩。夜。<動>夜になる。暗くなる。
nida singi निद-सिंगि <複合語>昼夜。一日中。
nil निल् <形>青い。(借。<ヒ नील nīl)
nimin निमिन् <代>こんな。
nimir निमिर् <副>最近。
nimir gapa निमिर्-गप <複合語>今頃。近頃。
nimtan निम्तङ् <代>この時。
nindirām निंदिराम् <名>蜘蛛。
nir निर् <動>走る。逃げる。逃げ出す。
niyam नियम् <名>規律。(借。<ヒ नियम niyam)
no' -नो: <動詞強調辞>少しする。
nokri नोक्रि <名・動>就職(する)。(借。<ヒ नौकरी naukrī <ベ>
nolad नोलद् <名>煤(すす)。
norom नोरोम् <形>柔らかい。ソフトな。(借。<ヒ नरम naram)
nū नूं <動>飲む。
nunu नुनु <名>乳房。<動>乳を与える。乳を飲む。《基底形》 nuu
nuba' नुब: <名>闇。暗闇。<動>日が暮れる。
nutum नुतुम् <名>姓名。名前。名称。<形>有名な。名高い。

O

o -ओ <接辞>も。
o' -ओ: <接辞>動詞に付いて受身動詞語幹を形成する。
oar ओअर् <動>掬う。
obor ओबोर् <動>うつ伏せになる。うつ伏せに寝かせる。《類語》 sambir 仰向けになる。
oco ओचो <感>逃げろ。離れろ。
oco' ओचो: <動>脱ぐ。脱げる。外す。
od ओद् <動>(汚れを落とすために、布や手

で肌を)こする。
oko ओको <代>どの。
okoa ओकोअ <代>どれ。
okoe ओकोए <代>誰。
ol ओल् <動>書く。
ol parao ओल्-पड़ओ <複合語>勉強。学習。
om ओम् <動>与える。手渡す。預ける。捧げる。あげる。
omba' ओम्ब: <動>(赤ちゃんが)ハイハイ

する。

omon ओमोन् <動> (芽を) 出す。(歯が) 生える。(カビが) 生える。(茸や竹の子が) 生える。

oṇdoka औंडोक <名> (人を食べると考えられている) 人さらい。<動> 人さらいにあう。

oṇdor औंडोर् <動> 焚く。火にくべる。火葬にする。

opota ओपोत <動・相互> 取っ組み合う。相撲を取る。《基底形》 *ota*

or ओर् <動> 力を込めてひっぱる。引きずる。

oron ओरोइ <動> 笛を吹く。

ora' ओड़: <名> 家。住居。

oro' ओड़ो: <接> 更に。そうして。及び。

ota ओत <動> 抑える。揉む。

ote ओते <名> 土地。陸。地面。

ote disum ओते-दिसुम् <複合語> 地球。世界。

ote ekela ओते एकेल <複合語> 地震。

oton ओतोइ <動> 追う。追い掛ける。

otaṇ ओटइ <動> (塵などが) まい上がる。飛ぶ。(風になびいて) ヒラヒラする。

ota' ओट: <動> (ものを隠していた幕などが) めくられる。

oyar ओयर् <動> 泳ぐ。

oyon ओयोइ <動> 煮る。茹る。

on ओइ <動> (息を) 吹く。

P

paciri पचिरि <名> 垣根。塀。壁。

pada पद <動> 蹴る。蹴飛ばす。

pagu पगु <名> (二月から三月の満月に行われる) 狩猟祭り。(借。<ヒ *phāg*)

paisa पएस <名> パイサ。貨幣。現金。(借。<ヒ *paisā*)

paiki पइकि <名> (結婚式の際、行われる) パイキ踊り。

paṭan पल्टन् <名> 軍人。兵士。(借。<ヒ *paltan* <英 *platoon*)

pampalad पंपलद् <名> チョウチョウ。

pāna पाँण <名> (宗教儀礼を司る) 村の長。

paṇḍu पँडु <名> 白髪。

paṇḍu biṇ पँडु बिइ <複合語> コブラ。

paṅka पँक <名> 扇。団扇。(借。<ヒ *pākha*)

parci पर्चि <名・動> 清掃 (する)。

parda पर्द <名> 幕。(借。<ヒ *pardā* <ペ>)

parkom पर्कोम् <名> 寝台。ベッド。

parom परोम् <動> 越える。越す。横切る。通る。渡る。

parao पड़ओ <動> 読む。学ぶ。習う。勉強する。(借。<ヒ *parhnā*)

para' पड़: <動> (木を) 割る。

pase पसे <名> 罨。<動> 罨にかかる。

pasir पसिर् <動> (植物に) 水をやる。

paṭao पटओ <動> (水を) 撒く。(借。<ヒ *paṭāna*)

paṭi पटि <名> ござ。(借。<サ *paṭī*)

pe -पे <接辞> 二人称複数接辞。

pen पेन् <名> ペン。(借。<英 *pen*)

peṇae पेंणै <名> 機織カースト。

peṇṭe पेंटे <名> ズボン。(借。<英 *pants*)

pere' पेरे: <動> 満たす。満ちる。

perē' पेड़े: <形> 強い。<名> 強さ。丈夫。力。

pica' पिच: <動> (親指と人差し指で) つまむ。

pili' पिलि: 光が反射する。

pipini पिप्(इ)नि <名> 睫。瞼。

piri पिड़ि <名> 野。野原。

piṛisa' पिड़िस: <名> 大便。<動> 大便する。

piṭi पिटि <名> 市場。市。

poa' पोअ: <動> (ガラスなどが) 割れる。(卵を) 割る。

poari पोअड़ि <名> 悪い行い。

poe' पोए: <動> (口を) すすぐ。

poga पोग <名> 木に生える茸類。《類語》 *ud* 地面からはえる茸類。

- porob** पोरोब् <名>祭り。(借。<ヒ parv))
poṭo पोटो <名>写真。カメラ。絵画。(借。<英 photo)
poṭom पोटोम् <動>包む。<名>稲俵
pucu' पुचु: <動>(窓などから)差し出す。
pul पुल <名>橋。(借。<ヒ pul)
pundi पुँडि <形>白い。<名>白。<動>白くなる。白くする。
pura पुर <動>仕上げる。完成する。(借。<ヒ पुराना purānā)
pura' पुर: <形>十分な。余分な。
purna पुर्न <形>古い。(借。<ヒ पुराण purāṇ)

R

- ra'** र: <動>叫ぶ。泣く。呼ぶ。鳴く。啼く。
rabal रबल् <動>簡単である。軽く感じる。【経験者目的語をとる】<名>軽快。容易。
raban रबड़ <動>寒い。冷たい。【経験者目的語をとる】
raban din रबड़ दिन् <複合語>冬。
raca रच <名>庭。前庭。
raca' रच: <動>引く。引っ張る。
raja रज <名>君主。王。皇帝。(借。<ヒ राजा rājā)
raji रजि <動>和解する。(借。<ヒ राजी rājī <ア>
rakab रकब् <動>登る。昇る。上がる。
ram रम् <動>塩辛い。【経験者目的語をとる】
ranakab रनकब् <名>坂。《基底形》रकब्
rani रनि <名>女王。(借。<ヒ rānī)
ranu रनु <名>葉。酒を発酵させる麴。
raṅga रँग <動>染める。(借。<ヒ रँग rāṅ)
rapa' रप: <動>(肉などを葉にくるんで、たき火のなかで)蒸し焼きにする。
rapud रपुद् <動>割れる。割る。
raṛa रड़ <動>解放する。(ひもの結びなどを)外す。
raṛe' रड़े: <動>冷える。冷たくなる。
- puru'** पुडु: <名>葉で作った皿。
pusi पुसि <名>猫。
pusi' पुसि: <動>(果実などが熟したために)中身がでる。
pusuri पुसुरि <名>ニキビ。おでき。
putam पुतम् <名>野鳩。
puṭi' पुटि: <動>(水が)湧き出る。<名>泉。
puturud पुत्(उ)रुद् <名>泡。
purṇima पुर्णिम <名>満月。(借。<ヒ पूर्णिमा pūrṇimā)
- rasi/ rase** रसि/रसे <名>スープ。(借。<ヒ rās)
rasika रसिक <動>喜ぶ。嬉しい。面白い。楽しい。【経験者目的語をとる】
ratan रतड़ <名>雪。霜。氷。
re रे <後置詞>で。
re' रे: <名・動>強奪(する)。
rebed रेबेद् <動>(歯などに、ものが)挟まる。
red रेद् <名>(植物の)根。
redo रेदो <接>もし... ならば。
reneke' रेनेके: <名>足首。
reṅge' रेंगे: <動>飢える。腹が減る。【経験者目的語をとる】<名>貧乏。空腹。
reṛa रेड़ <動>水浴びする。
reyo रेयो <接>... でも。
rid रिद् <動>(石臼で)挽く。
rika रिक <動>する。為す。せる。させる。
rikub रिकुब् <動>(口を)つぐむ。
rimbil रिम्बिल् <名>雲。<動>くもる。
rimbil saṛi रिम्बिल् सड़ि <複合語>雷。
riṛin रिड़िद् <動>忘れる。
risa रिस <形>アフロヘアの。
ro' रो: <動>彫る。

roa रोअ <動>植える。
rogo रोगो <名>病気。伝染病。持病。(借。<ヒ rog)
roka रोक <形>新鮮な。突然な。
roko रोको <名>蠅。
rongo रोंगो <動>焦がす。焦げる。<名>(米などの)お焦げ。
roꞤo रोꞤो <動>乾く。乾燥する。乾いた。干す。
ruu रू <動>(太鼓を)たたく。
rua रुअ <名>(病気の)熱。<動>病気になる。

る。【経験者目的語をとる】
ruka रुक <名>鑿(のみ)。
ruku रुकु <動>(木を)揺する。
rum रुम् <動>(シャーマンが)トランスする。
rupa रुप <名>銀。(借。<ヒ रूपा rūpā)
rura रुड़ <動>帰る。戻る。戻す。
ruru रुदु <動>休む。
ruruñ रुदुङ् <動>米の脱穀をする。<名>脱穀。
rutu रतु <名>横笛。

S

sa' सः <後>…方。
sa' re सः रे <後>側に。
sa' te सः ते <後>方へ。
saan सान् <名>薪。
sab सब् <動>掴む。捕まえる。
saba' सबः <動>味の無い。【経験者目的語をとる】
sabon सबोन् <名>石鹸。(借。<ヒ साबुन sābun <ア)</p>
</div>

salai सलइ <名>マッチ。(借。<ヒ सलाई salāī)
sam सम् <助>全部。
sama सम <形>空の。なにもしない。
samaꞤom समꞤोम् <名>宝物。宝石。
samaj समज् <名>社会。(借。<ヒ समाज samāj)
saman समन् <名>道具。荷物。(借。<ヒ समान samān)
samae समए <名>時期。時。(借。<ヒ समय samay)
samꞤoꞤo सम्ꞤोꞤो <動>用意する。
samundar समुन्दर् <名>海。(借。<ヒ समुद्र samdra)
sanamañ सनमङ् <名>前。
sanañ सनङ् <動>願う。【経験者目的語をとる】
sanicar सनिच् <名>土曜日。(借。<ヒ सनीचर sanīcar)
santaꞤa संतइ <名>サンタル人。
sante -संते <後>…まで。
sañḍi संडि <名>雄。
sañḍi sim संडि सिम् <複合語>雄鶏。
sapa सप <名>清潔。(借。<ヒ सफा saphā <ア)</p>
</div>

sar सर् <名>矢。

- sara** सर <名>肥料。
- sare'** सरे: <動>余る。残る。
- sarjom** सर्जोम् <名>サラソウジュ。
- sarna** सर्न <名>聖なる林。
- sarsar** सर्सर् <名>爪。
- sarte** सर्ते <名>事実。真理。真実。本当。
- sarte ge** सर्ते गे <副>本当に。
- saru** सरु <名>タロイモ。
- sari** सड़ि <名>音。<動>弾く。(笛を)吹く。
(太鼓を)叩く。
- sarima** सड़िम <名>屋根。
- sasan** ससन् <名>墓。墓地。
- sasañ** ससङ् <名>黄色。うこん(ターメリック)。
- saatiñ** सातिङ् <動>耐える。(借。<ヒ सहसना sahasnā)
- satom** सतोम् <名>再来年。
- sayad** सयद् <動>呼吸する。息をする。<名>呼吸。息。
- sayob** सयोब् <名>欧米人。偉い人。(借。<ヒ साहब sāhab)
- sekerā** सेकेड़ <形>急ぐ。早い。速い。
- seled** सेलेद् <動>混ぜる。
- sen** सेन् <動>動く。歩く。
- seno'** सेनो: <動>去る。立ち去る。行く。
- sendera** सेन्देर <名>獵。<動>獵をする。
- seña** सेणं <形>優秀な。優れた。賢い。<名>利巧。才能。
- señgel** सेँगेल् <名>火。
- seren** सेरेङ् <名>岩。
- sesen** सेसेन् <動>進む。前進する。動かす。<基底形> sen
- seta** सेत <名>犬。
- seta'** सेत: <名>午前。朝。
- sewa** सेव <動>仕える。(借。<ヒ सेवा sewā)
- sii** सी <動>犁耕する。<動>犁耕。
- sia** सिअ <名>陰毛。
- sib** सिब् <動>(タバコを)吸う。
- sibil** सिबिल् <動>美味しい。味わう。【経験者目的語をとる】
- sid** सिद् <動>(草花を)摘む。
- sida** सिद <名>第一。最初。
- sida re** सिद रे <副>以前。前に。
- sikiñi** सिक्किणिं <名>蚊。
- siku** सिकु <名>虱(のみ)。
- silib** सिलिब् <名>鹿。
- sim** सिम् <名>鶏。
- siman** सिमन् <名>境。境界。(借。<ヒ सीमा sīmā)
- sinima** सिनिम <名>映画。(借。<ヒ सिनेमा sinemā <英 cinema)
- sinduri** सिंदुरि <名>朱。朱色。朱の染料。(借。<ヒ सिन्दूर sindūr)
- siñgi** सिंגי <名>太陽。昼。日。
- siñgi ñumbui' sa'** सिंגי ङुंबुइ: स: <複合語>西。
- siñgi turu' sa'** सिंגי तुरु: स: <複合語>東。
- siñi** सिणि <形>(肉が腐ったような)臭みのある。<動>腐った匂いがする。
- sipai** सिपइ <名>警官。巡查。(借。<ヒ सिपाही sipāhī)
- sipud** सिपुद् <動>(小麦粉などを)こねる。
- sirma** सिर्म <名>空。天国。年。
- siři** सिड़ि <名>階段。(借。<ヒ सीढ़ी sīrhī)
- sisir** सिसिर् <名>露。<動>露が落ちる。
- situñ** सितुङ् <名>強い日差し。日射。
- siu'** सिउ: <動>耕す。
- siu' calu'** सिउ:-चलु: <複合語>農業。。
- soab** सोअब् <動>(無理やり)押し込む。
- soan** सोअन् <名>匂い。香り。<動>匂う。臭う。【経験者目的語をとる】
- soben** सोबेन् <名>皆。全部。
- sobenate** सोबेनते <複合語>一番。最も。
- sobod** सोबोद् <動>ゴシゴシと洗う。
- sobo'** सोबो: <動>刺す。突き刺す。
- soje** सोजे <副>真っ直ぐ。

somar / sombar सोमर्/सोम्बर् <名>月曜日。(借。<ヒ सोमवार *somvār*)
sona सोन <名>金。(借。<ヒ सोना *sonā*)
sono' सोनो: <名>シャツ。
sondro सॉद्रो <名>膿。
songe सॉगे <名>友達。
soñjoko सॉजोको <名>偶然。(借)<ヒ संयोग *saṃyog*)
soorae सोओरए <名>十月に行われる祭り。
soso सोसो <名>ピラフ。(この木の葉が儀礼の時に使われる)
sonsorod सॉसोरोद् <名>バッタ。
soto' सोतो: <動>並べる。整列させる。
soya सोय <動>腐る。<形>腐った。
su' सु: <動>(手を隙間などに)突っ込む。
suba सुब <名>木陰。
sugara सुग्(अ)इ <形>美しい。綺麗な。
sui सुइ <名>針。(借。<ヒ सूई *sūi*)
sukrar सुक्रर् <名>金曜日。(借。<ヒ सुकरवार *sukravār*)

suku सुकु <動>快い。好き。好む。好く。【経験者目的語をとる】
sukul सुकुल् <動>くすぶる。煙りたい。【経験者目的語をとる】<名>煙。
sukuri सुकुरि <名>豚。
sului' / suli' सुलुइ:/सुलि: <名>鼻水。鼻汁。<動>鼻水が出る。
sunum सुनुम् <名>油。
suñkud सुङ्कुद् <動>匂いをかぐ。
supid सुपिद् <名>髪結び。<動>髪を結う。
supu सुपु <名>腕。
sur सुर् <動>水が鼻に入る。
suru सुरु <動>雨宿りをする。<名>雨宿り。
susun सुसुन् <名>踊り。ダンス。<動>踊る。
susun-durañ सुसुन् दुरइ <複合語>舞踊。
sutam सुतम् <名>糸。
suti सुति <動>しらふになる。
suti सुटि <名>貝。二枚貝。
suti' सुटि: <動>(手や棒で)突っ込む。

T

ta' -त: <後>ところに。
ta're mena' त:-रे मेन: <動>持つ。
tab -तब् <動詞強調辞>早く…する。
taba' तब: <動>こける。つまづく。
taben तबेन् <名>焼米。
tabri तब्ड़ि <動>平手で叩く。
tagoe' तगोए: <動>咀嚼する。噛む。。嚼む。
tai तइ <動>住む。
tain तइन् <動>留まる。滞在する。
takiya तकिय <名>枕。(借。<ヒ तकिया *takiyā*)
tala तल <名>間。
tala तल <名>錠。(借。<ヒ ताला *tālā*)
tala gāda तल-गन्द <複合語>中指。
tala nida तल-निद <複合語>真夜中。
tala re तल-रे <後置詞句>中心に。
talka तल्क <名>掌(てのひら)。

tam तम् <動>打つ。
tamaku तमकु <名>タバコ。(借。<ヒ तमबाकु *tambākū* <べ>)
ta<na>goe' तनगोए: <名>白歯。《基底形》
tagoeh
tani तनि <名>狼。
tañgi तँगि <動>待つ。
tapa' तप: <動>(土と泥で)壁を作る。
tara तर <形>半分。
tara mara तर-मर <形>大抵。
taran तरन् <名>肩。
tarika तरिक <名>仕方。方法。(借。<ヒ तरीका *tariqā*)
taṛa -तड़ <動詞強調辞>先に…する。
tari तड़ि <名>(食事をよそう)盆。(借。<ヒ थाली *thālī*)
tasad तसद् <名>草。<動>草が生える。

tase / tasi तसे/तसि <動>日に干す。
tata तत <名>祖父。(親族名称。指示形式)
tatai ततइ <動>体がだるい。肩が凝る。【経験者目的語をとる】
tayan तयन् <名>鰐。
tayar तयर् <名>キュウリ。
tayom तयोम् <名>後。次。
tayom te तयोम्-ते <後置詞句>以後。後で。
te -ते <後>で。よって。へ。
teba' तेब: <動>達する。行き着く。到達する。着く。到着する。追いつく。届ける。
tega तेग <動>踏む。
tela तेल <動>手で受け取る。
ten तेन् <動>蓋をする。(車などの)下敷きになる。
teneba' तेनेब: <名>到着。
tenda' तेंड: <名>米の炊き汁。(料理に使用)
ten तेइ <動>織る。
teped तेपेद् <動>鼻がつまる。
ter तेर् <動>目標めがけて投げる。
ter तेर् <感>持ってけ。
teta तेत <形>澄んでいる(水)。
tetan तेतइ <動>渴く。【経験者目的語をとる】
tete' तेते: <名>月の光。
tii ती <名>手。
tiju तिजु <名>毛虫。虫。
tiki तिकि <動>煮る。
tikin तिकिन् <名>午後。正午。昼間。
tiñ तिइ <動>火をつける。
tiñgu तिंぐ <動>止まる。止める。立ち上がる。立つ。
tiriñ तिरिइ <動>積む。

tiril तिरिल् <名>黒檀。
tirub तिरुब् <動>頭を下げる。
tisiñ तिसिइ <名>今日。
tisiñ nida तिसिइ निद <複合語>今夜。
tisiñ seta' तिसिइ सेत: <複合語>今朝。
toa तोअ <名>乳。乳房。牛乳。
tobe तोबे <感>じゃあ。
tol तोल् <動>結ぶ。縛る。
topa तोप <動>葬る。埋める。
topa gara तोप गड़ <複合語>墓。
toroe' तोरोए: <名>灰。
torsa -तोर्स <動詞強調辞>一緒に…する。
tubid तुबिद् <動>(口などに無理やり)押し込む。
tud तुद् <動>根っこから引き抜く。
tudka तुद्क <名>うなじ。
tuguri तुगुड़ि <動>ぶつかる。衝突する。
tuka तुक <名>巢。
tuka -तुक <動詞強調辞>…して帰る。
tukui' तुकुइ: <動>裁縫(する)。縫う。
tul तुल् <動>(手で)持ち上げる。
tula तुल् <名>秤。(借。<ヒ तुला *tulā*)
tupu तुपु <動>浸す。
tur तुर् <動>(太陽や月が)昇る。
turuiya / turi- तुरुइय / तुरि- <動>六つ。
turu तुडु <名>りす。
tusiñ तुसिइ <動>(服を)着る。(帽子を)被る。(靴を)履く。
tutukun तुतुकुन् <動>涼しい。冷たい。【経験者目的語をとる】
tuyu तुयु <名>狐。

T

ṭaka टक <名>ルピー [貨幣単位]。金。金銭。(借。<ベ ṭākā)
ṭapu टपु <名>島。(借。<ヒ टापू *ṭāpū*)
ṭayad टयद् <名>位置。場所。

ṭembe' टेंबे: <形>(水深が)浅い。《反意語》
ikir (水深が)深い。
ṭēñēñ टेंणेंइ <名>臍(すね)。
ṭeo टेओ <動>炒める。

teteŋga टेँँग <名> 蜥蜴 (とかげ)。
tipa' टिपः <動> したたる。漏れる。漏る。<名> 滴。
tipi टिपि <名> (チューブなどの) 蓋。<動> 蓋をする。(借。<ヒ topī)

tipiyul टिपियुल् <動> 漂う。浮く。浮かぶ。
to' टोः <動> (標的などに) 当たる。ぶつかる。(葉が) きく。(毒に) あたる。

toaŋ टोअङ् <名> 裸。<動> 裸にする。
tōē टोंँ <動> (まっぴたつに) 折る。折れる。
toŋe टोटे <動> (弓を) 射る。(鉄砲を) 撃つ。
toŋona टोटोण <名> 喉 (のど)。
tor टोर् <動> 覚える。覚えている。
tundu टुँडु <名> 終わり。端。末端。末。<動> 終わる。死ぬ。
tundu re टुँडु-रे <副> とうとう。

U

ub उब् <名> 毛。髪。体毛。
ucud उचुद् <名> 瘤 (こぶ)。
ud उद् <名> (地面から生える) 茸。
ud उद् <動> 呑み込む。
udub उदुब् <動> 知らせる。表わす。
udur उदुर् <動> 押す。
ugur उगुर् <動> もぐり込んで隠れる。
uka उक् <名> 肘。
uku उकु <動> 隠す。隠れる。
ukta उक्त <名> 批判。陰口。<動> 陰口を言う。
ulŋa उल् <名> 裏。逆。(借。<ヒ उलटा ulŋā)

ula उल <動> 吐く。
uli उलि <名> マンゴー。
uli da' उलि दः <複合語> 唾。
umar उमर् <名> 年。年齢。(借。<ヒ उमर umar <ア>)

umbul उम्बुल् <名> 陰。影。
undu उँडु <名> 穴。<動> 穴をあける。
uŋgud उँगुद् <動> 前屈みになる。前屈みにする。<名> 前屈み。
upae उपाए <名> 工夫。手段。(借。<ヒ उपाय upāy)

upuniya /upun- उपुनिय /उपुन्- <数> 四つ。
upun hisi उपुन् हिसि <数> 八十。
upun hisi geleya उपुन् हिसि गेलेय <数> 九十。

upupunia उपुपुन्-इअ <配分数詞> よつつずつ。
ur उर् <動> 掘る。
ūr उउर् <名> 皮膚。皮。肌。毛皮。
urgum उर्गुम् <動> 暖める。暖かい。【経験者 目的語をとる】
uri उरि <動> (果実などの) 皮をむく。
uri' उरिः <名> 牛。
uru उरु <名> カブトムシ。
urum उरुम् <複合動詞> わかる。認識する。
ururu उरुडु <動> (髪が) 抜ける。(葉が) 落ちる。
uru' उरुः <動> 思う。考える。決める。感ずる。困る。
uruŋ उरुङ् <動> 出す。出る。出発する。抜く。引き抜く。
usu' उसुः <動> 痩せる。
usur उसुर् <動> (傷が) しみる。
usura उसुर <動> 移す。(借。<ヒ उसरना usarnā)

utar -उत् <動詞強調辞> …してしまう。
utu उतु <名> おかず。<動> おかずを作る
utukud उतुकुद् (目を手の甲で) こする。
uyu' उयुः <動> 落とす。落ちる。落下する。倒す。倒れる。
uyu उयु <動> (ふとんなどを) 掛ける。(シヨールなどを) 被る。

2 日本語＝ムンダ語語彙集

あ

愛(する) <i>dulara</i>	あそこから <i>han-ate</i>
相性が合う <i>juṛi</i>	あそこで <i>han-ta'</i>
合図(する) <i>gaui'</i>	あそこに <i>han-re</i>
間 <i>tala</i>	あそこへ <i>han-te</i>
会う <i>na<pa>m</i> 《基底形》 <i>nam</i>	遊び <i>inuṇi</i>
青い <i>nil</i> (借<ヒ नील <i>nīl</i>)	与える <i>om</i>
仰向けになる <i>sambir</i>	暖かい <i>urgum</i>
アカアリ <i>hau</i>	暖める <i>lolo, urgum</i>
赤い <i>ara'</i>	頭 <i>boo'</i>
赤ちゃんがハイハイする <i>omba'</i>	頭に乘せて運ぶ <i>dupil</i>
上がる <i>rakab</i>	頭を下げる <i>tirub</i>
明るい <i>masakal</i>	新しい <i>nava</i> (借<ヒ नया <i>nayā</i>)
飽きる <i>asadi</i>	当たる <i>too'</i>
開く <i>ni'</i>	厚い <i>ibil</i>
欠伸(する) <i>caab, aṅgob</i>	熱い <i>lolo</i>
開ける <i>ni'</i>	あっち行け <i>juu</i>
あげる <i>om</i>	集まる <i>jama</i>
顎(あご) <i>kiwa</i>	集める <i>hunḍi</i>
朝 <i>seta'</i>	後で <i>naeke</i>
浅い <i>tembe'</i>	穴 <i>unḍu</i>
足 <i>kaṭa</i>	あなた <i>am</i>
味 <i>sibil</i>	あなたたち <i>aben, ape</i> (双数、複数)
足跡(あしあと) <i>maṅḍa</i>	穴に手を突っ込む <i>suṭi'</i>
足が悪い人 <i>lanḡ(a)ṛa</i>	穴をあける <i>bu'</i>
足首 <i>reneke'</i>	兄 <i>dada</i> 《呼かけ形式》 <i>bau</i> 《指示形式》
味のない <i>saba'</i>	兄嫁 <i>hili</i> 《指示形式》
味見をする <i>caka</i>	姉 <i>dai</i> 《呼かけ形式》 <i>aji</i> 《指示形式》
味わう <i>sibil</i>	あの <i>han</i>
明日(あした) <i>gapa</i>	あのお <i>iya</i>
足をひっかける <i>haṛa'</i>	あの <i>hani'</i>
預かる <i>jogao</i>	あの <i>hankin, hanku</i> (双数、複数)
預ける <i>om, jogao</i>	アヒル <i>geḍe</i>
汗(をかく) <i>balbal</i>	油 <i>sunum</i>
畦道 <i>aṛi</i>	油を絞り出す <i>len</i>

あぶる <i>ata</i>	霰(あられ) <i>aril</i>
アフロヘアの <i>risa</i>	表わす <i>udub</i>
甘い <i>heřem</i>	アリ <i>mui</i> [?]
雨宿り(をす) <i>suru</i>	ありがとう <i>joar/ johar</i>
余る <i>sare</i> [?]	アリの卵 <i>daa</i>
網(あみ) <i>jalom</i>	ある(不定代名詞) <i>jaa</i>
編む(ゴザなどを) <i>galan</i>	歩く <i>sen</i>
雨 <i>da</i> [?]	主人(あるじ) <i>gomke</i>
雨(が降る) <i>gama</i>	あれ <i>hana</i>
雨が止む <i>hasuru</i>	あれえ <i>au</i>
洗う <i>capi</i> (服などを洗う) <i>abuñ</i> (顔を洗う)	泡 <i>puturud</i>
嵐 <i>hoyo gama</i>	淡い <i>etan</i>
争い(をす) <i>larai</i> (借<ヒ <i>लड़ाई larāī</i>)	

い

言う <i>kaji, jagar, men</i> (<i>kaji</i> は「(一方的に) 言う」 <i>jagar</i> は「話し合う」 <i>men</i> は「~という」の違 い)	炒める <i>teo</i>
家 <i>ořa</i> [?]	1 <i>mid / mod- / miyad- / moyod</i>
息(をす) <i>sayad</i>	一度 <i>misa</i>
行き手を妨げる <i>kořon</i>	市場 <i>piři</i>
憤る <i>kiis</i>	一番 <i>sobenate</i>
生きる <i>jid</i>	一週間 <i>ařauri</i>
息を吹く <i>on</i>	一滴 <i>řipa</i> [?]
行く <i>sen, seno</i> [?]	五つ <i>mōñēya</i>
いくつ <i>ciminan</i>	五つづつ <i>momoņea</i>
いくら <i>cimin paisa</i>	いつでも <i>jaa imtan</i>
池 <i>banda, řoba</i>	井戸 <i>kua</i> (借<ヒ <i>कुआँ kuā</i>)
石 <i>diri</i>	糸 <i>sutam</i>
いじめる <i>sadao</i>	居ない <i>bañgai</i> [?] / <i>bañkina</i> [?] / <i>bañkoa</i> / <i>bañkua</i> (単 数、双数、複数・複数)
医者 <i>řakřar</i> (借<ヒ <i>डाक्टरी řakřar</i> <英 <i>doctor</i>)	稲光 <i>hicir</i>
椅子 <i>kursi</i> (借<ヒ <i>कुरसी kursī</i> <ア)	犬 <i>seta</i>
泉 <i>řari, puři</i> [?] <i>da</i> [?]	稲 <i>baba</i>
急ぐ <i>sekeřa</i>	命 <i>jid, jinid</i>
板 <i>bakal</i>	祈る <i>boņga</i>
痛い <i>hasu</i>	躰(いびき)(をか) <i>hu</i> [?] <i>řir</i>
抱く <i>hambud</i>	衣服 <i>kiciri</i>
痛む <i>hasu</i>	今 <i>naa</i> [?]
	いやになる <i>asadi</i>
	以来 <i>ate</i>

居る *mena'ia/ mena'kina/ mena'koa* (単数、双
数、複数)

射る *ʔote*

岩 *seren*

陰茎 *loe'*

インドクジャク *mara'*

陰毛 *sia*

う

上 *cetan*

飢える *reŋge'*

植える *roa*

浮かぶ *ʔipiyul*

雨季 *jargi*

浮く *atu, ʔipiyul*

受け取る *nam, tela*

動く *sesen*

兎(ウサギ) *kulae*

牛(ウシ) *uri'*

失う *ad*

後ろ *tayom*

薄い *etan*

ウソ(ををつく) *hosoro*

歌(う) *durani*

疑う *ciʔa*

内側 *bitar* (借<ヒ भीतर *bhītar*)

団扇 *paŋka* (借<ヒ पंख *pākha*)

打つ *dal, tam*

美しい *sugaʔa*

移す *usura* (借<ヒ उसरना *usarnā*)

うつ伏せになる *obor*

腕 *supu*

腕輪 *sakom*

促す *ase/ asi*

うなじ *tudka*

奪う *arkid*

馬(ウマ) *sadom*

膿(うみ) *sondro*

海 *samundar* (借<ヒ समद्र *samdra*)

産む *jonom* (借<ヒ जन्म *janm*)

埋める *topa*

羽毛 *iil*

裏 *ulʔa* (借<ヒ उलटा *ulʔā*)

裏庭 *kuŋdam*

うらやむ *ceŋʔa*

売る *akiriŋ*

嬉しい *rasika*

運 *nasib* (借<ヒ नसीब *nasīb* <ア)

運転する *har, calao* (借<ヒ चलाना *calānā*)

運命 *nasib* (借<ヒ नसीब *nasīb* <ア)

え

映画 *sinima* (借<ヒ सिनेमा *sinemā* <英 *cinema*)

影響 *asar* (借<ヒ असर *asar*)

えーと *iya*

駅 *eʔesan / ʔisan* (借<ヒ स्टेशन *ʔeʔsan*)

餌 *cara* (借<ヒ चारा *cārā*)

枝 *koto*

海老 *ica'*

偉い *marani*

偉い人 *sayob* (借<ヒ साहब *sāhab*)

選ぶ *sala*

得る *nam*

お

追い掛ける <i>oton</i>	遅い <i>heṛa</i>
おいしい <i>sibil</i>	恐れる <i>boro</i>
生い茂る <i>hara</i>	おちつかない <i>akabakao</i> (借<ヒ अकबकाना <i>akabakao</i>)
追い立てる(家畜を) <i>har</i>	落ちる <i>uyu</i> [?]
追いつく <i>teba</i> [?]	夫 <i>kisan</i> (借<ヒ किसान <i>kisān</i>)
おいで(呼掛け) <i>dela, ela</i>	おでき <i>pusuri</i>
追う <i>oton</i>	音(を出す) <i>saṛi</i>
欧米人 <i>sayob</i> (借<ヒ साहब <i>sāhab</i>)	お父さん(呼びかけ形式) <i>aba</i>
オウム <i>keyad</i>	弟妹 <i>boko</i>
大雨(が降る) <i>japud</i>	男の使用人 <i>dasi</i>
多い <i>bese</i>	落とす <i>uyu</i> [?]
覆い隠す <i>gugula</i>	大人になる <i>mata</i>
覆う <i>dapal</i>	おどろく <i>akadanda</i>
狼 <i>tani</i>	驚く <i>bakuo</i>
大きい <i>maran</i>	お肉 <i>jilu</i>
大きな網 <i>jalom</i>	斧(おの) <i>kapi, hake</i>
オーケー <i>hee mar</i>	斧で切る <i>ma</i> [?]
大声で呼ぶ <i>kakala</i>	叔母(母の妹、または叔父の妻) <i>gaṛi</i> - 《指示形式》
丘 <i>buru</i>	伯母 <i>baḍi</i>
おかず(を作る) <i>utu</i>	叔母 <i>kaki</i>
お金 <i>taka</i> (借<ベ तাকা <i>tākā</i>)	おばあさん <i>buṛia</i>
拜む <i>boṅga</i>	覚える <i>ṭoor</i>
お粥 <i>leṭe</i>	溺れる <i>ḍumbui</i> [?]
置き去る <i>bage</i>	お盆 <i>taṛi</i> (借<ヒ थाली <i>thālī</i>)
起きる <i>birid</i>	おまえ <i>am</i>
置く <i>doo</i>	おまえたち <i>abe, ape</i> (双数、複数)
臆病な <i>boro</i>	お祭り <i>mela</i> (借<ヒ मेला <i>melā</i>)
送る <i>kul</i>	重い <i>hambal</i>
遅れる <i>heṛa</i>	思う <i>uru</i> [?]
起こす <i>birid</i>	重さ <i>hambal</i>
怒る <i>erani, kadarao, kiis</i>	面白い <i>rasika</i>
起こる(物事が) <i>hoba</i>	お休みなさい <i>joar/ johar</i>
抑える <i>ota</i>	親指 <i>eṅga ṭepo</i> [?]
伯父 <i>baḍa</i>	泳ぐ <i>oyar</i>
叔父 <i>kaka</i>	および <i>oṛo</i> [?]
教える <i>itu</i>	降りる <i>haṛagu</i>
押し込む <i>tubid</i>	織る <i>teṅ</i>
押す <i>udur</i>	折れる <i>ṭōē</i>
雄 <i>saṅḍi</i>	

終わり *caba, tuṇḍu* (*caba*は「一時的に終わり」
*tuṇḍu*は「これ以上先はない。終点」*tuṇḍu*は
「死ぬ」を意味することもある)

終わる *caba, tuṇḍu*
女 *kuṛi*
お早う *joar| johar*

か

蚊 *sikiṇi*
カースト *jati* (借<ヒ 賤位 *jāti*)
貝 *suṭi*
カイコ *lumam*
階段 *siṛi* (借<ヒ सीढ़ी *sīṛhī*)
回転 *bi<ni>yur* 《基底形》*biyur*
解放する *aṛa?*
飼う *asul*
買う *kirin*
カエル *coke*
帰る *ruṛa*
顔 *med muṇa*
香り *soan*
かかと *iṇḍika*
鏡(で見る) *dorpon* (借<ヒ दर्पण *darpaṇ*)
鍵(をかける) *cabi* (借<ヒ चाबी *cābī*)
書く *ol*
搔く(かゆいところを) *gota?*
搔く(とげなど尖ったもので) *hudir*
嗅ぐ *jū*
隠す *uku*
獲得する *nam*
隠れる *danan*
影 *umbul*
陰 *umbul*
陰口(を言う) *ukta*
掛ける(ふとんなどを) *uyu*
掛ける(壁に) *haka*
囲い *bakṛi*
過去未来 *ayar tayom*
傘 *catom*
かさかさする *hasarad*
かさぶた *kasara*

飾る *sajao* (借<ヒ सजाना *sajānā*)
賢い *seṇa*
果実の中身がでる *pusi?*
鍛冶屋 *baṛae*
嚙(かじ)る *ger*
風(が吹く) *hoyo*
風邪(をひく) *manda*
風になびく *otaṇ*
火葬にする *oṇḍor*
数える *leka*
肩 *taran*
かたい *keṭe?*
肩から吊す *hatar*
肩にかついで運ぶ *go?*
固まる *sakid*
勝つ *daṛi*
学校 *iskul* (借<ヒ स्कूल *skūl* <英 school)
悲しい *duku* (借<ヒ दुःख *duḥkh*)
悲しみ *hiatiṇ*
金槌 *koṭasi*
カニ *kaṛakom*
鐘 *gaṇṭi* (借<ヒ घंटी *ghaṇṭī*)
金持ち *kisana*
彼女たち、かれら *akin| ako* (双数、複数)
鞆 *jola* (借<ヒ झोला *jholā*)
カブトムシ *uru*
被る(ショールなどを) *uyu*
壁 *paciri*
壁を作る *tapa?*
カボチャ *kakaru*
鎌 *datorom*
噛まれる(ヘビに) *hua?*
神 *boṅga*

紙 *kagaj* (借<ヒ कागज *kāgaz* <ペ)

髪が抜ける *uruṛu*

雷 *rimbil saṛi*

髪結い *supid*

髪を結う *supid*

噛む(歯で) *tagoe?*

亀 *horo*

かゆい *babata*

火曜日 *maṅgar* (借<ヒ मंगलवार *māgalwār*)

殻 *coka?*

からい *haṛad*

からかう *kelen*

からし菜 *mani*

体がだるい *tatai*

からの *sama*

借りる(お金を) *kaṛi*

刈る *ir*

軽い *rabal*

彼、彼女 *ae?*

枯れる *goso, goe?* (*goso*は「植物が枯れる」で、*goe?*は「生物が死ぬ」)

皮 *coka?*

川 *gaṛa*

側 *japa?*

乾く *roṛo*

渴く *tetaṅ*

川沿い *atom*

瓦 *keco?*

皮をむく *uri, layar*

考え *bicar* (借<ヒ विचार *vicār*)

考える *uṛu?*

感ずる *uṛu?, aṭakar*

完成する *pura* (借<ヒ पुराना *purānā*)

肝臓 *iim*

乾燥する *roṛo*

簡単(である) *rabal*

貫通する *bu?*

頑張る *jor* (借<ヒ जोर *zor* <ペ)

き

木 *daru*

気が狂う *balu*

聞く *ayum*

起源 *e<ne>te?* 《基底形》*eṭe?*

聞こえる *ayum*

義姉 *aji hanar* 《指示形式》

キス(する) *co?*

傷(つく) *gao* (借<ヒ घाव *ghāv*)

北 *kaṭa jambara*

期待する *asarae?* (借<ヒ आशा *āsā*)

汚い *goṇḍo* (借<ヒ गँदा *gandā* <ペ)

吃音 *gejo*

気づく *aṭakar*

狐 *tuyu*

昨日 *hola*

木の窪み *ḍeke*

キノコ *ud, poga* (*ud*は地面生えるキノコで、*poga*は木に生えるキノコ)

木の実 *joo*

義父 *hoṅjar* 《指示形式》

気分 *jii* (借<ヒ जी *jī*)

義妹義弟 *iril* 《指示形式》

客(となる) *kupul*

逆 *ulṭa* (借<ヒ उलटा *ulṭā*)

9 *area | are-*

球根 *daa*

臼歯 *ta<na>goe?*

牛乳 *toa*

牛ふん *guri?*

キュウリ *tayar*

今日 *tisiin*

境界 *siman* (借<ヒ सीमा *sīmā*)

行事 *neg*

兄弟 <i>haga</i>	切れる(綱が) <i>sid</i>
去年 <i>maa</i>	木を揺する <i>ruku</i>
嫌う <i>hilañ</i>	木を割る <i>paṛa</i> [?]
霧(がでる) <i>koasi</i>	金(きん) <i>sona</i> (借<ヒ सोना <i>sonā</i>)
キリスト教教会 <i>girja</i> (借<ヒ गिरजा <i>girjā</i>)	銀 <i>candi</i> (借<ヒ चाँदी <i>cāḍī</i>)
規律 <i>niyam</i> (借<ヒ नियम <i>niyam</i>)	銀 <i>rupa</i> (借<ヒ रूपा <i>rūpā</i>)
切る(斧で) <i>ma</i> [?]	近所 <i>japa</i> [?]
切る(ナイフなど、先のとがったもので) <i>had</i>	禁ずる <i>mana</i> (借<ヒ मना <i>manā</i> <ア)
切る(肉を) <i>ged</i>	均等(にする) <i>barabari</i> [?] (借<ヒ बराबर <i>barābar</i>)
切る(はさみで) <i>laṭab</i>	
きれい <i>parci</i>	金曜日 <i>sukrar</i> (借<ヒ सुक्रवार <i>śukravār</i>)

<

偶然 <i>soñjoko</i> (借><ヒ संयोग <i>saṃyog</i>)	口をあける <i>caab</i>
空腹 <i>reñge</i> [?]	口をつぐむ <i>rikub</i>
釘 <i>kañṭi</i> (借<ヒ कांटी <i>kāṭī</i>)	口をつける <i>juṭid</i>
供犠(する) <i>dane</i>	靴 <i>juta</i> (借<ヒ जूता <i>jūtā</i>)
草(が生える) <i>tasad</i>	靴を履く <i>tusiñ</i>
臭い <i>soan</i>	国 <i>disum</i> (借<ヒ देश <i>deś</i>)
腐った匂い <i>siñi</i>	くばる <i>haṭiñ</i>
草取り(をする) <i>heṛed</i>	首 <i>hoṭo</i> [?]
腐る <i>soya</i>	首飾り <i>hisir</i>
櫛(くし) <i>naki</i> [?]	首をたてに振る <i>ḍobo</i> [?]
櫛で髪をとかす <i>naki</i> [?]	首を曲げる <i>kobo</i> [?]
くしゃみ(をする) <i>hacu</i> [?]	工夫 <i>upae</i> (借<ヒ उपाय <i>upāy</i>)
くすぐったい <i>gamañ</i>	クモ <i>nindiram</i>
くすぐる <i>gore</i>	雲 <i>rimbil</i>
くすぶる <i>sukul</i>	雲が空を覆う <i>dab</i>
薬 <i>ranu</i>	雲り <i>rimbil</i>
薬がきく <i>ṭoo</i> [?]	曇る <i>lambu</i> [?]
癖 <i>hewa</i> (借<ヒ हवा <i>hewā</i>)	暗くなる <i>nida</i>
下る <i>haṛagu</i>	暮らす <i>jiden</i>
口 <i>moca</i>	比べる <i>joka</i>
口に放り込む <i>kapa</i> [?]	暗闇 <i>nuba</i> [?]
口の中に入れる <i>latum</i>	来る <i>hiju</i> [?]
口髭 <i>gucu</i>	苦しむ <i>duku</i> (借<ヒ दुःख <i>duḥkh</i>)
唇 <i>laco</i>	車 <i>gaṛi</i> (借<ヒ गाड़ी <i>gārī</i>)
口笛(をふく) <i>gole</i>	車に乗る <i>de</i> [?]

黒(い) *hende*
 苦勞(する) *balae*
 鋤(くわ) *kudlam*
 くわえる *gember*

加わる *jama*
 軍人 *palṭan* (借<ヒ 平ルン *palṭan* <英 platoon
)

け

軽快(である) *rabal*
 警官 *sipai* (借<ヒ 西パヒ *sipāhī*)
 計算(する) *hisab* (借<ヒ 西サ *hisāb* <ア)
 けが(する) *gao* (借<ヒ 賈 *ghāv*)
 激怒する *kurkur*
 今朝 *tisiñ seta*[?]
 削る(ナイフなどで) *husid*
 けち(な) *kuṭu*
 結婚(式) *aṛandi*
 結婚する *do*
 月曜日 *somar/ sombar* (借<ヒ 西マ *somvār*
)

蹴飛ばす *pada*
 毛虫 *tiju*
 煙(つたい) *sukul*
 蹴る *pada*
 拳 *cipud*
 けんか(する) *e<pe>rañ*
 喧嘩する *go<po>e*[?]
 元気である *bes* (借<ヒ 西 *beś*)
 現金 *paisa* (借<ヒ 西 *paisā*)
 言語 *jagar*
 げんこつでたたく *gil*

こ

5 *mōṇēya / mōṇē-*
 濃い *lobo*[?]
 牽丸 *bili*
 合計する *jama*
 耕作 *kiti* (借<ヒ 西 *khetī*)
 麴(コウジ) *ranu*
 強奪(する) *re*[?]
 強盗 *ḍaku* (借<ヒ 西 *ḍākū*)
 声がかかる *gadi*
 越える *parom*
 木陰 *suba*
 焦がす *rongo*
 呼吸(する) *sayad*
 苔 *gaded*
 コケコッコ *kokoreco*[?]
 こける *taba*[?]
 焦げる *rongo*
 ここ *neta*[?]

ここから *ne-tag-ate*
 ここで *ne-ta[?]-re*
 ここに *ne-re*
 九つ *area*
 ここへ *ne-ta[?]-te*
 心 *mon* (借<ヒ 西 *man*)
 ござ *paṭi* (借<サ *paṭī*)
 腰 *mayan*
 腰掛け *gaṇḍui*[?]
 腰が曲がる *kuba*
 乞食(を) *ko*
 ゴシゴシと洗う *sobod*
 故障する *bagarao*
 越す *laa*[?]
 こする(目を手の甲で) *utukud*
 こする(目を両手で) *itikid*
 こする(垢を落とすために) *od*
 こちらへ *ne-te*

こっそり <i>hape hape te</i>	ゴミ <i>goṇḍo</i> (借<ヒ गँदा <i>gandā</i> <ペ)
こっち <i>ne-sa[?]</i>	混む <i>keserembed</i>
こっちら <i>ne-sag-ate</i>	小麦粉 <i>holoñ</i>
こっちに <i>ne-sa[?]-re</i>	米 <i>cauli</i>
こっちへ <i>ne-sa[?]-te</i>	米の炊き汁 <i>teṇḍa[?]</i>
コップ <i>gilas</i> (借<ヒ गिलास <i>gilās</i> <英 <i>glass</i>)	小屋 <i>guyu</i>
孤独を感じる <i>mukuiñ</i>	小指 <i>huṛiñ kaṭu[?]</i>
言葉 <i>kaji</i>	これ(近称) <i>nea</i>
子供 <i>hon</i>	これから <i>neate</i>
子供がぐずる <i>gejeṛa</i>	これだけ <i>iminañ / imunuñ</i>
断わる <i>hoka</i>	これだけで十分 <i>iminañ ge</i>
粉 <i>guṇḍa</i>	殺される <i>gojo[?]</i>
こねる <i>sipud</i>	殺す <i>goe[?]</i>
この <i>ne/ na</i>	転ぶ <i>baṭi</i>
この人 <i>ni[?]/ nai[?]</i>	怖がる <i>boro</i>
この人達(双数) <i>nikin/ nakin</i>	壊す <i>bagaṛao</i>
この人達(複数) <i>niku/ naku</i>	壊れる <i>bagaṛao</i>
この時 <i>nimtaiñ/ namtaiñ</i>	こんど <i>neskan</i>
このような <i>neka</i>	こんな <i>nimin</i>
ご飯 <i>maṇḍi</i>	こんなに <i>aminañ/ aminuñ</i>
ご飯を炊く <i>maṇḍi</i>	こんなに <i>naminañ/ niminañ</i>
瘤(こぶ) <i>ucud</i>	こんにちは <i>joar/ johar</i>
コブラ <i>paṇḍu biñ</i>	今晚は <i>joar/ johar</i>
こぼす <i>giri, hiri[?]</i>	今夜 <i>tisiñ nida</i>
困る <i>uru[?]</i>	混乱する <i>akabakao</i> (借<ヒ अकबकाना <i>akabakao</i>)

さ

さあ、行きましょう(呼掛け) <i>dola</i>	先がまがった棒 <i>koko[?]</i>
さあねえ <i>idu</i>	先を削る <i>goja</i>
最近 <i>nimir</i>	裂く <i>keca[?]</i>
最初 <i>sida</i>	叫ぶ <i>ra[?]</i>
催促する <i>ase/ asi</i>	裂ける <i>keca[?]</i>
才能 <i>gun</i> (借<ヒ गुण <i>guṇ</i>)	下げる <i>haka</i>
裁判所 <i>kacairi</i> (借<ヒ कचहरी <i>kacahrī</i>)	捧げる <i>om</i>
裁縫(する) <i>tukui[?]</i>	ささやく <i>hayam</i>
坂 <i>ra<na>kab</i> 《基底形》 <i>rakab</i>	差し示す <i>cuṇḍul</i>
探す <i>dana</i>	刺す(ナイフなどで) <i>sobo[?]</i>
魚(さかな) <i>hai</i>	指す <i>cuṇḍul</i>

さする(体を) *itir*
 させる(人に何かを) *rika*
 砂糖 *cini* (借<ヒ चीनी *cīnī*)
 さび(になる) *citi*
 寒い *rabañ, kaṭuao* (*rabañ* は「(普通に) 寒い」。
kaṭuao は「大変寒い。震えが来るほど寒い」の
 意味)
 覚める *eyon*
 さようなら *joar/ johar*
 皿 *cipi*
 再来年 *satom*

ざらざらする *hasarad*
 サラソウジュ *sarjom*
 猿 *gari*
 去る *seno*[?]
 触(さわる) *capu*
 3 *apia / api*
 参加する *jama*
 賛成(する) *hee*
 散歩(する) *honor*
 三人 *api horo*

し

～時 *baje* (借<ヒ बजे *baje*)
 爺さん *haṛam*
 塩 *buluñ*
 塩辛い *ram*
 鹿(シカ) *silib*
 しかし *mendo*
 叱る *erañ*
 時間 *ganṭa* (借<ヒ घंटा *ghaṅṭā*)
 時間 *samae* (借<ヒ समय *samay*)
 敷く(ゴザなどを) *bil*
 仕事 *kami* (借<ヒ काम *kām*)
 仕事をさせる *acu*
 地震 *ote ekela*
 氏族 *kili*
 子孫 *hon gaṇa*
 下 *latar*
 舌 *le*[?]
 したい *mone*
 時代 *juḡu* (借<ヒ युग/ जुग *yug / jug*)
 従う *manatiñ* (借<ヒ मन्ता *māñṇā*)
 したたる *ṭipa*[?]
 下に *latar-re*
 叱責(する) *erañ*
 嫉妬(する) *hisinga*
 尻尾 *ca[?]lom*
 質問 *ku<nu>li*

自動車 *moṭor* (借<英 motor)
 死ぬ *gojo*[?] 《基底形》 *goe*[?] 「殺す」
 死ぬ *ṭuṇḍu*
 縛る *tol*
 渋い(渋柿) *heben*
 自分自身 *apan*
 脂肪 *itil*
 しぼむ *ceped*
 絞り出す(ニキビを) *lin*
 絞る *cipa*
 島 *ṭapu* (借<ヒ टापू *ṭāpū*)
 姉妹 *missi*
 しみる(傷が) *usur*
 締め付ける *deṇḍe*
 閉める(ドアなどを) *haṇḍed*
 湿る *ali*
 占める *eser*
 地面 *ote*
 じゃあ *tobe*
 社会 *samaj* (借<ヒ समाज *samāj*)
 ジャガイモ *alu* (借<ヒ आलू *ālū*)
 写真 *poṭo* (借<英 photo)
 シャツ *sono*[?]
 借金 *kaṛi*
 ジャックフルーツ *kaṇṭara* (借<ヒ कठल *kaṭhal*)

しゃっくり(する) <i>hiya</i> [?]	将来 <i>gapa kote</i>
しゃべる <i>kaji</i>	蒸留酒 <i>arki</i>
朱 <i>sinduri</i> (借<ヒ シन्दूर <i>sindūr</i>)	食事 <i>maṅḍi</i>
呪医 <i>deṇa</i>	食物 <i>jomea</i>
10 <i>gel / geleya</i>	食器などをこする <i>gesa</i>
習慣 <i>hewa</i> (借<サ <i>hewā</i>)	食器を洗う <i>gasar</i>
宗教 <i>boṅga buru</i>	女中 <i>kamini</i>
就職(する) <i>nokri</i> (借<ヒ नौकरी <i>naukrī</i> <ペ)	白髪(しらが) <i>paṅḍu</i>
しゅうと <i>hoñjar</i>	白鷺(シラサギ) <i>ko</i> [?]
しゅうとめ <i>hanar</i>	知らせる <i>udub</i>
十分な <i>pura</i> [?]	知らないねえ <i>idu oṛo</i> [?]
熟する <i>jarom</i>	しらふになる <i>suti</i>
宿命 <i>nasib</i> (借<ヒ नसीब <i>nasīb</i> <ア)	尻 <i>laṅḍi</i>
種子 <i>jañ</i>	知り合う <i>le<p>el</i>
出発する <i>uṛuñ</i>	知る <i>itu</i>
樹皮 <i>bakala</i> [?]	印(しるし) <i>cina</i> (借<ヒ चिन्ह <i>cinha</i>)
狩猟をする <i>sendera</i>	白(い) <i>puṅḍi</i>
種類 <i>kisim</i> (借<ヒ किस्म <i>qism</i> <ア)	シロアリの巣 <i>bunum</i>
錠 <i>tala</i> (借<ヒ ताला <i>tālā</i>)	しわ(になる) <i>lepo</i>
正気に戻る <i>suti</i>	新月 <i>mulu</i> [?]
少女(になる) <i>daṅgari</i>	信仰 <i>boṅga buru</i>
少女 <i>mai</i>	心身ともに疲れる <i>kabu</i>
冗談 <i>landa jagar</i>	人生 <i>jinid</i>
衝突する <i>tuguri</i>	親戚 <i>kupul</i>
商人 <i>bania</i> (借<ヒ बनिया <i>baniyā</i>)	新鮮な <i>roka</i>
少年(になる) <i>daṅgara</i>	身体 <i>hoṛomo</i>
蒸発する <i>coṛoñ</i>	寝台 <i>parkom</i>
丈夫 <i>pere</i> [?]	身長が高い <i>salangi</i>
小便(する) <i>duki, doḍo</i> [?]	信用(する) <i>biswas</i> (借<ヒ विश्वास <i>viśvās</i>)

す

巣(クモの) <i>jaal</i> (借<ヒ जाल <i>jāl</i>)	吸う(タバコを) <i>sib</i>
巣(鳥の) <i>tuka</i>	吸う <i>jembed</i>
水泳(ををする) <i>ḍebel</i>	スープ <i>rasi/ rase</i> (借<ヒ रास <i>rās</i>)
水牛 <i>keṛa</i>	末っ子 <i>liṭa</i>
水田 <i>loyoñ</i>	鋤(すき) <i>nayal</i>
睡眠(する) <i>durum</i>	好き <i>suku</i>
水曜日 <i>budu</i> (借<ヒ बुधवार <i>budhvār</i>)	救う <i>bañcao</i> (借<ヒ बचना <i>bacnā</i>)

拗う *oar*
 少し *cokoe?*
 煤(すす) *nolad*
 すすぐ *poe?*
 涼しい *tutukun*
 進む *sesen*
 スズメ *dedeb*
 酢っぱい *jojo*
 酸っぱい *moroe?*
 捨てる *bage*
 棄てる *giri*
 砂 *gitil*
 臍(すね) *tereñ*
 すねる *hana*
 スプーン *camaci* (借<ヒ चमची *camaci*)

すべての *jee*
 スポーツ *inui*
 ズボン *pen̄te* (借<英 *pants*)
 隅(に置く) *koca*
 炭 *hasaigar*
 角 *kona* (借<ヒ कोना *konā*)
 住む *tai*
 澄む *teta*
 スリムになる *ceped*
 する *rika*
 鋭い *leser*
 する時に *imtai*
 すわった位置からジャンプする *cud*
 坐る *dub*

せ

生活する *jiden*
 清潔 *sapa* (借<ヒ सफा *saphā* <ア)
 性交(する) *dere*
 生長する *hara*
 成長する *mata*
 生の *berel*
 生命 *jii* (借<ヒ जी *jī*)
 整列させる *soto?*
 背負う(オンブ) *kud*
 背負う(荷物を) *go?*
 世界 *duniya* (借<ヒ दुनिया *duniyā* <ア)
 背が低い *diŋgae?*
 咳(を)する *ku?*

石炭 *kuila* (借<ヒ कोयला *koylā*)
 責任 *jima* (借<ヒ जिम *zimma* <ア)
 石鹸 *sabon* (借<ヒ साबुन *sābun* <ア)
 背中 *dea*
 狭い(窮屈なほど) *keserembed*
 狭く感じる *keserembed*
 前後 *ayar tayom*
 先日(この前) *honder*
 先日(ある日) *musin*
 前進する *sesen*
 先生(になる) *mařtar* (借<英 *master*)
 全部(まとめて) *sam*
 全部(すべて) *soben*

そ

象 *hati* (借<ヒ हाथी *hāthī*)
 雑巾掛け(を)する *luñda*
 掃除(する) *jo?*
 葬式 *hasa gařa*
 そうして *oro?*
 そうじゃないでしょう *iti?*

早朝 *idañ*
 草履 *karpa* (借<ヒ खरपा *kharpā*)
 そこから *en-ate*
 そこで *enta?*
 そこに *enre*
 そこへ *ente*

そして *ad*
 そそぐ *dul*
 祖々父母 *guŋgu* 《指示形式》
 祖々父母 *kuku* 《呼びかけ形式》
 育つ *maran̄*
 外側 *bahar* (借<ヒ बाहर *bāhar*)
 その *en/ in*
 その人 *ini*[?]
 その人達(双数) *inkin̄*
 その人達(複数) *inku*
 そのような *enka*
 祖父 *tata* 《指示形式》

祖父 *buṛa* 《呼びかけ形式》
 祖母 *jiya* 《指示形式》
 祖母 *nani* 《呼びかけ形式》
 染める *raŋga* (借<ヒ रँग *rāg*)
 空 *sirma*
 剃る *hoyo*
 それ *enaf ina*
 それ *hena*
 損(する) *hani*
 存在する *mena*[?]
 村長 *muṇḍa*

た

太鼓を叩く *ruu*
 太鼓を叩く *sari*
 ダイコン *murai* (借<サ मुराई *murāi*)
 滞在する *tain*
 怠惰 *laṇḍia*
 だいたい *tara mara*
 怠惰な *aṛisa*
 第二夫人 *hirum*
 大便(する) *i*[?]
 大便(を)する *piṛisa*[?]
 逮捕(する) *sab*
 太陽 *siŋgi*
 耐える *saatiṅ* (借<ヒ सहसना *sahasnā*)
 倒す *uyu*[?]
 倒れる *baṭi*
 耕す *siu*[?]
 だから *cilika te ci*
 抱きかかえる *hambud*
 焚く *oṇḍor*
 だけ *bari*
 竹 *mad*
 竹竿 *mad ḍaṇḍa*[?]
 竹の子 *helta*
 出す(芽を) *omon*
 出す *uṛuṅ*

助ける *bañcao* (借<ヒ बचना *bacnā*)
 助ける *deŋga*
 たたく(ハンマーや石で) *koṭe*[?]
 叩く *dal*
 たたく *koṛam*
 叩く *tabṛi*
 たたむ *laṭum*
 漂う *ṭipiyul*
 立ち上がる *birid*
 立ち上がる *tiŋgu*
 立ち去る *seno*[?]
 立つ *bid*
 立つ *birid*
 建つ *tiŋgu*
 立つ *tiŋgu*
 抱っこ(する) *hebe*
 脱穀 *ruṛuṅ*
 脱穀場 *kolom*
 達する *teba*[?]
 建てる *bai*
 建てる *bid*
 立てる *bid*
 谷 *beṛa*
 種(たね) *hita, jan̄*
 種をまく *her*

他の *eta'*
 楽しい *rasika*
 頼む *ase/asi*
 タバコ *cuiŋi*
 タバコ *tamaku* (借<ヒ तम्बाकू *tambākū* <
 ぺ)
 たびたび *janao janao*
 多分 *ja'*
 食べさせる *ajom*
 食べる *jom*
 玉 *guli* (借<ヒ गोली *golī*)
 卵 *jarom*
 だます *beda*
 だます *hosoro*

黙る *hape*
 為に *naten / nanŋen*
 溜める *hunḍi*
 ターメリック *sasañ*
 誰 *okoe*
 垂れ下がる *liṛu*
 誰でも *jae'*
 タロイモ *saru*
 短気(な) *kacara*
 断食(をする) *kaṭab*
 談笑する *jaru*
 ダンス(する) *susun*
 端末 *ṭunḍu*

ち

血(を出す) *mayom*
 小さい *hurin*
 小さいネット *jali*
 近い *naŋe'*
 近く *naŋe'*
 近頃 *nimir gapa*
 力 *peṛe'*
 父 *apu*
 乳 *toa*
 父方の叔母、または伯母母の兄弟の妻 *hatom*
 乳を飲む *nunu*
 乳房 *nunu*

茶 *caa*
 チャパティ、ナンなどパン類 *lad*
 柱 *kuṇṭa* (借<ヒ खँटा *khūṭā*)
 中心に *tala re*
 中に *bitar re*
 昼夜一日中 *nida siŋgi*
 ちょうだい(呼びかけ) *de*
 チョウチョウ *pampalad*
 跳躍する *kuṛil*
 調理(する) *isin*
 塵(チリ) *humu*

つ

対、ペア *joṛa* (借<ヒ जोड़ा *joṛā*)
 仕える *sewa* (借<ヒ सेवा *sewā*)
 捕まえる *sab*
 つかむ *sab*
 疲れる *laga*
 月 *caṇḍu'*
 月の光 *tete'*
 次 *tayom*

着く *teba'*
 作る *bai*
 造る(米の酒を) *akid*
 蔓(つた) *naṇi*
 土 *hasa*
 土で塗る *jolom*
 続ける *jari*
 突っ張る *caṇi*

包む <i>poŋom</i>	冷たい <i>rabañ</i>
つねる <i>ica'</i>	冷たい <i>tutukun</i>
ツノ <i>diriñ</i>	爪で搔く <i>godar</i>
唾 <i>uli da'</i>	爪で捕獲する(動物が獲物を) <i>ruba</i>
唾を吐く <i>be'</i>	積もる <i>hunđi</i>
潰す <i>bağarao</i>	露(が落ちる) <i>sisir</i>
蓄(つぼみ) <i>mõē</i>	強い <i>peṛe'</i>
つまづく <i>taba'</i>	貫く <i>bu'</i>
摘む(山菜を爪を使って) <i>ṭusa</i>	釣り <i>baṇasi</i>
摘む(山菜の枝をしごいて) <i>hod</i>	吊り下げる <i>haka</i>
摘む(山菜を一枚一枚) <i>sid</i>	釣る <i>baṇasi</i>
摘む(葉っぱ) <i>he'</i>	吊す <i>haka</i>
摘む(果実を) <i>god</i>	連れ去る <i>arkid</i>
つまむ <i>pica'</i>	連れて行く <i>idi</i>
積む(山のように) <i>buru</i>	連れてくる <i>agu</i>
積む <i>tiriñ</i>	連れる <i>idi</i>
爪 <i>sarsar</i>	

て

手 <i>tii</i>	手でふき取る <i>kopa</i>
…で(道具、方法) <i>te</i>	手に入れる <i>nam</i>
…で(場所) <i>re</i>	掌(てのひら) <i>talka</i>
出会う <i>na<pa>m</i>	手招き(する) <i>gaui'</i>
庭園 <i>bagaica</i>	出迎える <i>darom</i>
手紙 <i>ciṭi</i> (借<ヒ चिट्ठी <i>ciṭṭhī</i>)	照らす(ライトなどで) <i>arsal</i>
敵 <i>dusman</i> (借<ヒ दुश्मन <i>duśman</i> <ペ)	出る <i>uruñ</i>
…できる <i>daṛi</i>	手渡す <i>om</i>
…でしょう(相づちを求める) <i>kaci</i>	手を突っ込む <i>su'</i>
鉄 <i>meñed</i>	点 <i>bindu</i> (借<ヒ बিনदू <i>bindū</i>)
手伝う <i>deṅa</i>	電気 <i>bijili</i> (借<ヒ बिजली <i>bijlī</i>)
鉄砲(で撃つ) <i>banduku</i> (借<ヒ बंदूक <i>bādūk</i>)	天国 <i>sirma</i>
鉄砲を撃つ <i>ṭoṭe</i>	天秤棒で運ぶ <i>kuṭuñ</i>

と

問う <i>kuli</i>	どうぞ <i>mar</i>
とうがらし <i>marci</i>	到達する <i>teba'</i>
洞窟 <i>lata</i>	到着 <i>teneba'</i>
同情(する) <i>daya</i> (借<ヒ दया <i>dayā</i>)	とうとう <i>ṭuñđu re</i>

動物 *januwar* (借<ヒ जानवर् *jānvar* <ペ)
 動物の皮 *harta*[?]
 トウモロコシ *jonḍa*
 十(とお) *geleya*
 トカゲ *teṭeṅga*
 時(とき) *dipili*
 ドキッとして驚く *kiṭil*
 時々 *misa misa*
 得(する) *napa* (借<ヒ नफा *naphā* <ア)
 解く *raṛa*
 毒 *bis* (借<ヒ विश *viś*)
 毒にあたる *ṭoo*[?]
 とげ *janum*
 溶ける *lean*
 どこに *kota*[?]
 ところに *ta*[?]
 年 *sirma*
 土地 *ote*
 途中で *hora re*
 どちら *kosa*[?]
 取っ組み合う *opota*
 突然な *roka*
 突然に *acaka* (借<ヒ अचानक *acānak*)
 どっち *kosa*[?]
 とても *isu*
 とても大きな *ma<p>araṅ* 《基底形》 *marāṅ*
 とても小さい *hu<pu>riṅ* 《基底形》 *huṛiṅ*
 留まる *tain*

止まる *tiṅgu*
 止める *tiṅgu*
 どの *oko*
 どのような *cilika*
 どのように *cilika*
 扉 *duar* (借<ヒ द्वार *dvār*)
 飛ぶ(羽があつて) *apir*
 飛ぶ(風に舞つて) *oṭaṅ*
 どぶろく酒 *ili*
 友達 *soṅge*
 土曜日 *sanicar* (借<ヒ सनीचर *sanīcar*)
 虎(トラ) *kula*
 トランス状態になって身体を震わせる *rum*
 鳥(トリ) *ceṅe*
 取り替え(る) *badli* (借<ヒ बदली *badlī*)
 取り込む *ader*
 取る *au*
 どれ *okoa*
 泥(がつく) *losod*
 泥棒 *kumbuṛu*
 尖(トンガリ) *cuṭi* (借<ヒ चोटी *coṭī*)
 どんな *cilika*
 どんな人か *cikani*[?]/ *cani*[?]
 どんな人達(双数)か *cikankiṅ*/ *cankiṅ*
 どんな人達(複数)か *cikanku*/ *canku*
 どんなでも *jetao*
 どんなに *jeta*

な

内部 *bitar* (借<ヒ भीतर *bhītar*)
 ナイフ *katu*
 ナイフで切る *had*
 直す *bai*
 治す *bugi*
 長い *jiliṅ*
 流す *atu*
 仲直り(する) *ba<p>ai* 《基底形》 *bai*

中指 *tala ganda*
 流れる(水が) *liṅgi*
 流される(物や人が) *atu*
 泣きやむ *asid*
 泣く(シクシク) *iyam*
 泣く(声を上げて) *ra*[?]
 鳴く(鳥が) *ra*[?]
 なくす(ものを) *ad*

無くなる *caba*
 投げる *ter*
 仲人(する) *dutam*
 ナス *beṅgara*
 なぜ *cilika te*
 なぜなら *cia' ci*
 鉦(なた) *koṅde'*
 なでる *golañ*
 7 *eea / ē-*
 七つ *eea / ē-*
 斜め *gaṅde*
 鍋 *karai* (借<ヒ कड़ाही *kaṛāhī*)
 鍋に入れる *haṅab*
 名前 *nutum*
 怠ける *laṅdia*

波 *alpuñ*
 涙 *med da'*
 なめさせる *ajal*
 滑らか *jururu*
 舐める *caṭe'*
 なめる *jal*
 並べる *soto'*
 なるほど *ke*
 慣れる *hewa* (借<サ *hewā*)
 何 *cina' / cikana'*
 南京虫 *maji*
 何時[時間] *cimin samae mena'*
 何時 *cimtañ*
 何とかやって行く *calao* (借<ヒ चलाना *calānā*)
 何度も叩く *dadal*

に

2 *bariya / bar*
 煮える *tiki*
 匂い *soan*
 匂いをかぐ *suñkud*
 匂う *soan*
 苦い(ニガウリ) *mer*
 苦さを感じる *mer*
 ニキビ *pusuri*
 握る *cipud*
 肉体 *horomo*
 憎む *hilañ*
 肉を切る *ged*
 逃げ出す *nir*
 逃げる *nir*
 逃げろ *oco*

西 *siṅgi ḍumbui' sa'*
 日曜日 *etwar* (借<ヒ इतवार *itvār*)
 日射 *situñ*
 になる *hoba*
 鈍くなる *boṛa*
 荷物 *saman* (借<ヒ समान *samān*)
 乳幼児 *bale'*
 煮る *oyoñ*
 煮る *tiki*
 庭 *raca*
 鶏(ニワトリ) *sim*
 人間 *manova* (借<ヒ मानव *mānaw*)
 認識する *urum*
 妊娠する *lai'*

ぬ

糠(ぬか) *lupu'*
 抜く *ayar*
 脱ぐ *oco'*
 脱げる *oco'*
 盗む *kumbuṛu*

布地 *lija'*
 濡らす *lum*
 ぬるぬるする *boroṛo*
 濡れる(露で) *ali*
 濡れる(水で) *lum*

ね

根 <i>red</i>	眠たくなる(首をコクリとして) <i>ḍoboʔ</i>
願う <i>sanañ</i>	眠たくなる <i>duṛum</i>
猫 <i>pusi</i>	眠る <i>duṛum</i>
ネズミ <i>cuṭu, kaṭea, guru</i>	寝る <i>gitiʔ</i>
値段 <i>gonoñ</i>	捻挫(する) <i>loṭoeʔ</i>
熱する <i>lolo</i>	年齢 <i>umar</i> (借<ヒ उमर <i>umar</i> <ア)
ネット <i>jalakari</i> (借<ヒ जालिका <i>jālikā</i>)	

の

脳 <i>hatañ</i>	登る(一段) <i>deʔ</i>
残す <i>bage</i>	登る(坂を) <i>rakab</i>
残る <i>sareʔ</i>	昇る(太陽が) <i>rakab</i>
のぞき見る <i>koyoʔ</i>	昇る(太陽が) <i>tur</i>
望む <i>asaraeʔ</i> (借<ヒ आशा <i>āsā</i>)	飲ませる <i>anu</i>
喉(のど) <i>ṭoṭoṇa</i>	鑿(のみ) <i>ruka</i>
ののしる <i>erañ</i>	ノミ <i>siku</i>
野鳩 <i>putam</i>	呑み込む <i>ud</i>
野原 <i>piṛi</i>	飲む <i>nuu</i>
伸びる(髪が) <i>hara</i>	

は

歯 <i>ḍaṭa</i>	量る <i>joka</i>
葉 <i>sakam</i>	禿(る) <i>care</i>
ハアリ <i>burdulud</i>	掃く <i>joʔ</i>
肺 <i>borkod</i>	吐く <i>ula</i>
灰 <i>toroeʔ</i>	ハゲタカ <i>didi</i>
バイオリン <i>banam</i>	バケツ <i>baṭṭi</i> (借<ヒ बालटी <i>bālṭī</i>)
入る <i>bolo</i>	箱 <i>baksa</i> (借<ヒ बक्स <i>baks</i> <英 box)
入る <i>soab</i>	運ぶ <i>idi</i>
ハエ <i>roko</i>	挟まる <i>rebed</i>
生える(歯が、カビが、キノコが、タケノコが)	はさみ(で切る) <i>laṭab</i>
<i>omon</i>	橋 <i>pul</i> (借<ヒ <i>pul</i>)
馬鹿(な) <i>ḍoṇḍo</i>	始め(る) <i>eṭeʔ</i>
馬鹿 <i>koñka</i>	初めに <i>eṭeʔ re</i>
墓 <i>sasan</i>	場所 <i>jaga</i>
葉が落ちる <i>uruṛu</i>	場所 <i>ṭayad</i>
秤 <i>tula</i> (借<ヒ तुला <i>tulā</i>)	

恥じる *giyu'*
 走る *nir*
 恥ずかしい *giyu'*
 外す(身につけているものを) *oco'*
 外す(結んだひもを) *raṛa*
 旗 *janḍa* (借<ヒ झंडा *jhāḍā*)
 機織職人 *peṇae*
 裸(になる) *ṭoan*
 肌が白い *esel*
 畑 *gora*
 働く *kami* (借<ヒ काम *kām*)
 8 *iraliya / iral*
 罰 *sajai* (借<ヒ सजा *sazā* <ペ)
 発酵する *basi*
 バッタ *sonsorod*
 葉で作った皿 *puṛu'*
 鳩(ハト) *dudumul, putam*
 花(が咲く) *baa*
 鼻 *muu*
 鼻がつまる *teped*
 放す *ara'*
 話す *jagar*

バナナ *kadal*
 鼻水(が出る) *sului'/suli'*
 花婿 *bor*
 花嫁 *koneya* (借<ヒ कन्या *kanyā*)
 離れる *oco*
 跳ねる *kuril*
 母 *eṅga*
 母方の叔父、或は伯父 *mamu*
 早い *sekeṛa*
 速い *sekeṛa*
 腹 *lai'*
 腹が減る *reṅge'*
 腹をへこませる *jakoe'*
 針 *sui* (借<ヒ सूई *sūī*)
 針をさす *gutu*
 腫れる *mōō*
 歯を磨く *karkad*
 晩 *nida*
 番号 *nambar* (借<英 number)
 反射する *pili'*
 半分 *tara*

ひ

火 *seṅgel*
 干上がる *añjed*
 冷える(温めたものが) *raṛe'*
 日が暮れる *nuba'*
 東 *siṅgi turu' sa'*
 日が沈む *ḍumbui'*
 日が沈む *hasur*
 日が照る *jeṭe*
 光 *masakal*
 引きずる *or*
 引き抜く *tud*
 引き抜く *uṛuñ*
 挽く *rid*
 膝(ひざ) *mukuñi*
 膝を曲げる *kucuñ*

肘(ひじ) *uka*
 柄杓(ひしゃく) *luṅḍi'*
 非常に *isu*
 浸す *tupu*
 額(ひたい) *moloñ*
 左 *leṅga*
 引っ掻く(鳥が食料をさがすために、地面を)
poska
 羊 *miṅḍi*
 引っ張る *caṇi*
 ひっぱる *or*
 引っ張る *raca'*
 必要(になる) *jaruṛu* (借<ヒ जरूर *zarūr* <ア)
 人 *hoṛo*
 人差し指 *cuñḍul kaṭu'*

一つ *miyad- / moyod*
 一つずつ *mimid/ momod / mimiyad*
 一握り(量の単位) *cipud*
 一人(になる) *eskar*
 火にあたる *jirub*
 火にくべる *oṅḍor*
 日に干す *tase/ tasi*
 ひび割れする *çaṭa?*
 皮膚 *ur*
 紐(ひも) *bayar*
 ひもを通してつなげる *gutu*
 雹(ひょう)(が降る) *aril*
 病気 *rogo* (借<ヒ *rog*)
 病気が治る *bes* (借<ヒ *べし bes*)

病気になる *rua*
 病気の熱 *rua*
 平手でたたく *tabri*
 肥料 *sara*
 ヒル *hapad*
 昼間 *tikin*
 広い *maran*
 拾う *halan*
 火を消す *ene?*
 火をつける *juṅḍi*
 火をつける *tin*
 火を灯す *jul*
 貧乏 *reṅge?*

ふ

夫婦 *kulgia*
 笛を吹く *oron*
 深い *ikir*
 吹出物 *jone*
 付近 *japa?*
 拭く *goso?*
 拭く *jod*
 服 *lija?*
 服がきつい *deṅde*
 複雑な *hambal*
 ふくらはぎ *jumka*
 膨れる *mōō*
 フクロウ *kokor*
 服を着る *tusiṅ*
 ふけ(がでる) *citū*
 塞ぐ *kesed*
 ふざける *kelen*
 伏す *giti?*
 蓋(をやる) *ṭipi* (借<ヒ *ṭopī*)
 豚 *sukuri*
 二つ *bariya / bar*

二つずつ *babaria*
 二人 *bar hoṛo*
 ぶつかる *tuguri*
 蓋をする(車などの)下敷きになる *ten*
 蓋をする *harub*
 縁(ふち) *atom*
 ぶつかる *ṭoo?*
 沸騰(する) *hoṅḍoe?*
 沸騰して水がなくなる *aṅjed*
 太い *moṭo* (借<ヒ *モटा moṭā*)
 踏む *tega*
 冬 *raban din*
 不愉快(になる) *eṭed*
 ブラックベリー *kuda*
 振り払う *koṭa*
 古い *purna* (借<ヒ *पुराण purāṅ*)
 フルーツ *joo*
 震える *ekela*
 触れる *capu*
 ふんどし *botoe?*

屁(をする) *gasi*[?]
 塀 *paciri*
 平野 *piri*
 臍(へそ) *buṭi*
 別の *eṭa*[?]
 別々の *biṅga biṅga*

へビ *biñ*
 ペン *pen* (借<英 *pen*)
 ベンガルボダイジュ *bare*
 勉強(する) *parao* (借<ヒ पढ़ना *parḥnā*)
 便所 *ḍuki ora*[?]

ほ

穂(が出る) *gele*
 棒(で叩く) *ḍanda*[?] (借<ヒ डंडा *ḍaṅḍā*)
 箒 *jono*[?]
 方向 *muli*
 帽子を被る *tusiñ*
 宝石 *samaṛom*
 膨張する *marañ*
 棒で掻く *hoṭa*[?]
 棒でたたく *dal*
 方法 *tarika* (借<ヒ तरीका *tarīqā*)
 放牧(する) *atiñ*
 放牧させる *gupi* (借<ヒ गोपी *gopī*)
 葬る *topa*
 吠える *bu*[?]
 頬(ほお) *joa*
 ボート *ḍoṅga* (借<ヒ डोंगा *ḍōgā*)

保管する *jogao*
 星 *ipil*
 欲しい *mone*
 干す *oro*
 墓地 *topa gara*
 欲しがる *haya*
 欲する *mone*
 程 *leka*
 骨 *jan*
 ほら *ne*[?]
 彫る *ro*[?]
 掘る *ur*
 本 *kitab* (借<ヒ किताब *kitāb* <ア)
 本当 *sarte*
 本当に *sarte ge*

ま

まい上がる(塵などが) *oṭañ*
 毎日 *janao*
 前(へ) *ayar*
 前屈み(になる) *uṅgud*
 曲がる *biyur*
 薪 *saan*
 巻く(ひもや綱を) *kuca*
 幕 *parda* (借<ヒ pardā <ペ)
 枕 *takiya* (借<ヒ तकिया *takiyā*)
 負ける *harao* (借<ヒ हरना *harṇā*)
 孫 *jai*
 まさぐる *gosari*

混ざる *seled*
 魔女 *najom*
 混ぜる *seled*
 まちがい(まちがう) *galti* (借<ヒ गलती *galṭī*)
 マツ *jiwan daru*
 待つ *taṅgi*
 マッサージする *itir*
 真っ直ぐ *soje*
 全く *jetana*[?]
 マッチ *salai* (借<ヒ सलाई *salāī*)
 …まで *habi*[?], *jaked*, *sante*
 祭り *porob* (借<ヒ parv)

窓 *kiriki* (借<ヒ खिड़की *khirkī*)
 学ぶ *paraō* (借<ヒ पढ़ना *paṛhnā*)
 マフア *madukam*
 豆スープ(にする) *dali* (借<ヒ दाल *dāl*)
 守る *horo*
 眉毛 *med pipini*
 迷う(道に) *ad*
 真夜中 *tala nida*

丸(い) *gol* (借<ヒ गोल *gol*)
 丸々 *goṭa*
 回る *biyur*
 満月 *puṛnima* (借<ヒ पूर्णिमा *pūrṇimā*)
 マンゴー *uli*
 真ん中 *tala*
 万年筆 *kalam* (借<ヒ कलम *qalam* <ア)

み

箕(み) *haṭa*[?]
 ミーティング *du<nu>b*
 見える *lelo*[?]
 磨く *heṅga*
 幹 *buṭa*
 右 *jom tī*
 未婚(の) *ḍiṅḍa*
 短い *huṛiṅ*
 水 *da*[?]
 水浴びする *rera, ḍebel*
 水が鼻に入る *sur*
 水瓶 *loṭa*
 水気をきる *hayad*
 水溜り *ḍoba*
 水壺 *caṭu*
 水をかきだす(魚を捕るために) *are*[?]
 水をかける *hirci*
 水を撒く(植物に) *paṭao* (借<ヒ पटना *paṭānā*)
)
 水をやる *pasir*
 店 *dukan* (借<ヒ दुकान *dukān* <ペ)
 溝を掘る *gara*

満たす *pere*[?]
 道 *hora*
 満ちる *pere*[?]
 三日 *api ma*
 見つける *nam*
 三つ *apia / api*
 三つずつ *ap<ap>ia*
 ミツバチ *hurum suku*
 ミツバチの巣 *daa*
 緑色 *gaded*
 南 *bo[?] jambaṛa*
 醜い *sadaṛa*
 身震いする *ekela*
 耳 *lutur*
 ミミズ *leṅḍad*
 耳の悪い人 *baira*
 明後日 *miyaṅ*
 明々後日 *indiri*[?]
 未来 *gapa kote*
 見る *lel*
 民族 *jati* (借<ヒ जाति *jāti*)
 皆 *soben*

む

迎える *darom*
 麦 *goom*
 剥く *hoyo*
 むくみ *mōō*

婿 *ara*
 蒸し焼きにする *rapa*[?]
 難しい *hambal*
 息子 *koṛa hon*

結ぶ *tol*
 娘 *kuři hon*
 六つ *turuiya / turi-*
 胸 *kuřam*
 村 *hatu*

無理矢理 *mořai te*
 ムンダ語 *muņđa*
 ムンダ人 *hořo*
 ムンダ人 *muņđa*

め

目 *med*
 姪 *geře*
 命令 *hukum* (借<ヒ हुक्म *hukma* <ア)
 目くそ *heñja?*
 めくれる(幕などが) *ořa?*

目覚める *eyon*
 目の不自由な人 *jala* (借<ヒ जाला *jālā*)
 目の前 *sanamañ*
 目をあける *arid*
 目を閉じる *japid*

も

毛髪 *ub*
 毛布 *kamaņa* (借<ヒ कंबल *kambal*)
 燃える *loo*
 木曜日 *birsipait* (借<ヒ बृहस्पतिवार *bṛhaspati-vār*)
 潜(もぐ)る *dumbui?*
 もぐり込んで隠れる *ugur*
 もし…としたら *honani*
 もし…ならば *redo*
 もしくは *kare*
 もしくは *ca*
 もたらす *au*
 持ち上げる *dondo*
 持ち去る *idi*
 持つ *ta're mena?*

持って行く *idi*
 持ってくる *agu*
 持って来る *au*
 もっと *ořo?, jadka*
 戻る *rura*
 物を載せる *ladi*
 粃殻 *heře*
 揉む *ota*
 木綿(もめん) *kadsom*
 腿(もも) *bulu*
 燃やす *jul*
 もらう *au*
 森 *bir*
 盛る *buru*
 漏れる *joro*

や

矢 *sar*
 ヤギ *merom*
 焼米 *taben*
 約 *leka*
 焼く(火にあぶって) *ata*
 野菜 *ařa?*

養う *asul*
 椰子の木 *kita*
 休み *cutti* (借<ヒ छुट्टी *chuttī*)
 休む *ruru*
 痩せた *nana*
 痩せる *usu?*

八つ *iraliya / iral*
 屋根 *sařima*
 屋根をふく *dab*
 破る *keca'*
 破れる *keca'*
 山 *buru*
 ヤマアラシ *jiki*

山焼きをする *jara*
 山の傾斜 *janar*
 止む *hoka*
 止める *hoka*
 槍 *barca* (借<ヒ बरचा *barcā*)
 軟らかい *lebe'*
 柔い *norom* (借<ヒ نرم *naram*)

ゆ

湯 *lolo da'*
 結納金 *gonon*
 誘拐する *arkid*
 夕方(になる) *ayub*
 友人 *gati*
 幽霊 *boŋga*
 雪 *ratañ*
 茹る *oyon*
 ゆっくり *māñi te*
 指 *kařu'*

指の先でつまむ *cu'*
 指輪 *mundam*
 弓 *a'*
 弓矢 *a' sar*
 夢(を見る) *kumu*
 揺らす *ekela*
 緩む *đilañ*
 緩める *đilañ*
 揺れる *ekela*

よ

夜明け(になる) *añ*
 良い *bes* (借<ヒ वेश *beś*)
 良い *bugi*
 良い *bugin*
 良い *maja*
 酔う *bul*
 容易(である) *rabal*
 用意する *samporo*
 要求する *ase/ asi*
 用事 *kami* (借<ヒ काम *kām*)
 曜日 *hulañ*
 よく切れる(ナイフなどの刃が) *leser*
 欲張り *jumbuři*
 欲望 *haya*
 横切る *parom*

横になる *giti'*
 横幅 *cakar*
 横笛 *rutu*
 よそう(ご飯を) *luu*
 四つ *upuniya /upun-*
 四つずつ *up<up>unia*
 呼ぶ *ra'*
 余分な *pura'*
 読む *parao* (借<ヒ पढ़ना *pařhnā*)
 嫁 *kimin*
 夜 *nida*
 喜ぶ *rasika*
 弱い *kamjor* (借<ヒ कमजोरा *kamzor* <べ)
 4 *upuniya /upun-*

ら

来年 *kalom*

ランプ *diya* (借<ヒ दीया *dīyā*)

り

理解する *bujaw* (借<ヒ बूझना *būjhnā*)

両方 *barankin*

犁耕(する) *sii*

料理 *isin basan*

リス *tuṛu*

料理 *maṇḍi utu*

両側 *baran sa?*

旅行(する) *honor*

両親 *eṅga-apu*

れ

霊 *boṅga*

煉瓦 *iṭa* (借<ヒ ईट *īṭ*)

恋愛(する) *dulaṛa*

ろ

労働 *nala*

ロバ *gada* (借<ヒ गधा *gadhā*)

6 *turuiya / turi-*

わ

和解する *raji* (借<ヒ राजी *rāzī* <ア)

私の弟 *bokoñ koṛa*

わかる *agam*

渡る *parom*

わかる *bujaw* (借<ヒ बूझना *būjhnā*)

罨(にかかる) *pase*

分かれる *biṅga*

鱈(ワニ) *tayan*

別れを告げる *bida* (借<ヒ बिदा *bidā*)

藁(ワラ) *busu?*

湧き出る *puṭi?*

笑い *landa*

脇の下 *gore gote*

笑う *landa*

分け前 *haṭin*

割る(卵を) *poa?*

わける *haṭin*

悪い *etka*

沸す *basan*

悪い前兆 *ere*

忘れる *riṛin*

割れる(ガラスなどが) *poa?*

私 *añ*

割れる *rapud*

私たち *alanì/ alin, abu/ ale*

碗 *dub(u)ri*

私の妹 *bokoñ kuṛi*

3 付録:ムンダ語の動植物語彙

はじめに

ムンダ人は周りの自然と共生しています。ムンダ世界を理解するためには、こうした植物や鳥、また動物たちの世界を理解する必要があります。この教本では、すでにムンダ語・日本語語彙集と日本語・ムンダ語語彙集を掲載していますが、ここでは簡単に、動植物語彙をまとめておきます。というのも、長田自身が関心を持ってきたことですし、今後動植物の文化的意味、つまりムンダ人たちはこうした動植物をどのように認識し、どんな意味を持たせてきたのかについて、それぞれの写真をつけて、百科事典風に本をまとめる予定にしています。この語彙表はそれぞれの項目について、ムンダ語のABC順で並べています。

また、読本ではムンダ歌謡を取り上げています。この歌謡には、これらの動植物語彙が頻繁に出てきます。また、歌謡では意味的にペアをなす語彙がありますが、動植物でもペアをなす語彙が多く見られます。それらを理解するためにも、ここで動植物語彙としてまとめる次第です。

ここに書かれている学名は、基本的に Encyclopedia Mundarica (EM) に掲載されたものですが、ずいぶんと古いもので、今の学名と合わないものも多くあります。そこで、この植物の学名については、植物に大変詳しい三浦勸一龍谷大学准教授にみていただきました。お名前をあげて感謝いたします。三浦さんによると、標準学名のサイトとして、以下があり、そのサイトに掲載されている学名に準拠して統一していただきました。

<http://www.worldfloraonline.org/>

ただし、三浦さんは実際の植物を見たわけではなく、EM (=Encyclopaedia Mundarica) の古い学名を手がかりに修正していただきました。EM の同定が間違っている可能性もあるので、その点は注意するようにとのアドバイスをいただきました。ありがとうございます。

なお、歌謡に謡われる動植物については、ムンダ語の名称の前に○をつけておいた。

3.1 Flora 植物

1. ○ *ambuṛu* [学名] *Spondias pinnata* (L.f.) Kurz [和名] アムラタマゴノキ [英語名] hog plum tree
2. ○ *aṇi* [学名] *Ficus semicordata* Buch.-Ham. ex Sm. [和名] [英語名] Drooping fig, Wedge-leaf fig
3. *aṅkoar* [学名] *Alangium salviifolium* [和名] ナガバウリノキ [英語名] Sage leaved alangium
4. ○ *aṭal* [学名] *Jasminum sambac* (L.) Aiton [和名] マツリカ [英語名] Arabian jasmine
5. *badcom* [学名] *Eulaliopsis binata* (Retz.) C.E.Hubb. [和名] ワタガヤ [英語名] Sabaigrass, Chinese alpine rush
6. ○ *bakaini* [学名] *Melia Azedarach*, Linn. [和名] センダン [英語名] chinaberry
7. ○ *bandu* [学名] *Spatholobus parviflorus* (Roxb. ex G.Don) Kuntze [和名] [英語名]
8. ○ *baraṅgu* [学名] *Trachyspermum roxburghianum* (DC.) Craib [和名] [英語名] wild celery
9. ○ *baru* [学名] *Schleichera oleosa* (Lour.) Merr. [和名] セイロンオーク [英語名] Malay lac tree, Ceylon oak tree

- 10 ○ *bare* [学名] *Ficus benghalensis* L. [和名] ベンガルボダイジュ [英語名] Banyan tree
11. ○ *buruju* [学名] *Bauhinia variegata* L. [和名] フイリソシンカ [英語名] mountain ebony, orchid tree
12. *curcu* [学名] *Casearia tomentosa*, Roxb. [和名] [英語名] Toothed Leaf Chilla
13. *dodari* [学名] *Ziziphus mauritiana* Lam. [和名] インドナツメ [英語名] Indian jujube
14. *ḍau* [学名] *Artocarpus lacucha* Buch.-Ham. [和名] ラクチパンノキ、リンゴパンノキ [英語名] monkey jack
15. *ḍoka* [学名] *Lannea coromandelica* (Houtt.) Merr. [和名] ウダノキ [英語名] Indian ash tree
16. ○ *edel* [学名] *Bombax ceiba* L. [和名] キワタ、インドキワタ [英語名] red silk cotton tree
17. ○ *golanci* [学名] *Plumeria rubra* L. [和名] インドソケイ [英語名] red frangipani
18. *haṛa* [学名] *Diospyros melanoxylon*, Roxb. [和名] ボンベイコクタン [英語名] Coromandel Ebony
19. *hatana*[?] [学名] *Terminalia tomentosa* Wight & Arn. [和名] クチナシミロバラン [英語名] Indian laurel
20. ○ *hesa*[?] [学名] *Ficus religiosa* L. [和名] インドボダイジュ [英語名] bo tree, bodhi tree
21. ○ *hesel* [学名] *Anogeissus latifolia* (Roxb. ex DC.) Wall. ex Guillem. & Perr. [和名] [英語名] button tree, axlewood
22. *hid* [学名] *Pterocarpus marsupium*, Royle [和名] [英語名] Indian Kino tree
23. *huṇḍur* [学名] *Wendlandia tinctoria*, D C. [和名] [英語名]
24. *huri* [学名] *Vitex Negundo*, Linn. [和名] クサニンジンボク [英語名] five-leaved chaste tree
25. ○ *jaṛa*
risa jaṛa [学名] *Jatropha gossypifolium*, Linn. [和名] アカバヤトロバ [英語名] Bellyache bush
kula jaṛa [学名] *Jatropha Curcas*, Linn. [和名] ナンヨウアブラギリ [英語名] Barbados nut
ara[?] *risa jaṛa* [学名] *Ricinus communis*, Linn. [和名] トウゴマ、ヒマ [英語名] castor bean
26. *jiṇi* [学名] *Crotalaria juncea* L. [和名] サンヘンブ [英語名] sunn hemp, Indian hemp
27. ○ *jojo* [学名] *Tamarindus indica* L. [和名] タマリンド [英語名] tamarind
28. ○ *kadal* [学名] *Musa acuminata* Colla [和名] バナナ [英語名] banana
29. ○ *kaṇṭara* [学名] *Artocarpus heterophyllus* Lam. [和名] パラミツ [英語名] jackfruit
30. ○ *karkata* [学名] *Zizyphus xylopyra*, Willd [和名] [英語名] jujube
31. ○ *kaṛaka* [学名] *Bridelia retusa*, Spreng [和名] [英語名]
32. *kasombar* [学名] *Gmelina arborca*, Linn. [和名] キダチヨウラク [英語名] Indian bulang
33. ○ *kita* [学名] *Phonex sylvestris* [和名] サトウヤツメヤシ [英語名] date palm tree
34. ○ *koronjo* [学名] *Pongamia pinnata* (L.) Pierre [和名] クロヨナ [英語名] Indian beech, pongam oil tree
35. ○ *kuda* [学名] *Syzygium cumini* (L.) Skeels [和名] ムラサキフトモモ [英語名] Java plum, black plum, jamun, jambolan plum

36. *kujuri* [学名] *Celastrus paniculatus* Willd. [和名] アツバマユミ [英語名] black oil plant, climbing staff tree, and intellect tree
37. ○ *kuṛumba* [学名] *Adina cordifolia* (Roxb.) Brandis [和名] ハルドゥ [英語名] yellow teak
38. *loa* [学名] *Ficus racemosa* L. [和名] フサナリイチジク [英語名] cluster fig
39. ○ *ludam* [学名] *Symplocos racemosa*, Roxb. [和名] [英語名] Lodhtree
40. ○ *lupuñi* [学名] *Terminalia belerica*, Roxb. [和名] セイタカミロバラン [英語名] Beach-almond, Beleric myrobalan
41. ○ *madukam* [学名] *Madhuca longifolia* var. *latifolia* (Roxb.) A.Chev. [和名] マフア [英語名] mahua
42. ○ *merla* [学名] *Flacourtia indica* (Burm.f.) Merr. [和名] ラモンチー [英語名] Batoko plum, Louvi, Madagascar plum, Governor's plum, Ramontchi, India plum
43. ○ *muñga* [学名] *Moringa oleifera* Lam. [和名] ワサビノキ [英語名] horse radish tree
44. ○ *murud* [学名] *Butea monosperma* (Lam.) Taub. [和名] ハナモツヤクノキ [英語名] frame of forest
- murūam* [学名] *Dalbergia sissoo*, Roxb. [和名] シツソノキ [英語名] Indian Rosewood
45. *nimbu* [学名] *Citrus × latifolia* (Yu.Tanaka) Yu.Tanaka [和名] ライム [英語名] lime
46. ○ *palañdu* [学名] *Combretum decandrum*, Roxb. [和名] [英語名] white mangrove
47. *paṛasu* [学名] *Cleistanthus collinus* (Roxb.) Benth. ex Hook.f. [和名] [英語名] garari
48. *poṭo'* [学名] *Catunaregam spinosa* Thunb. [和名] ハリザクロ [英語名]
49. *pusuṭu* [学名] *Lantana camara* L. [和名] ランタナ・シチヘンゲ [英語名] Spanish Flag, Common lantana
50. ○ *puṭukal* [学名] *Ficus virens* Aiton [和名] バンヤンイチジク [英語名] White fig
51. *reñge' banam* [学名] *Oroxylon indicum*, Vent. [和名] モクコチョウ [英語名] Indian Trumpetflower Seed
52. ○ *riñi* [学名] *Casearia graveolens*, Dalz. [和名] [英語名]
53. *rola* [学名] *Terminalia chebula* Retz. [和名] ミロバラン [英語名] Chebulic Myrobalan
54. *ruṛuñi* [学名] *Bauhinia vahlii* Wight & Arn. [和名] [英語名] Maloo Creeper, bauhinia climber, camel's foot climber
55. ○ *ruta* [学名] *Desmodium oojainense* (Roxb.) H.Ohashi [和名] [英語名]
56. *saga'* [学名] *Chrysopogon aciculatus* (Retz.) Trin. [和名] オキナワミチシバ [英語名]
57. *salga* [学名] *Boswellia serrata*, Roxb. [和名] フランキンセンス [英語名] Indian frankincense
58. ○ *sali* [学名] *Morinda coreia* Buch.-Ham. [和名] [英語名] Wild Indian Mulberry
59. ○ *sarjom* [学名] *Shorea robusta* Gaertn. [和名] サラソウジュ、サラノキ [英語名] sal
60. ○ *sekere'* [学名] *Lagerstroemia parviflora*, Roxb. [和名] [英語名]
61. ○ *sinju* [学名] *Aegle marmelos* (L.) Corrêa [和名] ベルノキ [英語名] Indian bael, Bengal fruit
62. ○ *sisi* [学名] *Dalbergia sissoo* DC. [和名] シツソノキ [英語名] North Indian Rosewood
63. ○ *soso* [学名] *Semecarpus anacardium* L.f. [和名] ビラワ [英語名] Oriental cashew, marking-nut tree

64. ○ *tarob* [学名] *Buchanania cochinchinensis* (Lour.) M.R.Almeida [和名] ロネホインド
ウミソヤ [英語名] almondette tree
65. *tele'* [学名] *Sterculia urens*, Roxb. [和名] カラヤガム [英語名] Indian-tragacanth
66. ○ *tilae* [学名] *Wendlandia exserta*, D.C. [和名] [英語名]
67. ○ *tiril* [学名] *Diospyros malabarica* (Desr.) Kostel. [和名] ベンガルガキ (インドガキ)
[英語名] Malabar ebony, wild mangosteen, river ebony
68. *tūt* [学名] *Morus indica*, Linn. [和名] クワ [英語名] Mulberry
69. ○ *uli* [学名] *Mangifera indica* L. [和名] マンゴー [英語名] mango
70. ○ *upal baa* [学名] *Nymphaea lotus* [和名] スイレン [英語名] lotus

3.2 栽培植物 Cultivated plant

穀類 Cereals

1. ○ *baba* [学名] *Oryza sativa* L. [和名] イネ [英語名] rice
2. ○ *beṅḍe* [学名] *Panicum antidotale* [和名] [英語名] a kind of millet
3. ○ *gaṅgae* [学名] *Sorghum bicolor* (L.) Moench [和名] モロコシ [英語名] Sorghum, grain
Sorghum
4. *gom* [学名] *Triticum aestivum* L. [和名] コムギ [英語名] wheat
5. *guṛulu* [学名] *Panicum sumatrense* Roth [和名] サマイ [英語名] little millet
6. *jane* [学名] *Paspalum scrobiculatum* L. [和名] コドミレット [英語名] kodra millet
7. *jonra* [学名] *Zea mays* L. [和名] トウモロコシ [英語名] maize
8. ○ *kode* [学名] *Eleusine coracana* (L.) Gaertn. [和名] シコクビエ [英語名] finger millet
9. *iri* [学名] *Echinochloa frumentacea* Link [和名] インドビエ [英語名] barnyard millet
10. *tuṭi* [学名] *Pennisetum glaucum* (L.) R.Br. [和名] トウジンビエ [英語名] pearl millet, bulrush
millet, spiked millet

豆類 Pulse

1. *cana* [学名] *Cicer arietinum* L. [和名] ヒヨコマメ [英語名] chickpea
2. *ḍaṅbuḍi* [学名] *Vigna unguiculata* (L.) Walp [和名] ハタササゲ [英語名] catjan
3. *hende rambara* [学名] *Vigna mungo* (L.) Hepper [和名] ケツルアズキ [英語名] black gram
4. *hoṛe'* [学名] *Macrotyloma uniflorum* (Lam.) Verdc. [和名] ホースグラム [英語名] horse
gram
5. *kansari* [学名] *Lathyrus sativus* L. [和名] ガラスマメ [英語名] grass pea, chickling vetch
6. ○ *manal* [学名] *Phaseolus vulgaris*, Linn. [和名] インゲンマメ [英語名] common bean
7. ○ *masuri* [学名] *Lens culinaris* Medik. [和名] ヒラマメ [英語名] lentil
8. ○ *rambara* [学名] *Vigna radiata* (L.) R.Wilczek [和名] リョクトウ [英語名] green gram,
mung bean
9. ○ *raari* [学名] *Cajanus cajan* (L.) Millsp. [和名] キマメ [英語名] pigeon pea
10. *sutri* [学名] *Vigna aconitifolia* (Jacq.) Marechal [和名] モスビーン [英語名] moth bean, mat

bean

根菜類およびその他の栽培作物 Roots and tubers, others

1. *ade* [学名] *Zingiber officinale* Roscoe [和名] ショウガ [英語名] ginger
2. *alu* [学名] *Solanum tuberosum* L. [和名] ジャガイモ [英語名] potato
3. *banda kobi* [学名] *Brassica oleracea* L. var. *capitata* L. [和名] キャベツ [英語名] cabbage
4. *bayan saŋga* [学名] *Dioscorea pentaphylla*, Linn. [和名] アケビドコロ [英語名] fiveleaf yam
5. ○ *beŋgaŋa* [学名] *Solanum melongena* L. [和名] ナス [英語名] brinjal, egg plant
6. *buru saŋga* [学名] *Dioscorea* sp. [和名] [英語名] wild yam
7. *daniya* [学名] *Coriandrum sativum* L. [和名] コリアンダー [英語名] coriander
8. ○ *doŋo* [学名] *Luffa cylindrica* (L.) M.Roem. [和名] ヘチマ [英語名] Luffa
9. *gajar* [学名] *Daucus carota* L. [和名] ニンジン [英語名] carrot
10. *golbaŋa, jolbata* [学名] *Solanum lycopersicum* L. [和名] トマト [英語名] tomato
11. *haŋad boo'* [学名] *Dioscorea bulbifera*, Linn. [和名] ニガカシュウ [英語名] Aerial yam
12. *hasear saŋga* [学名] *Dioscorea pentaphylla*, Linn. [和名] アケビドコロ [英語名] fiveleaf yam
13. ○ *jiŋga* [学名] *Luffa acutangula* (L.) Roxb. [和名] トカドヘチマ [英語名] sponge gourd
14. *jojo ara'* [学名] *Hibiscus sabdariffa* L. [和名] ロゼル [英語名] roselle, Jamaica sorrel, Guinea sorrel, Florida cranberry
15. ○ *kaeta* [学名] *Trichosanthes cucumerina* L. var. *anguina* (L.) Haines [和名] ヘビウリ [英語名] snake gourd
16. ○ *kakaru* [学名] *Cucurbita* spp. [和名] カボチャ類 [英語名] summer squash, marrow pumpkin
17. *karla* [学名] *Momordica charantia* L. [和名] ニガウリ [英語0.名] balsam pear
18. ○ *kundururu* [学名] *Coccinia grandis* (L.) Voigt [和名] ヤサイカラスウリ [英語名] ivy gourd
19. ○ *mani* [学名] *Brassica napus* L. [和名] セイヨウアブラナ [英語名] rape, colza
20. ○ *marci* [学名] *Piper nigrum* L. [和名] トウガラシ [英語名] chili
21. *murai* [学名] *Raphanus sativus* L. [和名] ダイコン [英語名] radish
22. *ool* [学名] *Amorphophallus campanulatus*, Bl. [和名] ゴウコンニャク [英語名] Elephant yam
23. ○ *piyaju* [学名] *Allium cepa* L. [和名] タマネギ [英語名] onion
24. *ramjiŋga* [学名] *Abelmoschus esculentus* (L.) Moench [和名] オクラ [英語名] okura, lady's fingers
25. ○ *rasuŋi* [学名] *Allium sativum* L. [和名] ニンニク [英語名] garlic
26. ○ *saŋga* [学名] *Ipomoea batatas* (L.) Lam. [和名] サツマイモ [英語名] sweet potato
27. *salgom* [学名] *Brassica rapa* L. [和名] カブ [英語名] turnip
28. ○ *saru* [学名] *Colocasia esculenta* (L.) Schott [和名] サトイモ [英語名] taro

29. ○ *sasai* [学名] *Curcuma longa* L. [和名] ターメリック [英語名] turmeric
 30. ○ *suku* [学名] *Lagenaria siceraria* (Molina) Standl. [和名] ヒョウタン [英語名] bottle gourd
 31. *surguja* [学名] *Guizotia abyssinica* (L.f.) Cass. [和名] ニガーシード、ヌグ [英語名] niger seed
 32. ○ *tayar* [学名] *Cucumis sativus* L. [和名] キュウリ [英語名] cucumber

3.3 山菜

1. *bir hoře*? [学名] *Cajanus scarabaeoides* (L.) Thouars [和名] ビロードヒメクズ [英語名]
 2. *bir kunduru* [学名] *Solena amplexicaulis* (Lam.) Gandhi [和名] テングスズメウリ [英語名]
 3. *bir mad* [学名] *Dendrocalamus strictus* (Roxb.) Nees [和名] インド実竹 [英語名] solid bamboo, male bamboo
 4. ○ *cakoṅḍa aṛa*? [学名] *Senna tora* (L.) Roxb. [和名] エビスグサ、ロッカクソウ [英語名] Oriental senna, sickle senna
 5. *carmani aṛa*? [学名] *Cleome monophylla* L. [和名] [英語名]
 6. *catom aṛa*? [学名] *Marsilea minuta* L. [和名] デンジソウ近縁種 [英語名] pepperwort
 7. *ciriṅgid aṛa*? [学名] *Cleome viscosa* L. [和名] ヒメフウチョウソウ [英語名]
 8. *coke aṛa*? [学名] *Centella asiatica* (L.) Urb. [和名] ツボクサ [英語名] Indian pennywort
 9. *eṭeṭeod aṛa*? [学名] *Launaea acaulis* (Roxb.) Bab. ex Kerr [和名] [英語名]
 10. *garuṅḍi aṛa*? [学名] *Alternanthera sessilis* (L.) R.Br. ex DC. [和名] ツルノゲイトウ [英語名]
 11. *goma aṛa*?, *sowan aṛa*? [学名] *Leucas decemdentata* (Willd.) Sm. [和名] ヤンバルツルハツカ [英語名]
 12. *goṛa aṛa*? [学名] *Persicaria barbata* (L.) H.Hara [和名] ケダテ [英語名]
 13. *hanjed* [学名] *Solanum torvum*, Schwartz [和名] [英語名] turkey berry, devil's fig, pea eggplant, platebrush, susumber
 14. *hasa aṛa*? [学名] *Dioliptera michranthus*, Nees. [和名] [英語名]
 15. *hocen* [学名] *Momordica dioica* Roxb. ex Willd. [和名] [英語名] Spine gourd
 16. *janum lepel aṛa*? [学名] *Amarantus spinosus* L. [和名] ハリビユ [英語名] thorny pigweed
 17. *karmi aṛa*? [学名] *Ipomoea aquatica* Forssk. [和名] ヨウサイ、エンサイ [英語名]
 18. *kau aṛa*? [学名] *Justicia quinqueangularis* K.D.Koenig ex Roxb. [和名] [英語名]
 19. ○ *lepel aṛa*? [学名] *Amaranthus blitum* L. subsp. *oleraceus* (L.) Costea [和名] イヌビユ [英語名]
 20. *losod aṛa*? [学名] *Limnophila indica* (L.) Druce [和名] タイワンキクモ [英語名]
 21. *mad aṛa*? [学名] *Cyanotis cristata*, Schult. [和名] [英語名]
 22. *maṭa aṛa*? [学名] *Antidesma acidum* Retz. [和名] コミカンソウ科ヤマヒハツ属 [英語名]

23. *merom med aṛa*[?] [学名] *Scoparia dulcis* L. [和名] セイタカカナビキノウ [英語名] sweet broomweed
24. *mucuri aṛa*[?] [学名] *Limnophila repens* (Benth.) Benth. [和名] [英語名]
25. *mui*[?] *aṛa*[?] [学名] *Polygonum plebeium* R.Br. [和名] ヒメミチヤナギ [英語名] common knotweed
26. *rimbil aṛa*[?], *soṛe*[?] *aṛa*[?] [学名] *Olex scandens* Roxb. [和名] [英語名]
27. *serali aṛa*[?] [学名] *Meyna spinosa* Roxb. ex Link [和名] [英語名]
28. *siṅgaṛa*[?] *aṛa*[?] [学名] *Bauhinia purpurea* [和名] ウスベニハカマノキ [英語名] orchid tree, camels foot, butterfly tree
29. ○ *sirgiṭi aṛa*[?] [学名] *Celosia argentea* L. [和名] ノゲイトウ [英語名]
30. *ṭokod* [学名] *Solanum virginianum* L. [和名] [英語名] Surattense nightshade, yellow-fruit nightshade, yellow-berried nightshade,
31. *uṇḍupu aṛa*[?] [学名] *Commelina benghalensis* L. [和名] マルバツユクサ [英語名]

キノコ類

1. *ud* 一般的に地面に生えるキノコ
 2. *poga* 木に生えるキノコ
 3. *cokerote* [学名] *Lycoperdon* sp. [和名] タマノウタケ
 4. ○ *puṭukui*[?] 菌類 ショウロ
 5. *geṇe* 菌類 トリュフ
-
1. *baṛae ud*
 2. *bunum ud*
 3. *busu*[?] *ud*
 4. *daka ud*
 5. *dasain ud*
 6. *gitil ud*
 7. *guri*[?] *ud*
 8. *hati kaṭa ud*
 9. *indi ud*
 10. *kōyōd sakam ud*
 11. *leceṛ ud*
 12. *pataṛa ud*
 13. *pataka ud*
 14. *piṛi ud*
 15. *saga*[?] *ud*
 16. *sim ḍali ud*
 17. *tor maṛa ud*
-
1. *kasombar poga*

2. *mad poga*
3. *murud poga*
4. *sarjom poga*

3.4 動物語彙

家畜を含む哺乳類、両生類、は虫類など

1. *januwar* 一般的に「動物」を指す。
2. ○ *huri*, (*banā*) [学名] *Merlusus ursinus* [和名] クマ [英語名] the Sloth bear
3. ○ *biñ* [学名] [和名] ヘビ [英語名] snake
4. *cundi* [学名] *Crocidura mtosura* [和名] トガリネズミ [英語名] Rat-tailed shrew
5. ○ *cutu* [学名] [和名] ネズミ [英語名] mouse
6. *gañgae ata* [学名] [和名] [英語名]
7. ○ *guru* [学名] *Nesocia bengalensis* [和名] [英語名] the Common Indian field-rat
8. ○ *horo* [和名] カメ [英語名] tortoise
da' horo [学名] *Trinonyx* sp. [和名] [英語名] black river tortoise
piri horo [学名] *Testudo elegans* (*Geochelone elegans*) [和名] インドホシガメ [英語名] land tortoise
9. ○ *jiki* [学名] *Hystrix indica* [和名] インドタテガミヤマアラシ [英語名] Indian crested porcupine
10. ○ *kaṭea* [学名] *Mus rattus* [和名] イエネズミ [英語名] House Rat
11. *keṛa* [学名] [和名] スイギュウ [英語名] buffalo
12. ○ *kula* [学名] [和名] トラ [英語名] tiger
13. ○ *kulae* [学名] [和名] ウサギ [英語名] hare
14. ○ *merom* [学名] *Capra hircus* [和名] ヤギ [英語名] goat
15. ○ *miñḍi* [学名] *Ovis aries* [和名] ヒツジ [英語名] sheep
16. ○ *niura* [学名] *Herpestes mungo* [和名] マングース [英語名] Moongoose
17. ○ *pusi* [学名] *Felis domestica* [和名] ネコ [英語名] domesticated cat
18. ○ *rakaṛa-kambad* [学名] *Chamaeleo vulgaris* [和名] カメレオン [英語名] Common Chameleon
19. *ruñḍa* [学名] *Felis domestica* or *Felis Catus* [和名] ネコ [英語名] cat
20. ○ *sadom* [学名] [和名] ウマ [英語名] horse
21. ○ *sega* [学名] *Sciurus* sp. [和名] リス [英語名] brown squirrel
22. *seta* [学名] [和名] イヌ [英語名] dog
23. ○ *sukri* [学名] [和名] ブタ [英語名] pig
24. ○ *tayan* [学名] *Crocodilus palustris* [和名] ワニ [英語名] crocodile
25. *torod* [学名] *Varanus* sp. [和名] オオトカゲ [英語名] Monitor
26. ○ *tuṛu* [学名] *Sciurus Palmarum* (*Funambulus Palmarum*) [和名] インドシマヤシリス [英語名] Indian Palm squirrel

27. ○ *tuyu* [学名] [和名] ジャッカル [英語名] jackal
 28. ○ *teṭeṅga* [学名] [和名] トカゲ [英語名] lizard
 29. ○ *uri'* [学名] [和名] ウシ [英語名] bullock or cow

昆虫類

1. ○ *buibundi* [学名] *Trombidium holosericeum* [和名] アカケダニ [英語名] Scarlet Velvet Mite
 2. *cāyā* [学名] *Nezara viridula* [和名] ミナミアオカメムシ [英語名] Southern Green Shield Bug
 3. ○ *dunbur* [学名] *Apis florea* [和名] [英語名] a small kind of bee
 4. *gegetereñ* [学名] *Anaploidesmus species* [和名] ヤスデ [英語名]
 5. ○ *hapad* [学名] *Hirudo medicinalis* [和名] 医用ビル [英語名]
 6. *hau* [学名] *Oecophylla smaragdina* [和名] ツムギアリ [英語名] tailor ant
 7. ○ *hurmusuku* [学名] *Apis indica* [和名] インドミツバチ [英語名] Indian bees
 8. ○ *karakom marmar* [学名] [和名] サソリ [英語名] scorpion
 9. ○ *leṅḍad* [学名] *Lumbricus sp.* [和名] ミミズ [英語名] Earthworm
 10. ○ *liṅḍuñ* [学名] *Spirostreptus sp.* [和名] ヒキツリヤスデ [英語名] Rusty Millipede
 11. ○ *luman* [学名] *Antheraea mylitta* [和名] タサールサン(カイコ) [英語名] Tussor silk-worm
 12. ○ *mui'* [学名] [和名] アリ [英語名] ant
 13. ○ *murmuni* [学名] [和名] カ [英語名] a kind of mosquit
 14. ○ *nili* [学名] *Apis dorsata* [和名] オオミツバチ [英語名] Giant honey-bee
 15. *nindir* [学名] *Termix voratrix* [和名] シロアリ [英語名] the White Ant
 16. *picu* [学名] *Tabanus sp.* [和名] アブ [英語名] breeze-fly
 17. *pudki* [学名] [和名] [英語名] sandfly
 18. ○ *reñ* [学名] *Platypleura octoputtata* [和名] セミ [英語名] cicada
 19. ○ *roko* [学名] [和名] ハエ [英語名] fly
 20. *ruin* [学名] *Lytta sp.* [和名] [英語名] black-blue beetle
 21. *seṅgel marmar* [学名] [和名] オオムカデ [英語名] a brown-reddish scolopendra
 22. ○ *sikiñi* [学名] [和名] カ [英語名] gnat or mosquito
 23. *siku* [学名] [和名] シラミ [英語名] any kind of lice
boo' siku [学名] *Pediculus capitis* [和名] シラミ [英語名] the head-louse
lija' siku [学名] *Pediculus vestimenti* [和名] シラミ [英語名] the body-louse
ceped siku [学名] *Phthirus inguinalis* [和名] シラミ [英語名] the crab-louse
 24. ○ *sonorod* [学名] [和名] バッタ [英語名] grass hopper
 25. *tasad naua* [学名] [和名] [英語名] stick-insect
 26. ○ *terom* [学名] [和名] [英語名] bee (smaller than *dunbur*)
 27. *tete* [学名] *Gryllus compestris* [和名] コオロギ [英語名] field cricket
 28. ○ *tiki* [学名] [和名] ダニ [英語名] tick
 29. ○ *tumbuli* [学名] [和名] スズメバチ [英語名] wasp

30. ○ *uru* [学名] [和名] カブトムシ [英語名] beetle

魚類・甲殻類など

1. *bale hai*
2. *biṅa hai*
3. *biñ hai*
4. ○ *budu hai*
5. ○ *cirpi hai*
6. ○ *coṛa hai*
7. ○ *geñger hai*
8. ○ *ica' hai* エビ
9. *kakara hai*
10. ○ *karakom* カニ
11. *kucila hai*
12. ○ *liṅḍa hai*
13. *mad sakam hai*
14. *puṭu hai*
15. ○ *suṇi hai*
16. *suṭi* 貝

鳥類

1. ○ *agamari* [学名] [和名] [英語名] a species of wading birds , about the size of geese, or, maybe, the common crane.
2. ○ *asakal* [学名] *Galloperdrix lunulatus*. [和名] [英語名] painted spur-fowl
3. ○ *besera* [学名] *Accipiter nisus* [和名] ハイタカ [英語名] Sparrow Hawk
4. *bir sim* [学名] *Gallus ferrugineus* [和名] ヤブニワトリ [英語名] red jungle-fowl
5. ○ *boco* [学名] *Oriolus melanophalus* [和名] [英語名] Golden Oriole
6. ○ *caṛu* [学名] [和名] [英語名] Weaver bird
7. ○ *citri* [学名] *Ortygornis pondicerianus* [和名] [英語名] grey partridge
8. ○ *didi*
saṅḍi didi [学名] *Otogyps calvus* [和名] ミミハゲワシ [英語名] the Indian Kig vulture
eṅga didi [学名] *Pseuda gyps bengalensis* [和名] ベンガルハゲワシ [英語名] the White-backed Vulture
9. ○ *dundu* [学名] *Bubo bengalensis* [和名] ミナミワシミミズク [英語名] Indian Eagle Owl
10. *deḍeb* [学名] [和名] スズメ [英語名] cock sparrow
11. ○ *ḍimcua'*
hende ḍimcua' [学名] *Dicrurus macrocercus* [和名] オウチュウ [英語名] King-Crow, drongo
suam ḍimcua' [学名] *Phyllonius Jerdoni* [和名] [英語名] Green Bulbul
buru ḍimcua' [学名] [和名] [英語名] the White-breasted King-Crow

- maran̄ ñimcua*[?] [学名] *Surniculus lugubris* [和名] オウチュウカッコウ [英語名] Drongo-Cuckoo
12. *dur* [学名] *Turnix taigoo* (*Turnix suscitator*) [和名] ミフウズラ [英語名] Indian bustard quail
13. *eṭeteod* [学名] *Sareogrammus indicus* [和名] [英語名] the Redwattled Lapwing
14. *geḍe* [学名] *Anas asiatica* [和名] アヒル [英語名] domesticated duck
15. *gereā* [学名] *Perdica asiatica* [和名] ヤブウズラ [英語名] jungle bush quail
16. *gorjonead* [学名] *Passer indicus* [和名] イエスズメ [英語名] common Indian sparrow
17. *hapu*[?] [学名] *Caprimulgus monticolus* [和名] タイワンヨタカ [英語名] the Nightjar
18. ○ *heṇe*[?] [学名] *Cypselus affinis* (*Apus affinis*) [和名] ニシヒメアマツバメ [英語名] Little Swift
19. *huara* [学名] *Crocopus phoenicopterus* [和名] キアシアオバト [英語名] Bengal Green-pigeon
20. *jiu* [学名] *Crateropus canorus* (*Argya striata*) [和名] ツチイロヤブチメドリ [英語名] seven-sisters, jungle-babblers
21. *jugi ceṇe* [学名] *Arachnechthra asiatica* [和名] [英語名] the purple Honeysucker or Sunbird
22. ○ *kañki* [学名] *Tantalus leucocephalus* (*Mycteria leucocephala*) [和名] インドトキコウ [英語名] Painted Stork
23. ○ *kau* [学名] *Corvus splendens* [和名] イエガラス [英語名] the House Crow
24. ○ *kerkeṭa* [学名] *Lanius schach erythronotus/caniceps* [和名] タカサゴモズ [英語名] Long-tailed Shrike
25. *keyad* [学名] *Palaeornia torquatus* (*Psittacula torguata*) [和名] [英語名] Rose-ringed Paroquet
26. *kikir* [学名] *Halcyon smyrnensis* [和名] アオショウビン [英語名] White-throated Kingfisher
27. ○ *kiñkoṛo*[?] [学名] *Molpastes pallidus* [和名] シリアカヒヨドリ [英語名] Red-vented Bulbul
28. ○ *ko*[?] [学名] *Bubulcus coromandus* [和名] アマサギ [英語名] Eastern Cattle Egret
29. *kokor* [学名] *Athene brama* [和名] インドコキンメフクロウ [英語名] spotted Owlet
30. *kud ceṇe* [学名] *Xantholaema haematocephala* (*Psilopogon haemacephalus*) [和名] ムネアカゴシキドリ [英語名] coppersmith
31. ○ *kuṛid* [学名] *Milvus govinda* (*Milvus migrans*) [和名] トビ [英語名] the Kite
32. ○ *lañ ceṇe* [学名] *Terpsiphone Paradisi* [和名] カワリサンコウチョウ [英語名] the Indian Paradise, Fly-catcher
33. ○ *lipi* [学名] *Alauda gulgula* [和名] タイワンヒバリ [英語名] Oriental skylark
34. *loṭob* [学名] *Thamnobia cambaiensis* [和名] [英語名] the Robin
35. ○ *maino* [学名] *Acridotheres tristis* [和名] インドハッカ [英語名] common myna
(1) *muṇḍa maino* (2) *jerle maino* (3) *pūī maino* (4) *salu maino* (5) *ṭurki maino*
36. ○ *mara*[?] [学名] *Pavo cristatus* [和名] インドクジャク [英語名] the Common Peacock
37. ○ *piṛiud* [学名] [和名] [英語名] a passerine bird, smaller than sparrow.
38. ○ *putam* a dove
(1) *hisir putam* [学名] *Aenopopelia tranquebarica* [和名] [英語名] the Red-winged Dove
(2) *ṭurki putam* [学名] *Turtur cambayensis* [和名] [英語名] the Little Brown Dove


- (3) *paṅḍu putam* [学名] *Turtur risorius* [和名] [英語名] the Ring Dove
- (4) *sereṅ putam* [学名] *Turtur Suratensis* [和名] [英語名] the Spotted Dove
- (5) *garuru putam* [学名] [和名] [英語名] a grey dove as large as a pigeon
39. *raja baa ceṅe* [学名] *Pericrocotus peregrinus* [和名] コサンショウクイ [英語名] the little minivet
40. *rauri* [学名] *Rhipidura albifrontata* [和名] ハイイロオウギビタキ [英語名] the white-browed Fanrail Fly-catcher
41. *sakam tukui' ceṅe* [学名] *Orthotomus sutorius* [和名] オナガサイホウチョウ [英語名] the Tailor-bird
42. ○ *seroṅo* [学名] *Ciconia alba*; *Ciconia nigra* [和名] シュバシコウ [英語名] White Stork
43. ○ *sim* [学名] *Gallus domesticus* [和名] ニワトリ [英語名] the barn-yard or ordinary fowl
44. ○ *suṛiam* [学名] [和名] [英語名] a flower-sucking bird
45. ○ *toau ceṅe* [学名] [和名] [英語名] the koel bird
46. *ṭirum ceṅe* [学名] [和名] [英語名] bee eating bird

2021 年度言語研修「ムンダ語」研修テキスト
夏期言語研修ムンダ語教本

ILCAA Intensive Language Course 2021 “Munda” Textbook
Course in Mundari

2022(令和4)年3月31日 第1版発行

著 者 長田俊樹・Madhu Purti

発 行 東京外国語大学
アジア・アフリカ言語文化研究所
 〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1
TEL. 042-330-5600
<https://publication.aa-ken.jp/>

© 2022 OSADA Toshiki & Madhu Purti

ISBN 978-4-86337-370-9

この作品は PDF フォーマットによる電子出版物として刊行されました。この作品は
クリエイティブ・コモンズ表示-非営利 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。



<http://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/>